

# 修士學位論文

題名

強い構造化理論に基づく新世代農民工のライフスタイルについて  
の研究—深圳市龍華新区の「三和ゴッド」を例として

頁1～ 97頁

指導教員 丹野清人

2022年 1月 11日提出

人文科学研究科 社会行動学専攻

学修番号 20810105

氏名 周稷陽

## 目次

はじめに.....	1
序論.....	2
i、研究背景.....	2
ii、問題意識と研究目的.....	2
iii、本稿の構成.....	3
第一章 先行研究.....	5
1.1 新世代農民工に関する先行研究.....	5
1.1.1 「農民工」という言葉の定義.....	5
1.1.2 新世代農民工の特徴.....	5
1.1.3 新世代農民工の研究の分類.....	6
1.2 ライフスタイルに関する先行研究.....	8
1.2.1 ヴェーバーとベェブレンからの端緒.....	8
1.2.2 ライフスタイルに関する研究の発展.....	10
1.2.3 ライフスタイル類型学の登場.....	10
1.3 新世代農民工のライフスタイルに関する研究.....	11
1.4 日本の寄せ場に関する研究.....	12
1.4.1 「寄せ場」の概念の定義.....	13
1.4.2 スラム研究の視座.....	13
1.4.3 貧困研究の視座.....	14
1.4.4 差別研究の視座.....	15
1.5 先行研究のまとめ.....	15
第二章 理論の枠組み.....	17
2.1 ギデンズの構造化理論.....	17
2.2 強い構造化理論.....	18
2.2.1 歴史的・社会的強制力を受けた「位置-実践」のネットワーク.....	19

2.2.2	構造化のサイクル.....	20
2.2.3	強い構造化理論のまとめ.....	22
2.3	強い構造化理論と本研究.....	22
2.4	調査概要.....	25
2.4.1	研究対象.....	25
2.4.2	研究方法.....	26
第三章	行為としてのライフスタイル.....	28
3.1	仕事.....	28
3.1.1	日雇い仕事.....	28
3.1.2	仲介.....	36
3.1.3	本節の議論.....	41
3.2	宿泊.....	41
3.2.1	安宿.....	41
3.2.2	「無料」の宿泊.....	48
3.2.3	本節の議論.....	52
3.3	レジャー.....	52
3.3.1	ネットカフェ.....	52
3.3.2	宝くじとギャンブル.....	57
3.3.3	本節の議論.....	61
第四章	外部構造.....	61
4.1	深圳市の概況.....	62
4.1.1	グローバル・バリュー・チェーンの中の「世界の工場」.....	62
4.1.2	「移民都市」としての深圳.....	64
4.1.3	深圳市の戸籍制度と戸籍制度による格差.....	65
4.1.4	気候のよい都市.....	67
4.2	三和人材市場の歴史の流れ.....	68
4.2.1	民間職業紹介事業の出現とその歴史の背景.....	68

4.2.2	都市の離島としての城中村.....	70
4.2.3	産業集積による三和人材市場の発展.....	71
4.2.4	経済危機下の三和人材市場.....	73
4.2.5	本節の議論.....	75
第五章	内部構造.....	76
5.1	新世代農民工の汎用的性向.....	76
5.1.1	ハビトゥスと「位置-実践」.....	76
5.1.2	職業観の影響.....	78
5.1.3	交友関係の影響.....	79
5.1.4	本節の議論.....	80
5.2	新世代農民工の接続特定力.....	81
5.2.1	外部構造と内部構造の間の橋.....	81
5.2.2	どうやって三和で仕事を探すのか.....	82
5.2.3	どうやって三和を離れるのか.....	85
第六章	結果.....	87
6.1	「洞察」と不平等の再生産.....	87
6.2	加速化の社会に対するライフスタイルとしての抵抗.....	89
謝辞	.....	93
参考文献	.....	94
1.	中国語資料.....	94
2.	日本語資料.....	94
3.	英語資料.....	96

## はじめに

本研究は、「新世代農民工」の中で今注目を浴びている「三和ゴッド」<sup>1</sup>を分析対象として強い構造化理論に新世代農民工のライフスタイルを解明することを目的とする。深圳市<sup>2</sup>はもともと、香港に隣接する経済特区として整備された新しい都市で、ここ40年間の中国経済の発展を象徴する場所である。また同市は、グローバル・バリュー・チェーンの発展に伴い、深圳市の「世界の工場」としてのグローバル化の中における地位も高まっている。2017年GDPは香港を抜き、中国本土では上海、北京に次ぐ第3位、国家規模ではマレーシアやフィリピンと同程度である。

しかし、深圳市の龍華新区の北部郊外の一帯には、広大な工場地帯とそれに付随する巨大なドヤ街が広がっている。その中心地となっているのが、日雇労働者の雇用仲介市場がある龍華新区の「三和人力市場」周辺の一帯である。三和人力市場の付近には、製造業の工場が並び、路上には臨時労働者や失業者、ヤミの職業仲介業者などがあふれている。いわば、日本で見られる「日雇い労働者の町」の中国版とでも言うべき地域である。三和で生きる労働者たちは多くが20～30代の「新世代農民工」だ。「1日働けば、3日遊べる」を合言葉にギャンブルや性風俗・オンラインゲームなどに日銭をつぎ込んで暮らしている彼らは、ドヤ街で低コストの毎日を送っている。オンラインゲームで遊び続けるために日雇い労働でわずかなカネを稼ぎ、数日遊んでからまた日雇い仕事に戻り、また新しい日雇い仕事を探す。また、三和一带の物価は現代中国としては異常なほど安く、都市市民が暮らす深圳市中心部の5分の1～10分の1程度である。例えば、ヤミ営業の安宿が1泊8～30元（約130～500円）、同じくヤミ営業のネットカフェは1時間1～1.5元（約16～24円）、食事は1食5～10元（約80～160円）ほどでまかなえるという。一方で三和ゴッドたちの日雇い労働の稼ぎは、1日あたりほぼ100元（約1600円）となる。ヤミ営業の安宿やネットカフェに滞在して暮らすだけならば、もはやIDカード（身分証明書）は不要というわけで、1枚100元くらいで売ってしまう人も多いようだ。近年、彼らは中国のネット上で「三和ゴッド」（三和大神）と呼ばれている。

それでは、「三和ゴッド」のような新世代農民工グループは現代中国社会によってどのような意味を持っているか。彼らのライフスタイルに対する研究によって、彼らの日常の生活世界と寄せ場の形成や展開をさらに解明することができるだろう。

---

<sup>1</sup> 故郷の親族とのつながりが漸絶し、劣悪な環境の安宿やネットカフェに泊まり続けている生活を送って製造業またデジタル工場で働く短期労働者や流れ者の若者である。

<sup>2</sup> 中国の4大都市と称される「北上広深」の一つである。

## 序論

### i、研究背景

1978年の改革開放政策を導入した中国における経済状況は年平均10%近くの成長率で拡大し続けている。この急速な経済発展の原動力になったのは、大規模な農民の出稼ぎであった。「農民工」と呼ばれる出稼ぎ農民（以後「農民工」）が底辺から中国の経済発展を支え、都市部の経済成長に大きく貢献しているにもかかわらず、長時間・低賃金の労働が日常化している。さらに、非農業戸籍の都市住民が有している失業・医療・年金・労災等の社会保障が不足し、日常生活の設備や居住環境が劣悪な状態に置かれてきた。とりわけ都市部で働く農民工には、都市住民との間にあらゆる面で格差が存在し、社会の安定、発展のために放置できない社会問題となっている。

中国国家统计局によると、2017年末の時点で、農民工の総数は28652万人に達し、中国の総人口の20.6%を占め、特に1980年代以後に生まれた若者の割合が、初めて半数を超え50.5%となった<sup>3</sup>。80年代以降に生まれた新世代農民工はその親世代とは異なる特徴を持っている。この特徴は主に学歴レベル、仕事の内容及び生活や心理の状態などのいくつかの変数に現れている。例えば2013年の調査によれば新世代農民工の平均教育年限は11.86年であり、旧世代農民工は9.07年であり、データから見ると、新生代農民工は高校の学歴を持つ人が比較的多く、その専門学校の経験者は増加し、旧世代農民工は中学生であった人が比較的に多い。ではなぜ、人的資本として学歴が上昇しているにもかかわらず、都市に来て農民工になっているのか。呉（2009）によれば、前世代の農民工は主に経済的圧力によって、家庭の生計を維持する目的で出稼ぎに行った。彼らは都市で十分なお金を稼いだのち、故郷に帰って引き続き農村生活をしている。それに対して、都市でアルバイトをしている新世代農民工はお金だけを求める存在ではなく、彼らは大都市に憧れを抱いている。あるいは、彼らは「都市の市民」としてこの都市に定着し、生活していることを願望している。したがって、彼らは特殊な「都市化」の過程を経験し、郷土意識が段々に剥離されて、自分の独特な方式で生活様式と生活理念を形作っている。しかし、新世代農民のライフスタイルに関する先行研究は数少ない。このような背景のもとで、新世代農民工のライフスタイルに対する研究は、この集団の各方面の現状に関する認識を深めるため重要な意義があるといえる。

### ii、問題意識と研究目的

---

<sup>3</sup> 国家统计局, 2017「2017年农民工监测调查报告」, (2020年8月13日取得, [http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201804/t20180427\\_1596389.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201804/t20180427_1596389.html)) .

L. ワース (1983) によれば、都市化は人口密度の増加、市街地化のみでなく、農村的生活様式から都市生活様式化する質的变化をも含まれている。「新市民」と呼ばれているにもかかわらず、新世代農民工は依然、「マージナル・マン」として「都市人」と「農村人」の間に存在しており、都市の周縁に位置付けられている。都市生活に適応する過程で、彼らは必ず職業の変化、身分の転換と社会関係の再構築などの一連の変容に直面している。例えば就職、介護、医療、教育などの多くの問題である。都市生活と農村生活この両者における巨大な差異は彼らのライフスタイルに巨大な影響を与え、その生活様式は必ず独特な特徴と表現を呈している。本研究はそういった問題意識から始まった。

新世代農民工のライフスタイルに対する関心は、さらに筆者の目を都市製造業に就職している新世代農民工に向けさせた。その理由はまず、現代中国では、社会の経済重心は製造業からサービス業に転換しつつあるが、製造業労働力市場の従業員に対する需要量は依然として巨大である。2019年、製造業に就職した農民工は農民工総数の27.4%を占めた<sup>4</sup>。そして、製造業に就職した新世代農民工は中国経済・産業の構造転換への取組みの中心にあり、社会構造における急激な変動を実感できる敏感なグループである。では、彼らのライフスタイルはいったいどんな状況だろうか。都市の生産過程に参入するまた都市のライフスタイルを感じる機会はあるけれども、彼らのライフスタイルにとってどれほど影響を及ぼすのか。また、製造業の新世代農民工は社会の下層にあり、彼らのライフスタイルは彼らの上昇移動に役立つのか、それとも不平等を再生産させていくのか。このような問題意識のもとで筆者は、社会階層の底辺に位置する製造業新世代農民工が日常生活の中でどのようなライフスタイルを生み出したかを明らかにしておきたい。さらには、その最も重要な問題を解明した上で、製造業新世代農民工のライフスタイルの中で、下層階級の地位の再生産のメカニズムを探ることも、本稿の目的となる。

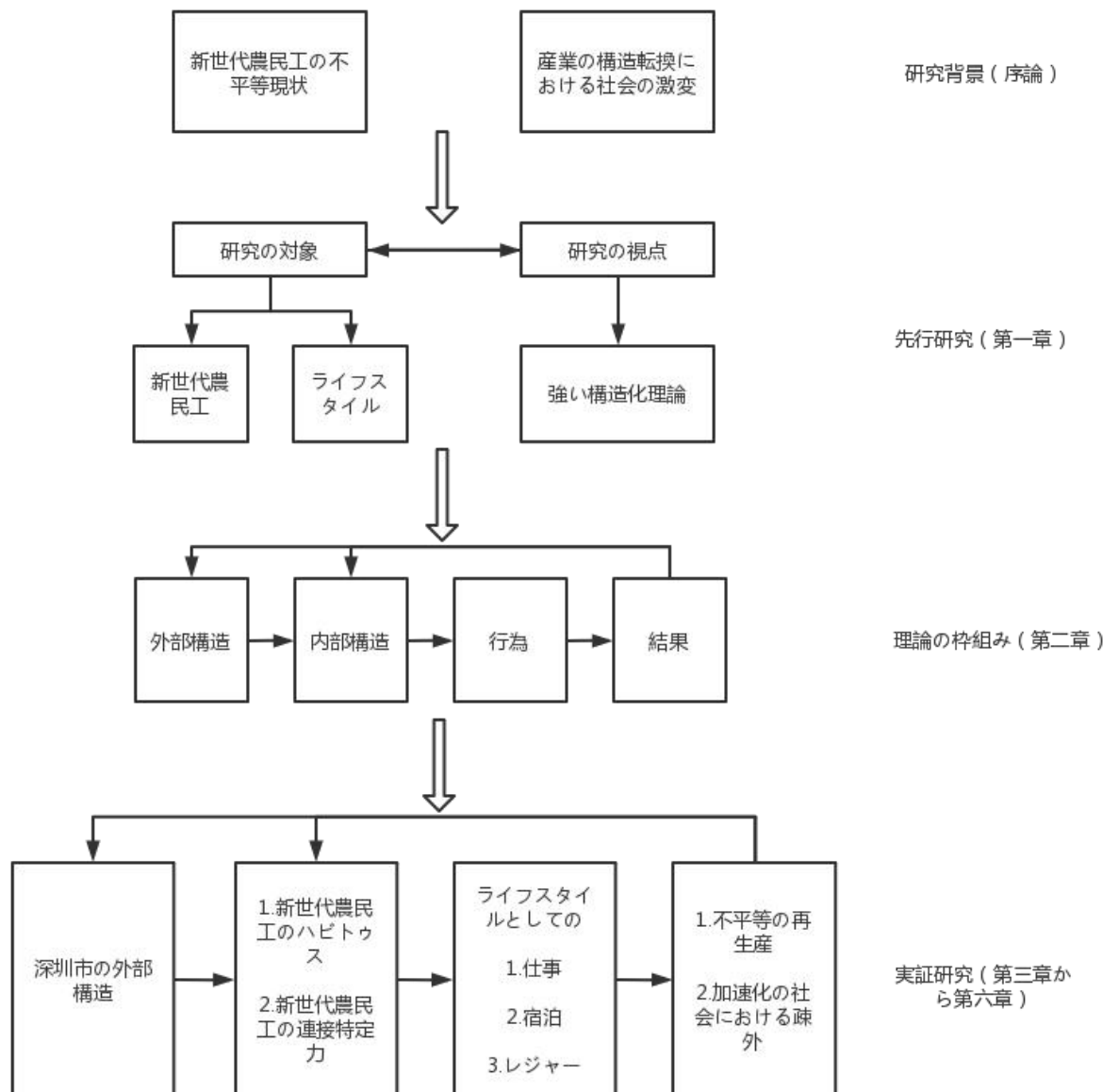
つまり、本稿では、R. STONES の強い構造化理論をアプローチとして、製造業の新世代農民工を研究対象として、製造業の新世代農民工のライフスタイルを研究する。この問題に対する探求を通じて、製造業の新世代農民工がどのようにライフスタイルを通じた行為の主体性を実現し、そしてライフスタイルの形成の過程がどのように構造化を実現しているのかを明らかにしたい。

### iii、本稿の構成

---

<sup>4</sup> 国家統計局, 2019 「2019年农民工监测调查报告」, (2020年8月14日取得, [http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/202004/t20200430\\_1742724.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/202004/t20200430_1742724.html)) .

本稿は序論の他、六つの章から成っている。第一章は新世代農民工やライフスタイルに関する先行研究を検討していく。第二章は本研究の理論の枠組みを提示する。第三章では深圳市龍華新区の製造業新世代農民の概況を紹介した後、深圳市龍華新区の製造業新世代農民工のライフスタイルの全体像(Action)を説明する。第四章では深圳市龍華新区の製造業新世代農民の日常生活における外部構造(External structures)について紹介する。第五章では深圳市龍華新区の製造業新世代農民の内部構造(Internal structures)について紹介する。第六章では第四章と第五章の分析結果に基づいて、深圳市龍華新区の製造業新世代農民のライフスタイルの形作る過程と再生産の過程(Outcomes)について考察する。





## 第一章 先行研究

### 1.1 新世代農民工に関する先行研究

これまでの中国の農民工問題に対する研究では、様々な視点から多くの学者が探求してきた。ここでまず (1) 「農民工」という言葉の定義、(2) 新世代農民工の特徴、(3) 新世代農民工の研究の分類について確認しておきたい。

#### 1.1.1 「農民工」という言葉の定義

「農民工」という言葉は中国の戸籍制度から生まれた中国特有の言葉である。したがって考察の前提として、まず中国の戸籍制度の変遷と「農民工」という用語の定義を明らかにしたい。1950年代後半において、都市部および重工業を優先的に発展させるために、中国政府により厳しい戸籍制度が確認された。そして、「中華人民共和国戸籍登録条例」が1958年に公表されたことを契機に、農村人口が都市に移動することは厳しく制限された。この条例の主要な内容は、中華人民共和国の国民を二種類に分類し、「都市戸籍」人口と「農村戸籍」人口に分類するというものである。1980年代まで、中国の農民にとっては、「農村戸籍」を「都市戸籍」に変更することは極めて困難であった(侯2017)。1978年の改革開放政策導入後、農民は厳しい戸籍制度があったにもかかわらず、都市に流入しはじめた(塚本2010)。そして、「農村戸籍」を持ちながら、伝統的な農業作業を離れ、主に都市部の企業で働き、商業、建築及びその他サービス業に従事して生活する人たちを「農民工」と呼んだ(劉2014)。また、黄(2011)は次のようにまとめている。(1) 広義の定義では、農民工とは、非農業職に従事する農民、(2) 中範囲の定義では、農民工とは、農業戸籍をもつが土地を離れ、非農業職に従事する雇用労働者、(3) 狭義の定義では、農民工とは、農村から都市へ出稼ぎに行く農民である。

#### 1.1.2 新世代農民工の特徴

中国国家统计局によれば、2017年までに、1980年以後生まれの新世代農民工は1億4469万人に達し、現在の農民工総数の50.5%を占めている。新世代農民工の構成について、侯(2017)は新世代農民工が二つの部分で構成されていると論じた。一方では、既に都市にいる「農民工」の子どもとして生まれた人である。これらの子どもは農村部、あるいは都市部で生まれて、親は都市部で出稼ぎしていた人である。もう一方の新世代農民工は、彼らの親は農村で生活・労働しており、出稼

ぎの経験を持たないという人である。ここで注意すべきは、この2タイプの子どもの出身地(都市や農村)と親の職業(農民や農民工)は異なるが、戸籍制度のため、就学義務年齢に達した際に農村に戻なければならないという点で結局は同じである(都市戸籍ではない子どもは都市の小学校に就学できない)。旧世代農民工と比較すると、この新世代農民工の特徴、ニーズおよび彼らが抱えている問題は変化している。李(2017)によれば、新世代農民工は既に余剰労働力ではなく、その多くが自家の農地を耕作する意志はなく、都市部に来てアルバイトをしている。新世代農民工は家族と密に関わることなく、彼らの多くは、学校を出るとすぐ出稼ぎに出るが、その目的は親への依存と親からの束縛から逃れ、自立と自由を享受することである。目的は都市部で生計を立て、拠点を築くことであり、旧世代農民工との差異は、金を稼ぐ目的が家族を養うためではないという点を指摘している。塚本(2010)は、旧世代農民工は戸籍と家族が農村にあったため、都市福祉などは受けられず、親と子どもを農村部に残して都市に就業した紹介している。彼らは都市で得た収入によって、農村で家建て、家族を扶養した一方、新世代農民工は一般的に農業経験が皆無であり、いったん農民工として都市に出ると、故郷に帰るということは念頭になく、都市住民として都市に定住することを願望していると論じた。また、袁(2015)は新世代農民工の特徴が従来の農民工問題の方向を変化させると指摘した。袁によれば、新世代農民工は相対的に高い学歴をもっているため、都会の先進な生活様式と生活レベルに憧れ、都市に定住することを望むようになった。また、新世代農民工の集団意識が強くなるにつれて、合法的な権益を守る意識が強くなり、社会参加意識も徐々に強くなっていると考えられる。

### 1.1.3 新世代農民工の研究の分類

新世代農民工の発展傾向は未来の中国製造業労働者の属性や状況を代表している。資料によれば、中国学界の新世代農民工に対する研究では主に以下の6方面に集中していると考えられている。

#### (1) 新世代農民工の世代区分

最初に農民工に対して世代区分を行い、新世代農民工の観点を提出した学者の王(2001)は、80年代に初めて出稼ぎしていた農村流動人口を第一世代と見なしており、年齢25歳以下、20世紀90年代以降に出稼ぎしていた農村流動人口を第二世代すなわち「新世代農民工」と呼んだ。これも中国学界で認められている区分方法である。また、簡、黄(2008)は初回出稼ぎの時間を基準として世代を区分した。鄧(2008)は、年齢が農民工の世代区分の重要な基準だと指摘した。そして、韓(2010)は農民工を三つの世代に分けた。

#### (2) 新世代農民工の生存現状と権益保障

2010年6月と2011年2月の中華全国総工会<sup>5</sup>は相次いで遼寧、広東、福建、山東、四川における十数個の都市に拠点として、新世代農民工問題について深い調査を行った。そして幅広い資料を収集した上で、2つの新世代農民工調査報告書を作り上げた。この報告書は、現在中国の新世代農民工の生活状況をかなり全面的に分析したもので、権威性と代表性がある。

## (2) 新世代農民工の価値観

新世代農民工の価値観変化の原因も、新世代農民工に関する研究の重要な一部である。王(2014)によれば、主に客観と主観の2点に分けられる。客観的な原因は主に多元的なカルチャーショック、政府政策の影響、経済環境の激変及び教育制度の改革などによって構成されている。主観的な原因は主に適応能力の欠如、人的資本の不足及び社会関係資本の不足などによって構成されている。以上のような様々な要素が、新世代農民工の価値観と第一世代農民工の価値観との間に大きな違いを生じさせている。

## (4) 新世代農民工の教育問題

新世代農民工の教育問題に対する研究は、教育需要の動向、教育供給の主体及び教育制度などのテーマを含まれている。例えば、中国青少年研究センターにより「中国新世代農民工の発展状況と世代間比較」は、若年農民工自身が知識を欲求していると論じた。陳(2008)は新世代農民工職業訓練の需要と職業訓練の供給主体を実証に考察した上で、現在の農民工職業訓練にはまだ多くの問題が存在し、新世代農民工が職業訓練に対する期待は実現できないと指摘した。

## (5) 新世代農民工の社会融合

学者たちも新世代農民工の社会融合(social integration)を注目している。これまでの研究では、政治学、社会学、経済学を中心として、社会的排除、同化理論などの理論を応用した、農民工の社会融合について考察されてきた。季(2015)によれば、都市戸籍とそれに関連する一連の制度による制限で、農民工は社会福祉や義務教育といった都市住民の専有権利をほとんど享受できない。農民工は都市に出稼ぎしていたものの、実際に都市に定着したわけではないと指摘した。謝(2010)は農民工の社会融合に対する先行研究を整理した上で、農民工は中国の都市化の産物であるが、都市に溶け込むことは難しい結論付けた。同時にほかの研究者も農民工が都市に溶け込みにくい原因を深く分析し、解決策を検討している。

## (6) 新世代農民工の犯罪問題

---

<sup>5</sup> 中華全国総工会は、中華人民共和国における唯一の公式な全国規模の労働組合連合(ナショナルセンター) 出典:<https://ja.wikipedia.org/wiki/中華全国総工会>。

一部の農民工の研究者のなかには、多角的な視点から新生代農民工の研究を進めるなかで、農民工に関連する犯罪問題を明らかにする目指す者もいる。例えば、犯罪学者の呉（2008）は新世代農民工の犯罪は大胆で、手段が残忍で、計画が少なく、非横領犯罪が多いなどの特徴があると論じた。謝(2012)の研究は広東省の刑務所の大規模調査に基づいて、十数回の座談会、1200件のアンケート、数十個のケーススタディとフィールドワークを通じて、新世代農民工犯罪者の現状、犯罪特徴、犯罪の要因に対して深い分析を行ったが、これは新世代農民工の犯罪問題研究の最新の成果である。また、新生代農民工犯罪率上昇の最も重要な原因は文化的アイデンティティを作ることができないという文化社会学の視点を出発する研究もある。

## 1.2 ライフスタイルに関する先行研究

### 1.2.1 ヴェーバーとベブレンからの端緒

ライフスタイルという概念は、本来、主にアメリカの社会学者の間に用いられる概念である。一般的に社会階層と社会的地位との関連において捉えられてきた。その始まりとしてのM. ヴェーバーの社会成層論は今まで社会学の一つ重要な主題とされている。M. ヴェーバー（1905）によれば、宗教（聖なるもの）と経済（俗なるもの）との相互関連であり、この聖俗の世界を媒介するものが社会階層であった。ヴェーバー（1905）は社会階層を単純に経済面の諸要因から理解するのは明かに不足であるとして、社会階層の「生活様式」（Lebensform）、「生活態度」（Lebensführung）、「人生観」（Lebensanschauung）などの心理的・精神的要素をとくに強調している<sup>6</sup>。これがいわば、ライフスタイル概念の一つ端緒であるといわれている。つまり、ヴェーバーによれば、社会的地位の相違によって形成される社会階層は、ライフスタイルの相違をもたらす。すなわち、異なる階層の人々のライフスタイルにも独自性を持っており、だからこそ、低い社会階層に所属する人々は、より高い地位に所属する人々のライフスタイルを習慣的に模倣することになる。彼によれば、ライフスタイルは地位の栄辱を表明している<sup>7</sup>。ヴェーバーは社会階層の財の消費や教育方法、価値観や生活態度といった生活者としての側面から、「階層の内部で共有された複合的なパターン」をライ

<sup>6</sup> 井関利明, 1975, 「「生活者」志向経営とライフ・スタイル研究」村田昭治・吉田正昭・井関利明編『ライフスタイル発想法—新しいマーケティングの技法—』ダイヤモンド社:302.

<sup>7</sup> Weber, M, 1948, *Class, status and party*[M], New York :Oxford University Press, 181-191.

フスタイル (style of life, lifestyle) と呼んだのである<sup>8</sup>。そのほかにも、G. ジンメルも社会成層に着目し、都市的生活様式において消費状況を研究した。

その後、ヴェーバーのライフスタイル概念は、1950年代のアメリカにおける実証的な社会階層研究に用いられたが、ライフスタイルは本来の主たる研究の関心である社会階層や社会階級と比べて二次的な概念であり、「社会階層や社会階級がライフスタイルを規定するというヒエラルキー」が想定されていた<sup>9</sup>。このように、ヴェーバーは社会階層のライフスタイルについてとりあげ、ライフスタイルを観察可能な外見的特徴だと考える。また、Duncan (1969) は、ヴェーバー社会学における「ライフスタイル」の重要性を強調し、単なる嗜好や態度の問題ではなく、社会生活における一つの「統合原理」であることを指摘した。Duncan(1969)によれば、「スタイル」とはそれを表示する行為者にとって「主観的意味」をもつばかりではなく、そのスタイルが共有されている準拠集団にとっても「客観的意味」をもつ表現や様式である。彼が主張する「ライフスタイル」とは、集団に所属する人々にとっては同調すべき規範であると同時に、それを代表するシンボルを意味する。以上のように、ヴェーバーの社会学から出発して社会階層のライフスタイルの問題を研究することはその後の研究に大きな影響を与えた。

ライフスタイル概念のもう一つ端緒はT. B. ヴェブレンが消費に対する研究から出発している。ヴェブレンのライフスタイルに対する研究は主に消費の視点から行われており、彼は消費のライフスタイルと社会階層との関係に焦点を当てている。ヴェブレンは著作の中でライフスタイルを一つ精神的態度としている。彼は指摘した「有閑階級」とは、財産を持っているため生産的労働に従事することなく、閑暇を娯楽や社交などに費やしているような階級を指す。この階級はその独特なライフスタイル、例えば服装、スポーツ、食品と服飾、特にその「行儀作法」を通じてその社会的地位の特別を示している。この過程は「誇示的消費」と呼ばれている。さらに社会階層のより下層に下降した人々は、名誉ある社会に対する世襲の富や世襲の権利を持っている金持ちの人々を模倣する傾向がある<sup>10</sup>。ヴェブレンはこのような消費方式と「有閑階級」との関係はコインの裏表の関係であると考えている。

つまり、初期の社会学者によって社会階層概念を中心とした研究が展開されてきたが、その研究のプロセスの中でライフスタイルをテーマとする研究が発展し、生活次元における社会階層のライフスタイルの形成と表現が問題として扱われてきた。そして、人間の日常生活における行動として

<sup>8</sup> 村田昭治, 1973, 『現代マーケティング論—市場創造の理論と分析—』有斐閣:38.

<sup>9</sup> 鎌田章仁, 1987, 「ライフスタイルと文化的選択行動—社交型共同体論の理論的基礎」『茨城大学人文学部紀要(社会科学)』(20):131-154.

<sup>10</sup> 内田成, 2007, 「ジョン・レーとソースタイン・ヴェブレン：街示的消費を中心として」『埼玉学園大学紀要 経営学部篇』(7):21-34.

のライフスタイルに目を向け、主な研究対象としての階層の分化や消費の形式など、社会レベルに焦点が置かれた。

### 1.2.2 ライフスタイルに関する研究の発展

20世紀60年代に、アメリカの哲学者L. J. Binkleyはライフスタイルに対する特別な見方を提出した。ライフスタイルは人々が「どのように生活するか」と本質的に関連させて考えるべきだと強調した。Binkley (1983) は彼の著作の中でこの観点を提出し、価値観を重要な要因としてライフスタイルとの関係について研究を行った。また、A. ギデンズ (1999) は、グローバル化の視点からライフスタイルへの影響を考察した。グローバル化がライフスタイルに与える影響は、人々の生活における様々な面に浸透してきた。「グローバル化は非常に深刻な状況で私たちの生活様式を再構築している。」という、彼のこの言葉は実はライフスタイルとは何かに対する答えだと思われる。A. トフラー (1982) は科学技術発展が個人のライフスタイルに与える影響に着目し、『第三の波』を代表とした作品群の中で未来の人類の生活様式の状況を予測した。我々が現在直面しているのは、「単なる科学技術上の革命ではなく、全く新しい文明の到来」である。彼によれば、情報技術革新に伴う「第三の波」は、単に産業構造のみならず、社会・文化、我々のライフスタイルや価値観にさえも、かつてない大きな変化をもたらしている。そのほか、P. ブルデューによれば、生活様式は主として社会的実践の中で作り上げられ、個人の嗜好に密接に結びついたものであって、場の構造とハビトゥスに関連したプロセスとの間の相互関係の基本的な点を示すものとされる。

### 1.2.3 ライフスタイル類型学の登場

社会学以外のさまざまな研究分野でもライフスタイルの研究がなされている。例えば、心理学におけるライフスタイルの起源として、個人心理学(individual psychologie)を提唱した精神分析学者のAlfred Adler (1926) は、能動的な行為主体としての個人をとりあげ、その目標志向性、統一性、独自性及び自己イメージを強調して、その全体をライフスタイルと呼んだのである。つまり、心理学においては、研究対象として個人レベルに焦点をおき、既存の集団とは共有されない「個人の固有のライフスタイル」を問題としていたことが特徴である<sup>11</sup>。すなわち、人生の早い時期に発達する、個人の価値観や行動原理を導く枠組みが、生涯にわたってその人の行動に影響するような

---

<sup>11</sup> 仁平京子, 2004, 「ライフスタイル概念における社会学・心理学的特質とマーケティング的特質」明治大学大学院商学研究論集 414.

判断システムを規定することになり「個人」に焦点をおいたこの概念を取り上げることで、生活様式は人格の様式として理解されるものである<sup>12</sup>。

ライフスタイル類型学は個人心理学や社会の研究成果を利用して、質的と量的の方法に組み合わせて興味深い研究成果を出てきた。すでに述べたヴェーバーとヴェブレンからの端緒の以外、ライフスタイル類型学は理論的方法においても同様に重要な価値を持っている。ここで一つアメリカ学者の研究を選んで紹介していく。

アメリカ学者 Arnold. Mitchell (1983) は調査対象の価値観とライフスタイルに基づいて、4 系統計 9 種類のアメリカのライフスタイルをまとめた。

タイプの一: 支援が必要であり、1) 生きるためのライフスタイル(ライフスタイルタイプの底辺に所属、生活が逼迫しており、贅沢な消費がほとんどない)。2) 維持型のライフスタイル(社会に負の感情を抱いているが、まだ希望を持っている)。

タイプ二: 外向性が強いのが特徴である。3) 帰属意識のライフスタイル(米国の典型的な中産階級)、4) 奮闘のライフスタイル(勤勉に働き、上層階級のトップを登頂したい)、5) 成功のライフスタイル(各業界のトップ人物)がある。

タイプ三: 内向性が強いのが特徴である。6) マイペースのライフスタイル(他人に左右されず、自らの方法や進度を崩さない性格の人間を指す、親が成功型である可能性が高い)、7) 体験のライフスタイル(新たな経験獲得することを最大の満足として)、8) 社会における自覚を持っているライフスタイル(社会と自然の調和を重視し、一定の影響がある)。

タイプ四: 9) 総合型生活様式である。

彼は 800 以上の問題に関連したきわめて詳細なアンケートを通じて、アメリカ全国 1600 人に対するサンプリング調査のデータを分析した。これにより、それぞれのタイプ割合、衣食住、余暇の消費状況、社会的価値観、政治的態度などを詳細に記述することができる。

つまり、以前のライフスタイルに関する研究に比べ、ライフスタイルの類型学の登場によりライフスタイルが一つ専門的で独立した研究対象となったことを示した。ライフスタイルの類型に対する研究は一つ総合的な研究方法であり、客観的に観察できる消費行動も含まれると同時に価値観などの主観的な認知と評価も重視されている。

### 1.3 新世代農民工のライフスタイルに関する研究

---

<sup>12</sup> Berzano, L. and Genova, C, 2015, *Lifestyles and Subcultures. History and a New Perspective*. London: Routledge.

80年代以降、新世代農民工は社会的に大きな注目を集める集団になっている。それで彼らに対する研究は様々な方面に関与し、例えば教育問題、住宅問題、心理問題、就職問題、精神文化研究など、次々と派生した。しかし、ライフスタイルの分野に関連する既存の研究はあまり多くなく、主に次のような研究にとどまっている。

第一に、孟（2007）による主に上海市をフィールドにした、外来流動人口<sup>13</sup>のライフスタイルについての研究がある。彼女は都市社会地理学の視点から外来流動人口が持っているライフスタイルを全面的に討論し、社会システム理論を用いて上海市外来流動人口の生活方式の特徴を分析した。紀と李（2010）は2004年と2009年における時点で北京市の農民工ライフスタイルの現状に対する現地調査を通じて、消費の様式、余暇生活、家庭生活などの次元から5年以内のライフスタイルの変容の状況を分析した。そして彼らが直面する問題を指摘した上で、さらにライフスタイルの変容の3つの発展段階をまとめた。最終的に結論に基づいた推論を提出した。

第二に、劉と秦（2008）は主にインタビューを利用して、身分の転換と社会地位の欠如に焦点を当て、瀋陽市におけるサービス業の農民工のライフスタイルの変容を調査した。新世代農民工の都市におけるライフスタイルの再構築は、同時に農村で生活していた元のライフスタイルと都市に出稼ぎした後に習得したライフスタイルの影響を受けている。彼らの身分の構築と社会的アイデンティティはこれに基づいて形成されていると指摘した。このような社会的現実が特定の社会問題を引き起こすのは不可避だ。しかし、新世代農民工の社会的アイデンティティと社会身分の統一は一つのサブカルチャーとしてライフスタイルを形成されつつある、社会階層研究にとって価値があると言える。

最後に、張（2010）は社会融合の観点からライフスタイルを解釈し、ライフスタイルと社会融合は相互構築の関係であると考えている。彼の調査によれば、新世代農民工の生活様式には避けられない問題があり、例えば彼らの消費構造の不合理的、余暇生活レベルの低下、社交における過度の同質性などの問題を例として挙げている。以上の問題の原因は、新世代農民工が現代社会に溶け込む際に文化遅滞（cultural lag）という特徴があり、そして、都市で働く際に職業緊張と部外者（outsider）の心理状態も影響しているということである。

#### 1.4 日本の寄せ場に関する研究

---

<sup>13</sup> 2017年末、上海市の常住人口は2418.33万人に達し、外来流動人口は972.68万人であり、その中の農民工は500万人以上。上海市統計局, 2017, 「人口总量」, (2020年8月19日取得). <http://tjj.sh.gov.cn/rkjy/20180819/0014-216887.html>).



そもそも本研究で対象とする「三和ゴッド」は、日雇い仕事で生計を立てている新生代農民工である。日雇い仕事という概念に言及した以上、日本の寄せ場についての研究も参考にすることができる。

近年、山谷や釜ヶ崎をはじめ「寄せ場」地域の解体が急速に進んでいる。かつて「寄せ場」地域に存在する不安定就労や貧困という問題が、社会全体へ拡大されつつあることが伺える。このような現象は、現代化が進んでいる中国社会でもだんだん見られるようになってきた。寄せ場の解体と普遍化が同時に進行するという状態にあって、寄せ場に関する研究は、現代都市の再編を捉える際に着目すべき分野だと思われる。

#### 1.4.1 「寄せ場」の概念の定義

寄せ場は、文字の通り、「人々を寄せる場所」である。その「人々」とは日雇い労働者である。日雇い労働者は一週間や一か月単位で働くケースもあるが、文字の通り一日契約での労働に携わることもよくある。日本の主な寄せ場について、中根（2006）は「代表的寄せ場には、釜ヶ崎（大阪）、山谷（東京）、寿町（横浜）などをあげることができる。これらは、「三大寄せ場／ドヤ街」と呼ばれる…これらに笹島（名古屋）を加えて「四大寄せ場」と呼ばれることもある」と述べる。しかし、日本の寄せ場を、フィールドワークを中心に研究アメリカの文化人類学者トム・ギルによれば（1999）、「寄せ場」と「ドヤ街」という二つの表現が不注意に使われるケースが多いが、同一のものではない。「ドヤ街」は、「ドヤ」というやすいホテルが集中する場所である。釜ヶ崎、山谷と寿町の場合、寄せ場（労働市場）とドヤ街（簡易宿泊の街）という両機能が一緒になっているが、その他の、より小規模の寄せ場は単なる労働市場であって、ドヤ街ではない」。

したがって、原田（2016）は、今までの「寄せ場」という概念の定義について、二つの条件が欠かせないと指摘した。一つ目は「流動的下層労働者と言われる日雇い労働者にとって、そこからの権力や抑圧に対抗するための拠点性」という側面である。二つ目は「彼らの労働者が絶えず流動することから、その拠点となる場所が必然的に有する移動性」という側面である。

#### 1.4.2 スラム研究の視座

戦後、釜ヶ崎などの地域は戦災被災者たちによる木造家屋や闇市場を通じて、下層社会として復活した。多くの労働者が住むドヤ街になりつつあるが、依然としてスラム街の姿を保っている。シカゴ学派の影響を受けた1960年代の都市社会学者たちにとって、これらの地域の実態は主要な注目の対象であった。彼らにとって、下層社会を理解する理論的根拠となっているのは社会解体論であ

る。こうした解体論に依拠しており、その社会集団の貧困を「社会的偏倚現象」という視座からの解明していく。

当時の社会解体論のこの見解については、学界の見解は必ずしも一致していない<sup>14</sup>。しかし、社会病理と個人病理の関係については、社会の解体は個人の解体を伴う一方であるというよりも、社会解体の方針では、集団側よりも個人側に焦点を当てて考察するという問題意識を共有している。すなわち、個人ないし社会集団の病理現象に焦点を当て社会解体を測定する判断基準となっている。

したがって、ドヤ街としての釜崎地区への関心も、日雇い仕事、バタア、売春などを含む逸脱した職業形態やそのメンバーがどのように「社会的偏倚」を表現しているかに集中している。当時の社会学者は売春、麻薬販売、痴漢集団などの存在を描写することによって、この地域の病理現象がどれだけ顕著であるかを明らかにしようとした。このような言論とその意味は、あまりにも素朴な印象として語られているだけである。つまり、このような言論は地域へ偏見を伴い、自己反省によらず科学的言論となる危険性の恐れがある。したがって、釜ヶ崎などの寄せ場は社会病理学研究のふさわしい対象とした適切な地域と位置づけられている。

### 1.4.3 貧困研究の視座

高度経済成長に伴い、多層下請け構造の搾取を主な原因としての日雇い労働者の貧困は、社会問題となっている。その背景の中で、山谷と釜崎などの寄せ場は建築資本に対して重要な役割を果たしていた。このような状況を背景に、江口英一（1979）などの労働経済学者は山谷の日雇い労働者の調査研究に基づき、失業の「貧困化法則」を解明し、「異質な社会」を近代貧困の問題として捉えている。しかし、調査対象となる労働者階級は経済主体としての側面にとどまっている。つまり、日雇い労働者は常に「社会の最低階層」の階層的地位に固定されている。

江口氏らは、山谷や釜ヶ崎などのドヤ街を全国に広がる膨大な不安定層の流動化と貧困化の状況を最も露骨に表現した社会装置として理解している。特に雇用の不規則性・不安定性に伴う職場の過剰使用や蔑視、労働災害の危険性および長時間の拘束は、さらに労働者を肉体的・精神的に消費させ、労働過程における怠惰や生活過程における随意性を生じる根源となっている。これは逆に労働条件をさらに悪化させ、権利主張のための労働組合の組織化を困難にし、さらに低賃金を促進する。これらの特徴は日雇い労働者が資本の蓄積意欲の中で「強制的怠惰」の下に置かれることの表現である。

---

<sup>14</sup> たとえば、磯村（1954）によれば日本のスラム地域における社会解体のプロセスは偏移現象である。その一方で大橋（1953）が社会解体という社会問題事象には、社会的価値判断の結合現象をいう。

また、氏原や江口らは日本の階層構造を解明する、あるいは典型的な貧困層を析出する研究に着手する（氏原・江口、1956）。典型的な貧困層を析出する分析道具の一つとして、「開放的労働市場」論が江口（1979）によって展開される。そして、加藤（1987）は、「開放的労働市場」ではマルクスの述べる「相対的過剰人口」が不断に形成されるとし、「開放的労働市場」を経て雇用される労働者層を、「不安定就業階層」とした。

以上のように、「労働市場開放論」や「不安定雇用層論」は相対過剰人口論に基づいてきたため、日雇い階層は「現役労働者軍」の最下層階層に規定されているにすぎない。しかし、江口の研究の中には、生活様式を描写する傾向も見える。

#### 1.4.4 差別研究の視座

青木秀男（2000）は寄せ場から日本社会の政治経済の構造的矛盾と権力性の縮図を見た。彼は、「低レベル熟練性」、「独身性」、「移動性」の存在条件の下で、寄せ場労働者を不安定雇用階層と区別された被差別の最下層として把握する。このように、青木は、都市下層を規定した上で、1990年代に野宿生活者の急増をもたらした社会構造の変容要因の仮説を提示しており、「世界都市化」により階層分化が進化した結果、都市下層の労働市場が変容したとして、都市下層の労働市場の変容を描いた。

日雇い労働者が野宿者化や日雇い労働者の解体という不安定は、野宿者の「連帯」を阻害し、また「連帯」を可能させる。第一に、「不安定就労層下層」の人々の「下層労働市場」への移動がみられる。第二に、建設業の日雇労働者への労働需要が減少し、野宿者層へと押し出されつつある。第三に、寄せ場への求人が縮小した。

以上のように、差別問題としての寄せ場研究の焦点は、日雇い労働者の「連帯」の可能性にある。被差別者としてのリアリティが解釈を通じて構成されていく。そのもとの、寄せ場は一定の磁場のもとに市民社会と対峙した固有の社会的世界として描かれる。

#### 1.5 先行研究のまとめ

まず、新世代農民工に関する先行研究では、「ライフスタイル」が独立した研究分野として検討されることは少ないことを確認した。新世代農民工に対する研究関心は「生産」から「生活」への移行が始まったが、これらを「消費様式」、「文化生活状況」などの概念からのみ理解するのは不十分だと思われる。また既存の文献においてライフスタイルという概念は、農民工の市民化や身分の構築など別の問題を説明するために用いられることが多く、「説明されるべき」ものではない。

本文は新世代農民工研究の中のライフスタイルという概念の従属的な地位を変え、新世代農民工の日常生活におけるライフスタイルに着目し、それに対して系統的かつ深い分析を試みる。同時に、既存の研究は下層階級の生活現状に対する研究において、専門的に製造業の新世代農民工に対する関心度はいまだ高くない。彼らは常に「農民工」という母集団の中に組み込まれて検討されている。また、農民工が関連する業界が多いため、下層従業員としての彼らは流動性が高い。それゆえに現時点での製造業の新世代農民工に関する社会学的研究はまだ多くない。

次に、ライフスタイルに関する研究では、数多くの研究者が注目しているのは都市住民、あるいは中上流階級などの社会のマジョリティーであり、彼らが底辺社会に目を向けることは少ない。前者はより多くの社会資源を持っているが、新世代農民工のような社会の下層階級のライフスタイルを研究することは意味がないわけではないと思われる。彼らの日常生活におけるライフスタイルには、自主性・能動性・創造性の行為者の主体性が含まれている。研究者にとっては、下層階級の日常生活経験を重視し、ミクロの個体を介してマクロの社会構造に入るという「下層視点」をとることは、社会変動の中の社会問題をよりよく理解するのに役立つと考える。

そして、日本における寄せ場研究については、貧困問題においては生活に、差別問題においては連帯に、人の主体性という力点が置かれる。そして、日雇労働者の就業構造あるいはマクロな社会構造に関する着目点もある。しかし、従来の寄せ場研究では、労働市場としての寄せ場がどのように歴史的に展開してきたのかというマクロな社会構造に向けた視点と、日雇い労働者のライフスタイルがどのように変貌してきたのかという主体性に向けた視点の間に、どのような相互作用があるのかは明らかにされてこなかった。

さらに、既存研究の研究方法は、主にサンプリング調査で資料を収集し、量的な研究を行われている。このような量的研究は、ある程度は新世代農民工集団のライフスタイルの基本状況と影響要因などを明らかにし、かなりの代表性があるものと言える。しかし、そもそもライフスタイルという概念を測量することは難しい。そして、数多くの研究者は新世代農民工を受動的な研究対象としてしか考えていないため、新世代農民工が行為者として持つ主体性を無視してしまう。既存の研究は主に受動的な主体としての新世代農民工の心理活動と行為表現がどのようなものであるかに焦点が当てられ、日常生活において行為主体性に関する分析が不十分な状態だと言える。研究対象の生活世界をより深く探究・理解することを求めるべきであろう。したがって、質的研究は量的研究にとって必要な補完である。

## 第二章 理論の枠組み

### 2.1 ギデンズの構造化理論

A. ギデンズの「構造化理論」は、主体か構造かのいずれかに焦点を当ててきた伝統的な社会理論を統合する社会理論の一つとして知られ、論点がきわめて多岐にわたっている。「構造化理論」は1970年代から1980年代半ばにかけて開発されたもので、「構造の二重性」という概念が特徴的である。ギデンズが社会学の伝統に対する再考は、社会学理論における二重性がどのように実現されるかに基づいていた (Giddens, 1979, 1984)。

ギデンズの「構造化理論」の特徴は、「構造の二重性」という概念を軸にした行為主体性と構造の統合を目指した理論であるということである。ここでいう「構造の二重性」は行為主体と構造とを二元論的に切り離すのではなく、社会システムの構造的特性が行為者のさまざまな実践の媒体であると同時にその成果でもあるということを意味する。

ギデンズが客観主義的社会理論(強制的な社会的事実是个々の主体の外に存在し、主体の行為はそれによって決定される)と主観主義的社会理論(主体が彼らの解釈や知覚の中で構築した社会的事実以外には、社会的事実は存在しないと仮定する)を結合しようとした。ギデンズによれば、社会構造は二重性的で、社会的事実でもあり、行動者が知っている社会世界の内面化(すなわち彼らの解釈学的理解)による行為の実践でもある。つまり、「主体的行為が構造に拘束されると同時に主体的行為によって構造が再生産される」(Giddens 1976)という二重の現象を同時に捉えることが、ギデンズの理論の目的となる。

ギデンズの理論の重要性は、社会の深層にある「構造」と経験的実在として認識される人間の「相互行為」を、「構造化の様相」によって媒介することであり、従来切断されて論じられることが多かった主体と構造の両者を統合して捉えることを可能にしたことにある。「構造化理論」は一つ有効な理論的視点として認められた。その理由は、その核心的な前提を学者たちが「マイクロ社会学のディテール」と「マクロ制度レベルの構造」でバランスを取るためである<sup>15</sup>。それ故に、構造化理論を援用して経験研究を行った事例が多く存在する。例えば日本においてアーバニズムの構造化理論研究(松本)、構造化理論と管理会計研究(上東)、考古学における構造化への視座(澤下)、茶業近代化とエージェント(堤)などの様々なケーススタディを見られる。

---

<sup>15</sup> Whittington, R, 2015, "Giddens, structuration theory and strategy as practice," D. Golsorkhi, L. Rouleau, D. Seidl & E. Vaara (Eds.) *Cambridge Handbook of Strategy as Practice*, Cambridge: Cambridge University Press, 109-126.

しかし、構造化理論は、もともと実証研究への適用を企図しておらず、ミクロなレベルの主体的行為をすくいあげて、それらをマクロなレベルにおける社会プロセスへと積み上げていくには多大な困難が想起されるのである。

「構造化理論」が誕生してから40年以來、多くの社会学者がそれを批判し発展させてきた。たとえば（例えば、Archer、1982；Cohen、1989；Sewell、1992；Parker、2000；Stones、2005）これらの先行研究は、「構造化理論」には経験的な作業を行うために必要なディテールが欠けることを指摘した。このため、他の理論と組み合わせる必要がある（Gregson、1989；Stones 2005）。また、「構造化理論」は時間の経過とともに実践がどのように展開していくのかということに十分な関心を持っていないと考えられている（Archer、1995）。そして、「構造化理論」の一つ重大な問題、すなわち創発性問題について、ギデنزは適切に処理していない（劉2017）。「構造化理論」の実証的面において不足、実証的研究者にとって問題となっている。社会学者にとって行為主体性と構造の統合という魅力的な願望は、未だに果たされていないのである。

ギデنز「構造化理論」の欠陥によってこの理論を否定するつもりはないが、必要なのは発展させてきた「構造化理論」である。すなわちその利点を確立しながらその欠点を解決して実証研究に向けたR. Stonesの「強い構造化理論」（2005年）である。

## 2.2 強い構造化理論

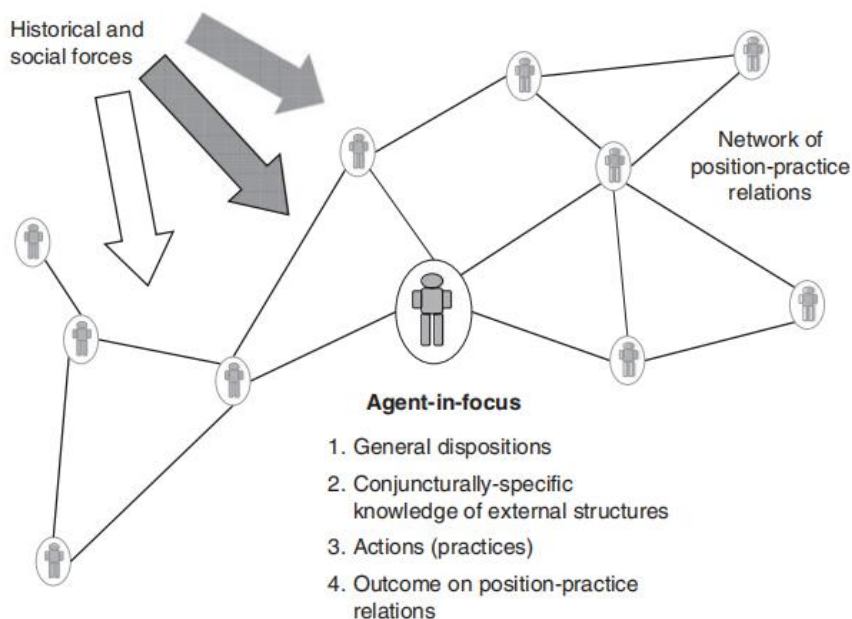
Parker（2006）は、行為主体性と構造についてのStonesの議論が、研究者にそれらの間の相互作用を調査する手段を提供していると考えている。Parker（2006：122）は、これが「構造化理論に新しい生命を注入する今までの最も深刻な試み」だと考えている。Edwards（2006：911）もこの点について、「強い構造化理論」はギデنزの理論志向型の方法ではなく、問題志向型の方法であると呼ばれている。最近、「強い構造化理論」は、教育、移民、会計、情報システム、医療管理、政策研究などのさまざまな分野で実証的研究に活用されてきた。

Stonesはギデنزの構造化理論の核心概念としての「構造の二重性」を認めてきたが、Archer（1982、1995）、Mouzelis（1991）、Parker（2000）などの研究者の批判も参考にしてきた。Stonesはギデنزにより開発された「構造の二重性」（Stonesが一般的存在論（ontology-in-general）と呼ぶ）をめぐって抽象的な概念を発展させ、特定の時間や場所において特定の社会過程や事件に対する存在論、あるいは原位置の存在論（ontology-in-situ）の構築を主張している。言い換えれば、存在論は「すべてから、だれ、どこ、いつ、どのように、なぜに変わっていく」。（Parker、2006：122）。強い構造化理論は構造化理論に対する重要な発展であり、マクロレベルとミクロレベルを接続でき

る有効なツールであると考えられる。まず、強い構造化理論は構造化がどのようにサイクルの中に展開されているかを解明した。そして、マクロの状況分析 (Context) とミクロの行為分析 (Conduct) の両方の結合を提唱し、詳細な方法論を提供した。この2つのアプローチは、理論の欠点と方法論の不足を解決した。

### 2.2.1 歴史的・社会的強制力を受けた「位置-実践」のネットワーク

ギデンズの経験面の不足を補うために、Stones は、行為主体性と特定の歴史に埋め込まれた状況を結びつくべきだと考えている。Stones は、批判実在論の哲学者 Bhaskar の「位置-実践」(position-practice) という重要な概念を導入した。「位置-実践」とは、制度化された地位、地位に対するアイデンティティ、権利と義務に対する感覚として理解できる (Stones、2005:63)。実践を深く理解するために、Stones は、実践は「位置-実践」の流れとして理解されると考えている。個々の「位置-実践」は複雑なネットワーク上にあり、このネットワークでは歴史的、構造的な要素が存在すると同時に、具体的、個人的な要素も存在する。この点について、Chan (2010) が書き直した図と対照して説明する【図1】。



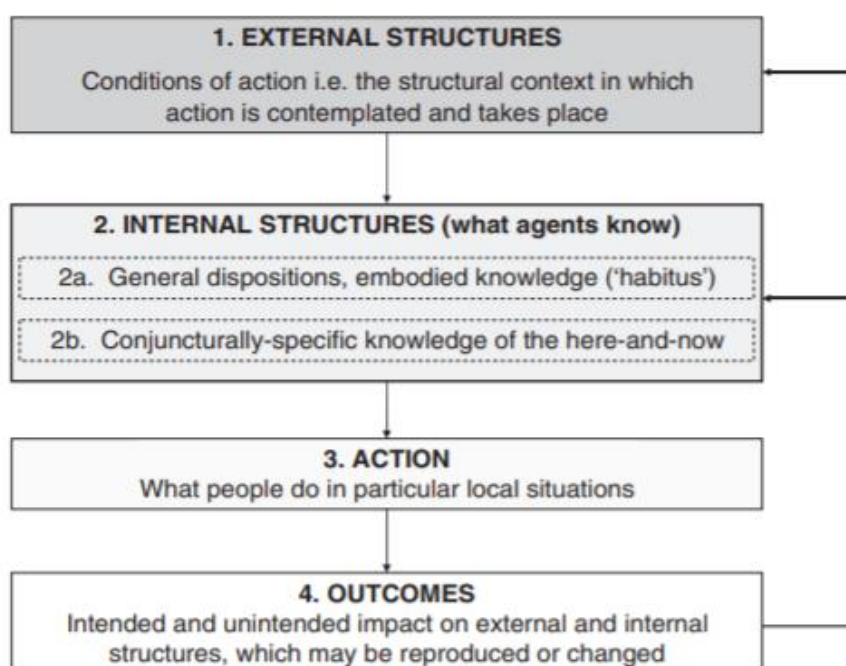
【図1】 強い構造化理論：歴史的・社会的強制力を受けた「位置-実践」のネットワーク

具体的な方法論は、特定の研究問題と直接関連する「位置-実践」において、マクロの状況分析 (Context) およびミクロの行動分析 (Conduct) を含む理論的枠組みを構築していくことである。たとえば、新世代農民工は一種の「位置」として、一定の責任、義務、権利、行為規範を意味してい

る。このような社会的地位は時間の経過とともに出現したものである。なぜならこれまでの新世代農民工が、実践を通し、この社会的地位を新世代農民工の標記に付いたからである。したがって、この社会的地位への参入者はその地位に関する何らかの義務を引き受けなければならない。すなわち、新世代農民工は多くの複雑な社会関係を持っており、縦の関係から見ると工場の管理者と関連している。一方で、横の関係から見るとまた工場の他の新世代農民工との関連がある。地位は社会的である一方で、個人的に経験しているものであり、特定の環境から強制力も受けている。例えば新世代農民工は自分自身の状況また個々の工場の異なる労働環境を考えなければならない。つまり、「位置-実践」は歴史的、構造的な要素と具体的、個人的な要素を含めて、複雑なネットワークである。要するに、実践を特定の社会状況に置いといる発想によって、「位置-実践」は構造と行為の主体性を結びつける有効なツールになったと言えよう。

### 2.2.2 構造化のサイクル

経験的研究に応用するため、Stones はギデンズの理論を改良して構造と主体的行為の間の相互作用を解明しようとする。また、彼は、事件または状況の重要な組合せとして定義される連結 (Conjuncture) を研究することを提唱した。連結は、構造-行為主体性の中の、四つの異なる要素に関連している：(A) 外部構造(行動の条件であり、行動を可能にさせて、拘束させる場合もある)、(B) 行為者の内部構造(個人が何を知っていることあるいは行為者の知識である)。 (C) 行為(行為者が日常的にまたは戦略的に彼ら内部構造を利用すること) および(D) 結果(外部構造や内部構造の両方が再現または変更されることである) 【図2】。





【図2】 強い構造化理論：構造化のサイクル (Stones、2005)

1. 外部構造【図1】は「独立した強制力と行為者の自由行動を拘束する圧力の条件」であり、「意図せざる結果を生む行為の基盤かもしれない」(Stones, 2005 : 109)。外部構造は行為者の行為を制限し、可能にしている。Stonesによれば、外部構造には二つの形式がある。一つ目では、行為者には抵抗や制御を行う能力がない。第二に、場合によっては、行為者が外部構造を抵抗や変更することができる。これが主に「位置-実践」の調節を通じて可能になる。

2. Stones は内部構造【図1】を「汎用的性向」(The General-Dispositional) と「接続特定力」(The Conjuncturally-Specific) という二つの構成要素からなる複層的な存在として説明している。

Stonesによれば、汎用的性向とは「状況に応じて使い分けることのできるスキル(skill)と性向(disposition)のことであり、一般的な世界観と文化的スキーマ、物事・人々・ネットワークの分類とタイプ分け、行動の原理、典型化された行為の処方箋、深く二元化された意味作用のフレームワーク、一貫性と含蓄のある言説、話し方や身振りや手振りに関する習慣、そしてこの一般化された知識を特定の時間的・空間的な状況のもとで行われる特定の実践において幅広く適用するための方法論(methodology)を含んでいる」。簡単に言えば、Stones自身も認めているように、汎用的性向という概念はBourdieuのハビトゥス概念ときわめて近似している(倉田、2011)。

「接続特定力」(The Conjuncturally-Specific)とは、「接続特定力とは与えられた状況のもとで利用可能な具体的な知識を運用して社会的世界に対して働きかけていくための知的能力を指している」(Stones、2005 : 89)。汎用的性向という概念が、行為者が社会的相互行為において必要な知識を獲得する基盤となる一般的な認知フレームを指しているのに対して、接続特定力という概念は、行為者が社会的相互行為の特定状況に対応するために、汎用的性向というフレームのもとに具体的な知識を獲得し、それを運用していく能力を指している。簡単に言えば、外部構造に対する理解に基づいて、特定の場合にどのように行動するのかに関する知識である。この形式の内部構造は構造化の媒体として、外部構造と内部構造の橋渡しをする。

3. 「行為」【図1】とは、「活動的で、ダイナミックな構造化の時刻」である。(Stones、2005 : 86)。言い換えれば、これは行為者が2つの内部構造の結合によって生じる観察可能な行動である。

4. 「結果」【図1】とは、構造化のサイクルが内部構造および外部構造に与える影響である。構造化のサイクルが終了すると、行為は既存の構造を支援し、強化する可能性があり、既存の構造を破壊、挑戦、または変更する可能性もある。いずれの結果が現れたとしても、次の構造化のサイクルの基盤となっている(Stones、2005 : 85)。

要するに、構造のサイクルの四つの要素は互いに関連している (Stones、2005)。構造は行為の媒介 (内部構造) と行為の結果 (内部構造と外部構造) である。行為は他の要素と密接に絡み合った、不可分かつダイナミックな側面である。

### 2.2.3 強い構造化理論のまとめ

Stones の強い構造化理論から見れば、構造化を研究する際に、四つの要素を考えなければいけない：外的なものに対する研究 (行為者の理解や感覚から分離して外部の社会構造を注意すること)、内的なものに対する研究 (行為者が「知っている」に対する解釈学的研究によって個人の内部の構造を注意すること)、そして行動や結果に対する分析も必要である。このような詳細な方法は、幅広い分野に適用されて、ギデンズの理論の抽象度が高すぎるという批判を乗り越えたとみなされている。

### 2.3 強い構造化理論と本研究

本研究はStones の強構造化理論を援用して、深圳市龍華新区において製造業の新世代農民工のライフスタイルについて研究しておきたい。基本的な枠組みは【表1】に示す。

「位置-実践：新世代農民工-出稼ぎ」

1. 外部構造：グローバル・バリュー・チェーン、二元戸籍制度、中国経済の激変、農民工に対する政策、深圳市龍華新区の自然環境及び労働環境、工場の労働制度などの外部からの歴史的で社会的強制力。
2. 内部構造：①新世代農民工のハビトゥス ②外部構造や具体的な状況に対する認識。
3. 行為：ライフスタイルとしての①仕事、②宿泊、③レジャー。
4. 結果：外部構造と内部構造の継続、変更または再生産。

そして、実証研究を行うにあたって、次のような質問を設定しようと思われる。

1. 行為を促進または拘束する、社会の外部構造の条件はなんだろうか。たとえば政策面の支援、雇用機会の豊富さ、経済条件の相違、教育面の不平等などである。
2. 新世代農民工の「位置-実践」のネットワークはなんだろうか (たとえば新世代農民工、工場管理者、仲介業者、家族、同僚、地元の住民など)。
3. 新世代農民工にとって：①どのような汎用的性向あるいはハビトゥス (身体的特徴、心理的特徴、技能、経験) を持っているのだろうか。②どう行動するべきかを決断する際に、どのような社会構造に関する知識を利用したのか (例えば、どのような行為が正常で、期待され、必要で、合法的だと思

うか)。③彼らはどのような行動を取っているのか。④これらの行為が彼らのライフスタイルにどのような影響を与えているのか。⑤これらの行為は社会構造の再生産また変更にどのような長期的な影響を与えているのか。

【表1】 強い構造化理論により本研究の枠組み

	データ	分析のアプローチ	目的
外部構造	グローバル化、中国の二元戸籍制度、新世代農民に向けての政策、深圳市龍華新区において製造業の状況、工場の制度、日雇い仕事の内容などに関する文献。深圳市龍華新区の基本情報。たとえば、政策、学術文章、ニュース、雑誌、統計調査。	歴史的文脈におけるテーマ別に対する文献調査。	行動条件を構成する社会・歴史・経済的な強制力を研究者の立場から理解する。
内部構造	1. 深圳市龍華新区の製造業新世代農民工に対するインタビュー。 ・ライフストーリーの聞き取り調査：子供の頃の経歴、深圳市に出来た後の経験などを含まれる。 ・半構造化インタビュー：名前、年齢、婚姻、職業、戸籍、深圳市に来た時間、仕事概況(出	現象学的分析方法を用いて、個人に対する意義がある経歴を重点的に扱う。例えば主要な生活事件と重要な関係の発展など。	行動者のハビトゥスや観念を理解し、どのように変化しているのかを把握する。

	<p>稼ぎの動機、年限、仕事内容、仕事収入、同僚や上司との関係など)、宿泊(家賃、状況)、レジャー方式、消費、交際など。</p> <p>(1) ハビトゥスについて :過去の生活環境、教育程度、家庭状況、職業技能、生活習慣。</p> <p>(2) 接続の特定力について :自分の身分に対するアイデンティティ、出稼ぎ生活に対する感じ(好き、反感、逃避など)。日常生活の中で様々な状況に直面するやり方、今後の生活の予定。</p> <p>2. 関係者に対するインタビュー (仲介業者、地元の住民など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半構造化インタビュー</li> </ul>		
行為	<p>新世代農民工に対するインタビュー調査やエスノグラフィー。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事</li> </ul>	シンボリック相互作用論とエスノメソドロジーを用いて、特定の状況における行動を解釈する。	行為者の行動表現を把握する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊</li> <li>・レジャー</li> </ul>		
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接観察できる行為の結果（たとえば、新世代農民工が他の仕事を探す失敗した）。</li> <li>・内部構造と外部構造の変化に対する長期的に記録することにより、行為が構造に及ぼす長期的な影響を研究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定状況において行為を解釈的に分析する。</li> <li>・外部環境(例えば国家の政策)と行為者のハビトゥスに対する縦断研究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会行動の一時的な影響を理解する。</li> <li>・社会行動がどのように社会構造の変化を生むを理解する。</li> </ul>

## 2.4 調査概要

### 2.4.1 研究対象

本研究の調査対象は「三和ゴッド」と呼ばれる深圳市龍華新区製造業新世代農民工7人と地元の住民1人である。概念操作的定義とは、農村戸籍を持ち、農村から深圳市龍華新区の製造業工場に出稼ぎをしており、三和人材市場を活動の中心に6ヶ月以上の時間に滞在している18-34歳の農村男性流動人口である。そして操作の定義に適合することを前提として、調査展開の便利さを考慮しながら、研究対象の多様性と差異を保証し、スノーボールサンプリングの方法を用いる。

NO	年齢	学歴	職種	婚姻状況	三和での滞在期間	戸籍
A	25	高卒	デジタル商品製造業	独身	5年	四川省
B	21	中卒	物流業	独身	2年	湖南省
C	19	高卒	サービス業	独身	1年	江西省
D	30	中卒	建設業	独身	8年	貴州省

E	22	中卒	清掃業	独身	4年	湖北省
F	25	高卒	デジタル商 品製造業	独身	4年	雲南省
G	28	中卒	保安警備業	独身	6年	福建省
H	45	中卒	飲食業自営 者	結婚	18年	広東省深圳 市
I	38	高卒	職業紹介事 業従業員	結婚	16年	福建省

【表2】 調査対象の基本属性

#### 2.4.2 研究方法

定性調査というのは、主にインフォーマル・インタビューとか参与観察、あるいは文書資料とか歴史史料（これは技法による分類）、それから文字、テキストや文章が中心になっているデータを中心に考えるとこういうものが qualitative research と呼ばれる<sup>16</sup>。数字データを使って説明する量的研究とは異なり、質的研究ではそれがなぜ生じたかを探求する。Neuman (1997) によれば「質的研究は数字を避け、社会的事実を重視する解釈である」。新世代農民工の立場に立って、彼らの日常生活実践を理解するために、調査資料に対する詳細な記述と分析は不可欠である。したがって、本研究は質的研究を用いて、深圳市龍華新区製造業新世代農民工のライフスタイルを詳しく研究する。以下の三つの方法がある。

##### (1) 文献調査

先行研究の総合的な解釈と分析を通じて、ライフスタイル研究における全体的な進展と不足点をまとめた。同時に、強い構造化理論の関連著作と論文に重点的に注目し、既存の研究によるこの理論の運用を参考し、本研究の理論の枠組みを導出する。この部分の資料は主に学術論文と学術著作を精査し、専門サイトにアクセスして獲得する。その中で最も注目すべきは、三和往事<sup>17</sup>というサイトであり、その管理人は2015年2月から三和ゴッドの日常生活を文字や写真で記録し始めた。このサイトの内容は非常に詳細で豊富であり、主に彼らの日常会話、仕事状況、余暇生活、情報コミュニケーションなどが含まれている。信頼性が高いという原因は、その内容はいずれも深圳市龍華

<sup>16</sup> 佐藤郁哉, 2011, 「質的研究について考える」『経営行動科学』24 (3) :211-249.

<sup>17</sup> 三和往事, (<http://2019.3hedashen.me/>).

新区製造業新生代農民工の we-chat 群および QQ 群に由来しているからである<sup>18</sup>。このサイトは本研究にとって非常に大きな役割を果たすと言える。筆者もこのサイトを介して、その管理人と連絡を取った後、彼らの we-chat 群および QQ 群に入ることができ、さらに深く調査するためのきっかけになった。

## (2) 半構造化インタビュー

調査時期は 2021 年 4 月—6 月と 2021 年 8 月—11 月である。前期は対面でのインタビューを予定したが、後期は新型コロナウイルスの感染拡大に帰国は困難であるため、インターネットテレビ電話を使ってインタビューを行った。インタビューの使用言語は母語である中国語で、その後に日本語に翻訳し文字化した。インタビューの時間は 1 人あたり 1 時間半前後である。質問項目は以下のとおりである。

### ①基本情報に関する質問

- ・ 氏名、年齢、出身地、婚姻状況、家族構成
- ・ 深圳市三和人材市場に来たきっかけは何ですか
- ・ 三和に住んでいる何年になりますか
- ・ 今までのライフストーリーを聞かせてもらいますか

### ②内部構造に関する質問

- ・ 昔の生活環境はどのようなものでしたか
- ・ 昔の家庭状況はどうでした、家庭が自分に与えられた影響はどのようなものでしたか
- ・ 昔の教育環境はどうでしたか
- ・ あなた自身の性格について、どう思いますか
- ・ あなたはどのような職業技能を持っていますか
- ・ 「新世代農民工」や「三和ゴッド」という身分についてどう思いますか
- ・ 三和での出稼ぎ生活についてどう思いますか
- ・ 就職活動を行う時にどのような方法を使いますか
- ・ 深圳市での生活面と就職面においてどのような困難がありますか
- ・ どのような手段で困難を解決しますか
- ・ 今後はどのように生活する予定ですか

### ③行為に関する質問

---

<sup>18</sup> 群というのは、いわゆるグループチャットとか会議形式のもので、限られたメンバーで構成するものである。基本的に LINE グループみたいなものである。

- ・仕事の内容はなんですか（内容、働く時間、給料）
- ・どこに住んでいますか（賃料、状況）
- ・仕事以外の時間に何をしますか
- ・消費状況はどうですか
- ・交際状況はどうです

#### ④結果に関する質問

- ・今の生活に満足していますか
- ・今の境遇から変わりたいですか
- ・変わりたいと思ったことがあった場合、どのような努力をしましたか
- ・今回の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はあなたの生活にどのような影響を与えました

#### (3) 参与観察

修士1年の夏休みおよび冬休みを利用して現場に非参与観察を行う予定であったが、コロナの影響で帰国できなかったため、この部分は2020年に出版された「三和ゴッド」に関する社会学エスノグラフィー（『三和青年調査』）に依拠する。

## 第三章 行為としてのライフスタイル

強い構造化理論によれば、行為は外部構造と内部構造に対する行為主体のダイナミックな反応に由来する。異なる時間と空間にある行為主体は、外部構造と内部構造の共通作用の下で、異なる行為を生じる。すなわち、行為が我々は外部構造と内部構造に対する観察できる表現である。先行研究によると、ライフスタイルは、生活とその周辺の社会関係に観察される特徴的な慣習、規範、価値観、感情様式などが生活行事、交際などの面で具体的に現れることを指す。ライフスタイルの定義は多いが、その中で最も重要なのは仕事、宿泊、レジャーという3つの方面である。したがって、この3つの側面を通して、三和ゴッドのライフスタイルを詳しく説明したいと思う。

### 3.1 仕事

#### 3.1.1 日雇い仕事

日雇い仕事とは、1日単位で仕事をする中で、仕事が終わるとすぐに給料を払われるものである。三和では、次の4つの場合をいずれも日雇い仕事と呼ぶことができる。一つ目が、朝から仕事



を始めて、夜に帰ってきて、勤務時間は8～12時間、工賃は110～200元（約1900円～3500円ぐらい）である。具体的な金額は仕事の性質と勤務時間および募集時に契約した値で算出される。作業終了後は引率者がその場で配布するかもしれないが三和に戻って仲介者および案内者が配布する。二つ目が、夜から仕事を始め、翌朝または午前中に三和に戻り、勤務時間は8～12時間で、給料決済方式は第一の場合と同じ形態だ。三つ目は、工期が相対的に長く、例えば工期が3日または5日の場合、工期が終了したら給料を统一的に決済するものだ。ただ、これは日雇い仕事とは言えない。労働者は1日当たりの給料の80%～90%しか得られず、残りの一部の給料は工期を続ける圧力として残されるからだ。もちろん、給料の一部を受給せず、翌日仕事を続けない労働者もいる。四つ目が、工期は必ずしも10時間とは限らず、1日で仕事が完了して給料を決済できるもので、これは日雇い仕事ともいえる。



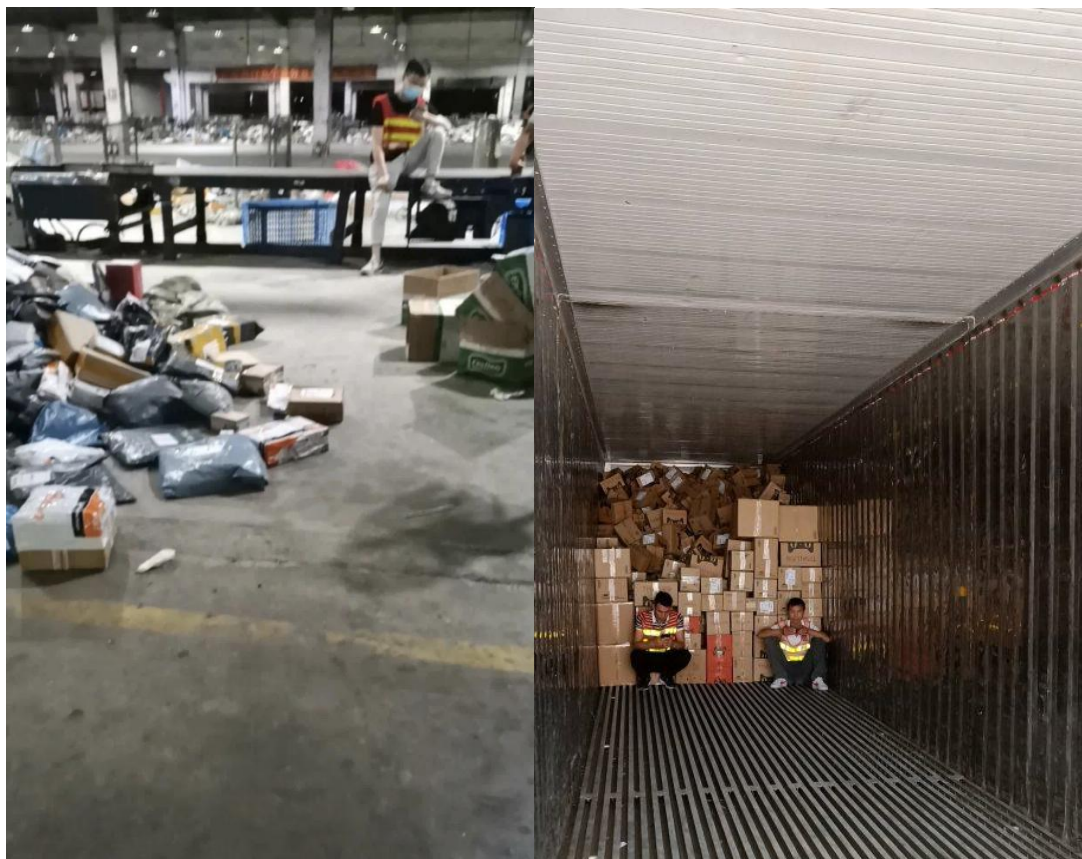
車で職場に運ばれている労働者たち（写真を撮る時間：2021年9月13日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>



荷物を預けて運送バスをまっている労働者たち（写真を撮る時間：2018年11月17日、出所：三和  
往事<http://2020.3hedashen.me/>）

物流業務、工事現場、保安警備業は日雇い仕事の中の最もよく見られる三つの種類と言われる。その中で、物流業務は給料が低く、労働量が多く、連続労働時間が長いことで多くの人に嫌われている。時給は最低9元（約160円）で、最高16元（約280円）で、仕事はスキャン、包装、積み荷で、勤務時間は少なくとも10時間である。そして、夜の仕事と昼に分けて仕事を行うことができる。夜の仕事は夜10時から翌日の朝8時まで、あるいは0時から午前10時まで、それに対して昼間の仕事は朝9時から夜6時までである。物流業務の応募要件はあまり厳しくないため、自分の身分証明書を使うこともできるし、他人の身分証明書を借りる者もいる。物流業務の日雇い仕事の手当は、1食（夕食または昼食）、往復送迎を提供することである。給料決済については、仕事の後にその場で決済したり、三和に戻って仲介業者にお金をもらったりするのが一般的である。物流業務における日雇い仕事は毎日の求人数は多いので、普段に他の日雇い仕事の要件を満たさない場合、物流業務は人々の第一の選択になった。したがって、他の仕事の要件を満たさず、そして収入源がない人々にとって、物流業務の日雇い仕事は彼らが最も給料を得やすい仕事になる。しかし、他の日雇い仕事を選択できる者、また一定の経済基礎がある者はほとんど物流業務に応募しない。



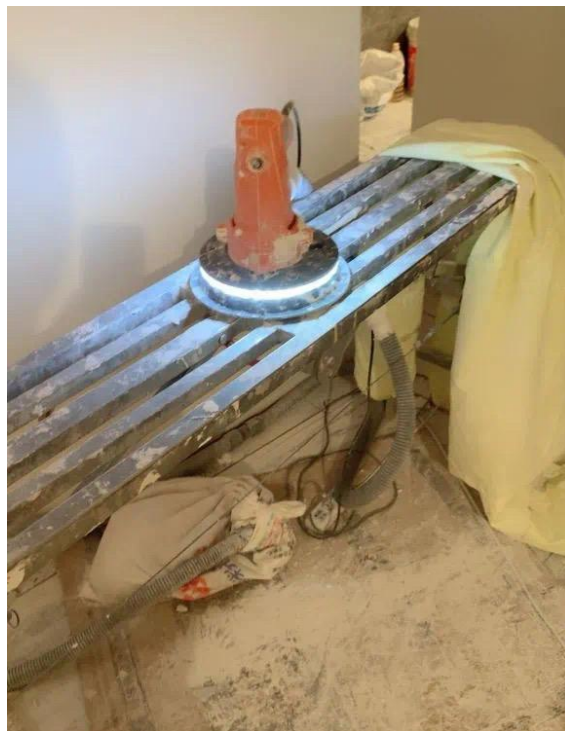
物流業務センターでの日雇い仕事（写真を撮る時間：2021年5月7日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

工事現場における日雇い仕事は大型工事の仕事と小型工事の仕事に分かれている。大型工事現場の日雇い仕事とは、主に工事現場に散らばっている残留廃棄物の清掃、また荷役作業に必要な工事材料の運搬などが含まれる。このような日雇い仕事の求人数は多く、給料は少ない(140～180 元、約 2500 円～3200 円)が、サボることもできる。1 日の労働時間は 8 時間、8 時間を超えると残業時間で計算され、給料は募集時に合意された額で決済され、通常は 1 日 160～220 元 (約 2800 円～3900 円) となる。それに対して小型工事現場は工事量が小さく、人数の需要が少ない工事現場である。仕事の内容としては室内内装や、内装材料の運搬、セメントの作製などである。一般的な応募要件は体格が強く仕事ができるものに限られる。つまり作業員には一定の要求なされるということである。一般の小型工事現場の工数は 8 時間で、自由度はかなり高い。給料は 1 日 180～220 元 (約 3200 円～3900 円) である。



道路修理の工事現場(写真を撮る時間 2021年10月7日、出所 :三和往事<http://2020.3hedashen.me/>)



室内内装の工事現場(写真を撮る時間 :2020年11月17日、出所 :三和往事  
<http://2020.3hedashen.me/>)

保安警備業における日雇い仕事は特定の場所の秩序を維持する非公式スタッフとして働くことである。このような日雇い仕事は毎日募集しているわけではない。ただ、特定の時間に開催された活

動、例えばコンサートを開催する際などに募集される。保安警備業には身長と着用要求(身長1メートル70 cm以上、制服を着用)があり、勤務時間は12時間、給料は130~160元(2300円~2800円)がある。軽く手を付ける仕事としての保安警備業の日雇い仕事は三和ゴッドが最も懂れる日雇い仕事と言える。



バス乗り場で休憩中の日雇い労働者(写真を撮る時間:2021年10月10日、出所:三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

仕事が見つからなかった人は、“くそっ、また一步遅れた。早く起きるべきだ”とののしった。いっぽう、仕事を探している人たちをあざ笑っているように、慌てずに立っている人もいた。“今日は行かないで、一緒に‘掛逼’しよう!”。

ここでは、この三和ゴッドの中で、最も使用頻度の高い言葉を説明しておきたい。「掛逼」はまず動詞として使われることができる。第一に、“あの人は掛逼した!”、つまり死亡を意味している。第二に、犯罪で警察に連行されることを意味している。第三に、最も基本的な生活需要に満足できず、食事や宿泊するお金がなくて掛逼した。第三には三和ゴッドの生活でよく見られる状況である。

そして、「掛逼」はまた形容詞として使われている。三和ゴートは比較的安いものの前に「掛逼」をつけていた。例えば、「掛逼水」36円のボトルウォーター)、「掛逼麵」89円のラーメン)、「掛逼ベッド」266円一泊の安宿)、「掛逼女」むかし三和でよく見られる風俗女)など。また、日雇い仕事の前に「掛逼」をつけることがある。例えば、「掛逼警備員」か、「掛逼工人」か、いずれもこの日雇い仕事に対する軽蔑を意味している。

また、「掛逼」時々自嘲と自己保護の意味も含まれている。三和ゴッドが互にあいさつする時、いつも“おれは掛逼した”と言った。これはもう食事のお金がないということを意味する。だが、少しお金を稼いでも、彼らは自分が掛逼したと言う。その目的は、他人にお金が借りられることを避けることができ、時々場合によっては他人の助けを得ることができることである。

日雇い仕事募集場所の中心は三和人力市場であり、三和市场には、三和人力資源集団という大手の職業紹介会社のほかに、大小十数社の職業紹介会社がある。彼らはいっしょに三和市场の中で最も主要な経営活動を構成している、つまり労働力を募集する。朝6時半ごろ、会社の営業に伴い、人々は殺到した。会社に入って座って、静かに目を閉じている人もいるし、コンセントに近い位置に来て携帯電話を充電する人もいる。ほかにもあちこちに好きな日雇い仕事を探し人もいる。8時ごろ、すべての会社はすでに営業して始まった。





前コロナ時代の人力市場の様子（写真を撮る時間：2019

年5月2日、2018年12月6日出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)



朝の人力派遣会社の人々（写真を撮る時間：2021年10月3日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

### 3.1.2 仲介

朝7時半になると、日雇い仕事の募集が終わる。そのため、人々は別の日雇い仕事、あるいは「臨時工」選ぶことが多い。臨時工とは、本工労働者（常用雇用の正規労働者）と異なり、短期の労働契約で雇用されている主として製造業に従事している労働者をいう。通常、三和における臨時工の仕事内容は深川の各製造業工場に入り、電子商品の組み立てなどの生産ラインでの操作を含む。臨時工を募集する過程で、仲介が大きな影響を与えた。





日雇い派遣や臨時工を募集中（写真を撮る時間：2020年4月9日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>



人力派遣会社での求人情報（写真を撮る時間：2021年10月4日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>

人力派遣会社あるいは職業紹介所の1社当たり少なくとも10~20所の提携工場がある。一方で工場は主に労働集約型産業を主とし、求人数は非常に多く、職業技能レベルが低い外来の出稼ぎ労働者にも向けられている。しかし、人力派遣会社の正社員数が限られているため、臨時工の募集とい

う仕事は個人仲介者に外部委託されるケースがよく見られる。だが人力派遣会社と比べ、個人仲介者は工場と直接に関連していない。つまり、三和では、臨時工—個人仲介者—人力派遣会社—工場という関係がよく見られる。人力派遣会社は募集の権力を個人仲介者に委託し、いくつかの工場の求人を担当させる。募集が終ると個人仲介者はすでに募集した人を人力派遣会社に引き渡し、人力派遣会社が画一的に労働者の工場に入るの手続きの準備をする。これにより個人仲介業者は一定の料金を得ることができる。ここで注意すべきは、個人仲介者は人力派遣会社の正社員ではなく、完全に人力派遣会社の名を掲げて収入を得ることを目的としている。

個人仲介業者は人力派遣会社から人件費を稼いでいるが、人力派遣会社は時間と労力を節約している。両者の間には利益上の協力関係が存在する。このような相互の利益関係は、人力派遣会社、個人仲介者、労働者との関係を決定付けている。つまり、人力派遣会社と個人仲介者は臨時工の募集過程で収入を得、労働者は彼らの「獲物」になっている。ある意味で、工場、人力派遣会社と個人仲介者の3者が一つの利益共同体であり、安定した持続的な協力関係を実現している。したがって、トラブルが発生した場合、管理側は彼らの利益を保護する傾向があり、不正を無視することもありうる。また、これにより就職活動の過程でトラブルが発生した場合、労働者は搾取される側となった。

個人仲介業者は身分証明書を手に、大きな声で叫びながら、身分証明書でテーブルを叩いた。“臨時工募集中、1時間で15元、龍華の給料が一番高い工場だ。すでに応募した人は12時半にここに集合しろ”。同時に人々が自分の好きな仕事を探し、様々な職場の待遇を比較している。入りたい工場を決めた後、個人仲介業者に身分証明書を渡す必要がある。身分証明書を提出するのは人力市場内で暗黙な規則であり、この行為で契約関係の達成のようであるが、そもそも身分証明書を提出すること自体は一つの不平等な契約関係である。応募者だけが身分証明書を提出して「抵当物」しているが、個人仲介業者が提供したのは口契約にすぎない。人力派遣会社や個人仲介業者が約束を破ったり、認めない場合があると、応募者は途方に暮れてしまう恐れがある。稀にだまされた三和ゴッドは人力派遣会社や個人仲介業者を「ブラック仲介」ののしっている原因である。よく見られることとして、違約やトラブルが生じた際に、応募者は身分証明書を提出してしまっているため、仲介業者と口頭契約をしたことを証明する証拠がないという状況である。



ブラック仲介を倒れ！（写真を撮る時間：2021年9月27日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>

仕事を紹介する過程で、どの個人仲介業者の側にも自分のやり方がある。例えば、“工場の給料が高いだけでなく、様々な福祉もあり、さらに無料Wi-Fiもある”。またまた、先に同郷の身分を強調し、それから工場と職場のメリットを紹介していくという心理的に考えられた勧誘の仕方のみられる。もし応募者が紹介された仕事に興味を示さないとき、仲介業者は“せっかく出稼ぎしたのに、金を稼がなければならないでしょう。工場に入ってサボっていてもいい”と言うこともある。いずれの方法と手段を採用してでも、とにかく労働者を工場に送ることが彼らの最終目的である。誰であれ工場に入れば、彼らは相応の収入が得られるからだ。これがまさに三和ゴッドが最も軽蔑していることである。自分が工場に入りたくない大きな理由は、仲介の搾取を断ることにある。しかし、仲介がなければ仕事を見つけることは難しい。



個人仲介業者 (写真を撮る時間 : 2018年12月9日、出所 : 三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)



注意事項を説明している仲介業者 (写真を撮る時間 : 2021年6月8日、出所 : 三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

個人仲介業者—人力派遣会社—工場というモデルは、三和ゴッドによれば“おれはまた他の人に売られた”という言葉に象徴される。三和人力市場では、労働者は確かに商品のように転売されており、労働者たちの意志は誰も気にしていない。金儲け至上主義に駆られており、労働者の権利をどのように守るべきかにまで考えが及ぶ人はいない。“三和の仲介はすべてブラック仲介だ。工場に入りたいと思っても必ずこれらの仲介を利用するのではなく、知り合いの紹介を頼るか、自分から工場に行って直接応募していこうよ”と言う者もいる。だが、“これらの仲介業者がなければ、おれは今ごろ餓死していたんだ。仲介を利用しないなら、どこからこんなに多くの求人情報を手に入れることができるのか。仲介を嫌うとはよく言えたものだ。これらの仲介業者がいればこそ仕事を見つけることができるだろう”。このように述べる者もいる。

### 3.1.3 本節の議論

日雇い仕事は三和人力市場の中の重要な一環として、参入者の利益均衡点といえる。第一に、日雇い仕事は参入者が期待収益を獲得するための道具である。工場の場合、日雇い仕事は管理、給与、社会保険などのコストを下げ、柔軟な労使関係を提供するものだ。仲介に関しては、日雇い仕事は定期的な求職需要を持つ労働力の存在を保証し、自分の利益を耐えず追及するものだ。三和ゴッドにとって、日雇い仕事は生存に基本的な保障を提供し、時間管理、職種選択により大きな自由を提供した。第二に、日雇い仕事は参入者が規則を破壊して利益を最大化する道となった。利益追求は行為主体に対する経済学の基本的な仮定とはいえ、利益を追求することは行為主体が合法的、道徳的かつ他人の利益を損なわない上で、自身の優位を通じて自分が得られる最大の利益を獲得する行為であるべきである。しかし三和人力市場では、ルールの破壊がそれぞれの利益最大化を追求する道となっている。例えば、工場の場合は給料を減額する行為がしばしば発生している。そして仲介は、仕事のメリットだけを誇張し、そのデメリットを無視して触れないこともよくあることである。三和ゴッドにとって、つらい仕事を避け、楽な仕事を選ぶことで、怠惰でいることは珍しくない。

要するに、日雇い仕事は参入者に柔軟、便利、自由な方法を提供すると同時に、責任や信頼欠損の種をまく。そして、この欠損は逆に日雇い仕事の全体的構造を強化している。結局、三和人力市場を依存している労働者から見れば、日雇い仕事は逆にリスク回避の最も有効な手段となっている。

## 3.2 宿泊

### 3.2.1 安宿

三和では景楽新村が三和市场から一番近い宿泊区である。ここには約50棟のビルがレンタルされているが、1棟当たり通常5~10階ある。各アパートのオーナーはすでに三和を離れており、賃貸や管理を担当するのは個人安宿営業者、すなわち安宿のオーナーであり、彼らは労働者の異なるの需要を満足するため、部屋の改造を行っている。



三和人力市場の周辺（筆者自制）

景楽新村のほかにも、三和人力市場から少し離れた花園新村と錦繡新村の宿泊区があるが、多くの人は景楽新村を選んでいる。ここは三和人力市場に近いので、仕事を探すのが非常に都合がよい。もう一つの理由として、景楽新村の生活コストが最も便利で安価だからである。例えばネットカフェは、景楽新村に30軒以上のネットカフェが存在し、1時間の料金は1.5元（約88円）で、夜間利用はわずかに8元（142円）である。そして、さまざまな飲食店も24時間に営業している。また、青年たちはいつもぎやかな景楽新村に集まるため、そこには共通の呼び方がある。三和ゴッドによれば、景楽新村は彼らの「基地」と言える。

多くの個人安宿営業者は以前に深圳にきた労働者、いわゆる第一世代農民工である。また、子供が深圳に定住し、孫の面倒を見るためにここに来た者もいる。実際に彼らの多くは地元の者ではなく、実際の大家の多くは香港に定住している元深圳市住民である。個人安宿営業者はアパートのオーナーと契約を結び、毎月数千元でアパートの一階を借りていた。三和人力市場が台頭した当初、個人安宿営業者はここに潜在的な宿泊ニーズがあることに気づいていた。彼らは異なるレベルの消費需要に応じて、ドミトリーと個室を設置した。アパートのオーナーへの賃料を差し引くと、各階の毎月の純収入は数万元である。個人安宿営業者の業務は、まず客引き、次は毎日部屋を掃除し、

トイレや廊下のゴミを掃除することである。返却された部屋を掃除するたびに、ただ一番汚れた枕カバーを交換し、ベッドのシーツと毛布を畳み、毎回交換して洗うことは少ない。



小さな看板を持って安宿の呼び込みをしている安宿営業者（写真を撮る時間：2018年1月30日、

出所：【深センノマド編】<https://www.cubmaga.com/shenzhen-4/#30500>)



安宿（写真を撮る時間：2018年1月30日、出所：【深センノマド編】

<https://www.cubmaga.com/shenzhen-4/#30500>

三和ゴッドの宿泊状況を描くために、安宿の中の2つのタイプとしてのドミトリーと個室を詳しく紹介しておきたい。安宿に来ると、まず身分証明書の登録が必要になり、その後、営業者は宿泊



者の身分証明書番号、安宿のWi-Fi 情報、そしてチェックイン時間、宿泊期限、賃料、保証金がかかれたレシートを返す。賃料が最も安い安宿であっても、登録の手続きが必要になる。三和における安宿では、月曜日から金曜日までドミトリーと個室を得やすいが、週末だと状況が変わる。週末の日雇い仕事は多くないので、チェックアウトの人も少ない。

普段、ドミトリーは一泊 15～20 元（約 266～355 円）である。ドミトリーに入ると、すぐに足の臭い、汗臭さやトイレのにおいを感じた。30 平米未満のルームには 4 つの二段ベッドが置かれており、さらにいくつかの椅子で作られたベッドがある。掃除されたと言ったが、ベッドがやはり汚れていて、近づくと嫌な匂いがある。一見するとベッドで様々な服が乱雑に置かれており、開封したミネラルウォーターが勝手にゆかに置かれ、コンセントはベッドの上に置かれて携帯電話に充電されている。横になって寝ているものはみなは裸にパンツ一枚しか身に付けていない。一方的に寝ていない人は携帯電話を持ってビデオを見たり、ゲームをしたりしている。部屋には多くの人が住んでいるが、会話をする人はあまりいない。彼らはそれぞれベッドの上に横になって携帯電話をいじって、様々なタイプの小説を読んだり、様々なスマホゲームをしたり、ショットビデオを見たりして、お互いに最も簡単なあいさつもしない。さらに、自分の財産を守るために身を横にして寝ており、携帯電話を内側のズボンの袋に入れ、ズボンを履いて寝ている人がいる。汲み取り式便所と蛇口を設置しているトイレは 3 平米ぐらいの部屋で、ドアの鍵はとっくに壊れていた。ドミトリーで息苦しくて眠れず、ベランダに行き換気したいのかもしれないが、実際にもともと大きなベランダはすでに営業者に利用されていた。ベランダは柵板で 2 つの部分に分かれており、奥側に簡易な個室が作られている。



中国のインターネットでもっとも有名な三和ゴッドの安宿の写真（写真を撮る時間：2018 年 1 月 20 日、出所：<https://zhuanlan.zhihu.com/p/33118916>）



ドミトリーの様子(写真を撮る時間 2020年7月23日、出所 :三和往事<http://2020.3hedashen.me/>)



ドミトリーの様子(写真を撮る時間 2020年10月10日、出所 :三和往事<http://2020.3hedashen.me/>)



ドミトリーの様子(写真を撮る時間 2021年11月8日、出所 [三和往事http://2020.3hedashen.me/](http://2020.3hedashen.me/))

個室の値段は一泊30～60元(約533～1065円)である。二段ベッドでいっぱいにあるドミトリーの隣にはいくつかの個室があるが、空間の大きさや条件が異なるので、値段も同じではない。独立したトイレがある部屋もあれば、小さなベランダがある部屋もある。120平方メートルの部屋は通常に営業者によって十数個の大きさの異なる個室に改造された。ある個室はトイレから改造されたが、さらに台所で改造された個室もある。一番高いのは一泊60元(約1065円)の個室であり、空間が大きさと独立したトイレだけでなく、柔らかなマットレスと液晶テレビも整備している。要するに、安宿の営業者が異なる種類の部屋を設置した理由は、三和ゴッドの異なる状況での異なる宿泊ニーズに合わせるためである。



個室の様子（写真を撮る時間：2018年1月30日、出所：【深センノマド編】

<https://www.cubmaga.com/shenzhen-4/#30500>

### 3.2.2 「無料」の宿泊

三和には、さらに極端で無料な宿泊方式も存在している。すなわち野宿と24時間営業店舗に寝泊りである。24時間営業店舗には三和人力市場近くのケンタッキー、マクドナルド、カラオケ、ネットカフェが含まれている。野宿の人々は主に各人力派遣会社の入り口、龍華公園及び景楽新村の路地に分布している。



景楽新村の路地で寝ている三和ゴッド（写真を撮る時間：2018年3月4日、2019年9月15日、

出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>

ケンタッキーとマクドナルドで寝泊りする人は寝るだけ、何の消費行為も行っていない。ネットカフェで寝泊りするには、まずもっとも安いテーブル席の料金を支払う必要があり、遊び疲れたらテーブルでうつ伏せ、あるいは椅子で寝る。また、管理者に追い払われる可能性があるので、ごく少数の人が三和人力市場周辺のカラオケで寝ることを選択している。実際、本当にお金がない三和ゴッドは各人力派遣会社の入り口、龍華公園あるいは景楽新村の路地で寝ることが多い。



寝る場所としてのネットカフェ（写真を撮る時間：2019年6月4日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>

野宿といっても、いい場所は少ない。夜9時過ぎになると、次々と好ましい場所を取り始める者もいる。まだ寝る時間にはなっていないにもかかわらず、すでにそこで座っている者もいた。彼らはこれ以上遅く来ると、休む場所すら見つからないことを心配しているのである。人力派遣会社の入り口で寝るのが好きな人にとっては、ここは三和人材市場に一番近いので、朝日雇い仕事を探すのにもっとも都合がよかった。無料宿泊という生活状況は、まさに彼らが本当に無一文であり、日雇い仕事で生き続ける唯一の道となったことを意味している。龍華公園は三和人材市場に一番近い公園で、市民の休憩と娯楽のための場所であり、きれいなベンチが多いので、龍華公園で寝ることを選んだ三和ゴッドもいる。晴れた夜、人々は地面に敷物を敷いて、翌日の朝までそのまま寝ることができるが、雨の日の夜になると、状況は楽観できない。彼らは周りの店でダンボールを買ってダンボールハウスを作らなければならない。



人力派遣会社の入り口で寝泊りする人（写真を撮る時間：2017年4月12日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

屋外で寝泊りする人の多くは極端な貧乏で、唯一の財産は身分証明書や携帯電話のみかもしれない。日雇い仕事をして手に入れた給料があるが、盗難事件は頻発する。重要な個人財産をどのように保護するのだろうか。靴下にお金をはさみ買い物をするときは靴を脱いで靴下からお金を取り出す者もあり、彼らは寝るときも靴を脱がない。三和ゴッドはそれぞれ異なる方法で自分の財産を保護する。深圳の冬は中国北部の冬のように冷たいわけではないが、肌にも寒さを感じる。冬の野宿がもっともつらいので、野宿経験のある三和ゴッドはすでに毛布を用意している。そうすれば、冬には凍えることなく風を避ける場所を探して寝泊りすることができる。極度に貧しい三和ゴッドにとっては、服を少し多めに着て、寒さと風雨に耐えるほかない。「豪華」安宿に泊まるために、彼らはできるだけ日雇い仕事をしてお金を稼ぐ。





龍華公園で寝泊りする人（写真を撮る時間：2021年4月23日、2018年7月21日、出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>）

### 3.2.3 本節の議論

日雇い仕事が三和ゴッドに必要な経済的基盤を提供しているとすれば、宿泊の環境は三和ゴッドのライフスタイルを根本的に強化させている。最近、一部の研究者は構造機能主義の視点を用いて都市部において安宿の合理性と積極的な意義を指摘した。彼らは、安宿は外来人口が大都市に参入する踏み台として、農村人口に有利であると考えている。安宿は大都市に労働力と消費者を提供するとともに、出稼ぎ労働者のための階層移動の可能性を創出し、都市の包容力を体現している。しかし注目すべきは、三和人力市場と三和ゴッドが注目されている理由が、私たちが都市の包容力を見ただけではなく、様々な報道を通じて、三和ゴッドが都市と社会の底辺に溺れている生活世界を切実に見ていることである。

## 3.3 レジャー

### 3.3.1 ネットカフェ

三和ゴッドにとって、ネットカフェは彼らのレジャー生活の中で非常に重要な場所だ。安宿が溢れている景楽新村とその周辺には、50室以上のネットカフェが存在する。これらのネットカフェに入ると、汗の臭い、足の臭い、タバコの臭いとインスタントラーメンの臭いが混じった臭いが漂っている。これは三和ネットカフェ独特の臭いと言える。普通のネットカフェのパソコンの数はだい



たい30～50台である。コンピュータには、新しいタイプのプロセッサ、液晶モニター、ヘッドセットと高速広帯域が配置されて、ゲームをすることも、映画を観ることも、チャットをすることも、音楽を聴くことも、なんでもできる。パソコンの性能がいい一方で、多くのネットカフェは空間が狭く、パソコンを置くことができる場所は十分に利用しなければならない。60平方メートル未満のネットカフェには30台以上のパソコンが設置されているが、トイレは約1平方メートルしかない。条件の良いネットカフェは複数のエアコンを設置してあるので、暑い夏には涼しさを感じることができる。このようなネットカフェは毎日三和ゴッドによっていち早く満席になるが、席を取れなかった者は条件の悪いネットカフェを選び暑さに耐えなければならない。条件の悪いネットカフェは、コストを節約するために、通常エアコンが1台しかなく、ただ扇風機や天井扇を依頼して換気している。これはネットカフェがどこでもベタベタしている原因となっている。ネットカフェの衛生条件は劣悪で、もともと黄色の革製椅子はもう黒くなった。マウスを手にとると油っぽいものが手について、ヘッドセットの縁にも黒い跡があり、耳に当てるのがつらい。暑い夏には、人が密集して空気が流れなく、様々な臭いが混じり、普通の人には耐え難いに違いないが、三和ゴッドはそれをぜんぜん気にしていないようだった。三和以外の高いネットカフェに対して、彼らはこの価格しか払えない。安全を保障するために、どのネットカフェにも5、6台の監視カメラが設置されているが、ネットカフェを利用者は混雑しているので、窃盗事件は頻発する。深夜になると人々が寝るとき、窃盗犯が時折現れる。経験者いわく、ネットカフェで寝ている時にカバンを胸に置いたり、お尻の下に置いたりしているが、貴重品の紛失も避けられない。ネットカフェの管理者が貴重品を紛失しても責任を取らないため、ネットカフェの監視カメラはただ装飾品と言える。警察に通報しても、紛失した貴重品は被害金額に達していないため、ほとんどのネットカフェの壁には“自分の財産をちゃんと保存して下さい、紛失したら自分の責任だ”という標語が貼られている。



ネットゲームを夢中になっている三和ゴッド (写真を撮る時間 : 2019 年 4 月 15 日、出所 : 三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)



大きいサイズモニターのパソコンは 1.7 元 (約 30 円) 一時間、標準サイズモニターのパソコンは 1.3 元 (23 円) 一時間 (写真を撮る時間 2017 年 6 月 27 日、出所 : 三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)

本章 2 節で述べたように、ネットカフェはレジャーの機能を持つだけでなく、ドミトリーや個室の機能等価物として宿泊の機能を果たしている。特にネットゲームを熱中している三和ゴッドにとって、夜間のネットカフェはレジャーと宿泊の最適の場所である。ネットカフェを住所として、なかばネットカフェに住んでいる人もいる。彼らはネットカフェの外部に出なくても食事を注文するこ

とができる。食料品の販売員はネットカフェを行き来する。ペンと本を片手に、食品を注文した三和ゴッドのパソコンの番号と注文した内容を記録していく。出来上がるとすぐに彼らの席に送る。深夜になると、三和ゴッドはネットカフェでインスタントラーメンを買って、ネットカフェ特有の臭いの中で食品、ゲーム、ライブ配信と映画等を享受する。時々、ネットカフェの外で洗濯物が見られる。一部の三和ゴッドは自分の荷物をネットカフェに持って行って、ネットカフェのトイレでお風呂に入ったり、着替えたりすることもできる。

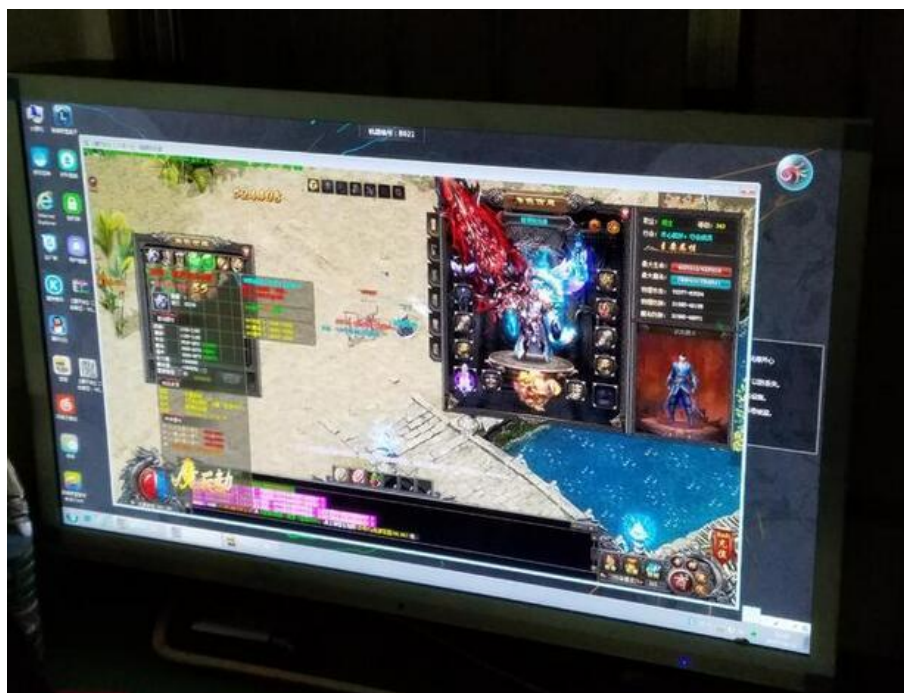


夜のネットカフェ（写真を撮る時間：2020年9月9日、2020年11月17日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>

朝6時、時給の高い日雇い仕事を見つけるために、一部の三和ゴッドはすぐに起床する。あるいはネットゲームを止める。夜更かしによる眠気とつらい姿勢での座り方によるしびれがあって、完全に目を覚ますことができなかった。歯ブラシやタオルがないので、早起きの方はトイレで簡単に顔を洗うしかない。その後、ネットカフェの入り口に立って目を覚ますと、ネットカフェからほど近い三和人力市場までふらふらと歩いて行く。早起きは良い仕事を見つけることができることを意味するのである。8時過ぎになると、三和人力市場の朝の日雇い仕事の募集が終わり、気に入った仕事が見つからない人はまたネットカフェに戻ってくる。夜勤を終えたばかりの人も一部ネットカフェに来ており、ネットカフェは再び休憩場所としての機能を果たす。夜勤をした人にとっては、安宿の個室やドミトリーに行ったほうが、ネットカフェで休んだほうが良いこともある。

ネットカフェには、宿泊やレジャー機能のほか、現実逃避の機能が持っている。大都市生活の孤独感から抜け出すため、三和ゴッドはネットカフェで自堕落な生活を送る。ネットカフェに依存することは、インターネットを通じた精神世界で自分の需要を満たすためである。いつかネットゲーム内の宝箱を手に入れ、それを売って三和を離れると妄想している者もいる。ライブ配信を見るのが好きな者は1日の給料をかけたでも、目当てのかわいい女の子との話すことを望んでいる。彼らはインターネットのバーチャルの中で、現実で得られない刺激を手に入れているのである。



ヒットとなったネットゲーム（写真を撮る時間：2021年7月9日、

出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>）

### 3.3.2 宝くじとギャンブル

その他、宝くじとギャンブルは三和ゴッドのレジャー生活における2つの重要な側面を構成している。

午前9時に宝くじを販売する店が開いた時、まだ多くの人影はまばらだった。入り口で待っている三和ゴッドの多くは、朝の日雇い仕事が見つからなかった者あるいは仕事に行く気が起こらなかった者である。まれに夜勤をしたばかりの者もいるが、彼らは帰ってきてからすぐにネットカフェや安宿に行きたくなくて、宝くじ店を休憩や娯楽の場所に使っている。また、実際に宝くじを買いに行くためではなく、宝くじ店のにぎやかな雰囲気が集まってくる者もいる。昼になると、ますます多くの三和ゴッドが宝くじ店に集まり、20平方メートル未満の店内に集う人々には30人以上に達する。



宝くじ店で集まる三和ゴッド（写真を撮る時間：2021年10月3日、2020年7月3日

出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)

三和人力市場の周辺では、毎日数軒の宝くじ店が営業している。宝くじ店の店内には様々な種類の宝くじがあり、日本の宝くじ店と同様に、主にジャンボ宝くじ、通常宝くじ、数字選択式宝くじ、スクラッチくじを販売しているが、三和ゴッドは一般にジャンボ宝くじ、通常宝くじやスクラッチくじには興味がない。いくつかの原因がある。まず経済条件の制限により、彼らの経済状況がよくないため、宝くじを買うことは、彼らにとってギャンブルの意味もあれば、娯楽享受の意味も存在す

ることである。したがって、当選金額の高いジャンボ宝くじはあまり人気ではない。そして時間の長さの要因も関係している。なぜなら彼らにとって年間宝くじや通常宝くじの抽選期間が長すぎるため、毎日午後に抽選を開始し、結果をすぐに知られる数字選択式宝くじが最良の選択とされるからである。3つ目は娯楽としての要因である。スクラッチくじは安く、当たったかどうかをその場ですぐに確認できる。しかし三和ゴッドにとっては、スクラッチくじは娯楽性が欠けており、抽選の直前の刺激的な感覚をもたらすことはできない。最後は人間関係の要因の影響である。店に集まって宝くじを購入した三和ゴッドたちが話題にしているのは数字選択式宝くじであることが多く、互いに経験を学ぶことができる。



抽選結果を待っている人（写真を撮る時間：2021年2月22日、出所：三和往事

<http://2020.3hedashen.me/>)

結局、苦勞して稼いだ給料をすぐに使いきってしまう。多くの場合、三和ゴッドは残った数元の所持金を食費にあてるのではなく、宝くじにあてた。所持金の底がつけばまた日雇い仕事を探していく。“どうせ二元しか残っていないだから、賭けてみよう”と考え、無一文にならないと仕事をやらない。宝くじ店はこうして彼らが「掛逼」状態をプッシュする場所となった。宝くじを買った経験がない三和ゴッドも、他の者が宝くじを当たったという噂を聞いて、自分もいつかこの棚からぼた餅が落ちてくるかもしれないと思い、宝くじ店に来た。宝くじを買うことは今の生活状態を改善するため有効な方法ではないことは誰もが知っているが、ほとんどの者が宝くじの誘

惑から逃れることが難しい。最初宝くじ屋に集まっている三和ゴッドの多くは好奇心に駆られ刺激を得るつもりで来店する。しかし、最後は宝くじに夢中になってしまう。最後まで抜け出すことができず、「掛逼」状態で目が覚めたときには、手遅れであったということが多い。宝くじを買うことが生活に欠かせないことだと考える者もいる。彼らはお金があればすぐに宝くじ店に宝くじを買いに行く。最後の1元を使うまで。

夜になり宝くじ店が閉店すると、ギャンブルが彼らの娯楽活動になる。三和ゴッドが夜でギャンブルを行うもう一つの理由は、中国の法律の下では、公共空間でギャンブルを行うのは違法行為であるためである。彼らは夜に警察の数が少なくなるまで、ギャンブルを始めるのを待つしかない。ギャンブルにはよく組織の者がおり、彼はトランプを一箱取り出して、周囲の者にトランプゲームをするかどうかを聞く。数人が集まればすぐに始まる。トランプゲームをしている者が敷物に座り、上手に洗牌して山札にした。そばには何人かの三和ゴッドがあたりにうずくまって見ている、時々ゲームのディテールを討論していた。トランプゲームを遊びの三和ゴッドが起き上がる前に分けた山札を持ち、手札を上手にして順番を並べ、他のプレイヤーの「地主」<sup>19</sup>を待っている。プレイヤーが足元に小銭を置いていて、通常十数元か数元だった。5分もたたないうちに、1回の勝負が終わり、負けた人はトランプにお金を置いて勝つ人がそれ持って行く。三和におけるトランプゲームのルールは、一回で勘定とし、借金をしてはならず、所持金が底をつけば帰ってもらうことになっている。闘地主の毎回の勝負金額は通常1〜5元（約18〜90円）であり、勝負金額はそんなに大きくないが、三和ゴッドにとっては一食を得るのに十分である。そのため、トランプという娯楽活動も一定の経済的基盤の上に構築されている。

夜12時以降、トランプゲームはもう簡単な数元の娯楽だけではなく、本当のギャンブルになった。巡査が仕事を終えたので、誰も管理していないと、トランプをする人が増え、形も変わった。最初は三人で遊んでいた闘地主で、その後は五、六人が遊んだ3 Card Brag（スリーカード・ブラグ）で、後者は前者よりも簡単に、勝負を決める時間は短い。まず1人当たり3枚のトランプを発行して、一定のルールで配られた手札の強い順を比べていく。衝動的に所持金を全部つぎ込む青年がいれば、一度にすべての金を使い果たした可能性がある。

---

<sup>19</sup>闘地主は、中華圏で最も盛んなトランプゲームのひとつである。地主と小作人（農民）の闘いがテーマとなっており、ゲームでは、1人の地主に対して二人の小作人が勝負を挑戦する。日本の大貧民（大富豪）と同じような遊び方で、ゲームの主題も似ていることから、これらは起源の面で関連があるといわれている。



トランプゲームをやっている三和ゴッド (写真を撮る時間：2021年7月2日、2021年7月23日、

出所：三和往事 <http://2020.3hedashen.me/>)



### 3.3.3 本節の議論

三和ゴッドがギャンブルや宝くじを夢中になって、最終的に「掛逼」していくプロセスは、一つの漸進的な自堕落の過程と言える。前述したように、多くの新世代農民工は三和人力市場にきた最初の目的は仕事を探すことだったが、しばらくは適切な日雇い仕事が見つからず、生活を維持できる資金に余裕があるため、仕事に行くべき緊迫感に欠けていることもある。宝くじ店で一晩で金持ちになったという伝説は、宝くじを買ってお金を稼ぐのが仕事より楽だと勘違いさせていく。三和青年が寝食を忘れて数日続けて遊んだ後、わずかな所持金を宝くじで使い果たし、最終的には「掛逼」状態に入るしかなかった。悔い改めることができれば、まだ正しい軌道に戻ることができるかもしれないが、三和人力市場のような環境では、本当に悔悟した青年の占める割合は高くなく、ますます深くなっていくことが多い。金持ちになる夢を持つ三和ゴッドにとって、三和で仕事を得る機会はほとんどなく、運だけで金持ちになるしかない。ギャンブルにのめり込む青年の中には、ギャンブルはいくらあがいても這い上がれない底なしの沼だと認識している人もいるだろう。実際、何度もギャンブルを経験した後、一部の人はもうセルフネグレクトになる者もいる。“やはり一日働ければ、三日が遊べるというライフスタイルをすると良い”と考える人が多い。したがって、宝くじよりもギャンブルによる負の影響が大きく、後者の方が短時間で多くの金を消費できるためであることが分かる。ギャンブルの刺激度も宝くじよりはるかに高いことに加え、ギャンブルの過程で常に多くの人が見物し、参加者を抜け出すことができない注目される雰囲気になっている。このような状況の中で、三和ゴッドのライフスタイルは以上のように形成されていた。

## 第四章 外部構造

本章では、まずグローバル・バリュー・チェーン (Global Value Chain: GVC) という概念を導入している。そして本研究の調査地としての深圳市や深圳市龍華新区の基本状況を紹介し、三和人材市場の歴史的な流れまた深圳市との位置づけから、「三和ゴッド」が直面する外部構造を分析しておきたい。強い構造化理論から見れば、外部構造は「独立した強制力と行為者の自由行動を拘束する圧力の条件」であり、「意図せざる結果を生む行為の基盤かもしれない」(Stones, 2005 : 109)。これらの構造は研究対象が直面した条件を直接的に構成し、彼らの現在の生活様式、規範、ハビトウスを形作っている。したがって、強い構造化理論を用いるには重要な外部構造を理解する必要がある。三和ゴッドが直面する歴史的・社会的強制力を探すために、まず筆者が目指すのは、現有の

文献、ウェブサイト、文書、統計資料などのテキストを調べ、深圳市龍華新区及び三和人力市場の発展状況と歴史を理解することである。

## 4.1 深圳市の概況

### 4.1.1 グローバル・バリュー・チェーンの中の「世界の工場」

井口 (2014) によれば、グローバル・バリュー・チェーン (Global Value Chain、以下「GVC」という) という概念は、製造業などにおいて生産工程が国内外に分散していく国際的な分業体制のことを示している。既存の研究により、国際貿易と投資はますますグローバル化していく。国際分業の構造は各業界への分布が加速し始めている。また、垂直分離と産業チェーン調整を特徴とするグローバル一体化生産と流通が形成されつつある。世界分業ネットワークの形成と発展は利益最大化を追求することを目的としている。その結果、多くの商品が1カ所で完成されるのではなく、各ステップやモジュールに分解され、生産コストの低減が実現された。世界規模で巨大な産業チェーン、すなわちGVCが形成されてきた。そのため、GVCの形成は生産のグローバル化の必然的な結果であり、GVCの形成と完備はさらに国際分業を促進し、生産のグローバル化の発展を推進した。

1980年代後半、対外貿易は世界各国の経済成長の主要な原動力の一つとなった。国と地域は国際貿易を通じて国際分業のメリットを共有した。90年代、多国籍企業を担い手とし、資本、人材と技術のグローバル化は世界の経済構造を変貌させた。1990年代以降、多国籍企業数は急激に増加し、現在では世界の総生産量の3分の1を占めている。グローバル製造戦略はすでに複数の多国籍企業によって実現されており、産業チェーンも1つの国や地域から世界規模で発展しているためにGVCは形成されてきた。

1つの国または地域は、自国の資源を他の国と比較することにより、自国の「比較的な優位製品」を見つけることができる。この業界は世界的に「比較優位」に基づいて分配されているため、この業界の製品に関連する完全な産業チェーンはその国や地域内に形成されている。しかしながら、国家と地域間の発展不均衡と資源の違いにより、国家間、業界間の不平等も絶えず再生産されている。

それでは、深圳市はGVCの中で、どのような位置をつけられるのか。深圳市は長期にわたって「産業第一」、「科学技術第一」の発展戦略を堅持してきた。対外貿易の面では、2004年から深圳市のハイテク製品の輸出入貿易は長年黒字を維持し、2012年のハイテク製品(主に自動データ処理設備、液晶ディスプレイ、印刷設備など)の輸出は総輸出額の53.99%を占め、深圳市の伝統的な製造製品(例えば服飾、靴類、家具など)よりも高かった。しかし、2001年から2018年までの間に原料加工

貿易は依然として輸出貿易の主要な方式であり、比重は40%-50%前後で維持されている。輸出企業の属性から見ると、外国投資企業は長年にわたり深圳市輸出貿易の重要な主体であり、その次は民間企業であり、国有企業が最も低く、2012年の三者の比重は51.65 ; 37.86 : 10.49であった<sup>20</sup>。そのため、深圳市は主に外資企業の主導を通じてGVCを埋め込まれている。輸出製品の技術のコンテンツはますます改善し、資本技術集約型産業とGVCとの結合はすでに始まっていたが、労働集約型製品と加工貿易形式は依然として輸出の中で一定の比重を占め、多くの産業はGVCの中下流に位置する。中国の全国範囲を見ると、2020年に深圳市のコンピュータ、通信とその他の電子設備製造業と機器計器製造業の専門化レベルと集積程度は全国平均レベルよりはるかに高く、それ相応の産業チェーンを形成した。技術集約型業界以外に、一部の伝統製造業(例えば家具、プラスチック製品など)は依然として全国範囲で一定の優勢を持っている。

次に深圳市の産業の構造を詳しく見ていこう。『深圳統計年鑑2020』によれば、深圳の総生産は1979年の1.96億元から2019年の26927億元に上った。その内訳については、1979年から2013年にかけて、第一次産業の衰退と第二次産業の成長が著しい。改革開放以降、深圳は低賃金の若年労働力を活用した輸出型生産拠点として縫製、玩具、日用雑貨、家電、電子部品、印刷などの労働集約型の製造業が急速に発展した。そのため、深圳は「世界の工場」の異名を持つ。一方で深圳は「世界の工場」であるだけでなく、世界中の重要な物流型都市でもある。深圳市政府は、物流業を四つの「柱」産業として<sup>21</sup>、物流企業の様々な優遇をあげる。発達した物流業は、深圳の生活コストが他の一線都市<sup>22</sup>より低い重要な原因の一つである。第三次産業は、一時的には第二次産業に追い越されたが、現在は盛り返し最も大きな割合を占めている。現在、深圳の産業は主に第二次産業と第三次産業に支えられており、うち第二産業の総生産に占める割合が少しずつ減少しつつあるとわかる。第二次産業は1982年~1984年の3年間、建設業の生産額は工業を超えていたが、それ以外は工業が高い割合を維持してきた。とくに1990年代以降、工業と建設業との差は20%以上を維持しており、現在では、第二次産業の生産額のほとんどを工業が占めている。

このような背景のもとで、三和人材市場が位置する龍華新区は、工業主導で、電子情報産業を柱とした輸出志向型経済が特徴である。龍華新区は、2011年12月30日に宝安区に属していた4つの街道辦事処(觀湖、福城、觀瀾、大浪、龍華、民治)によって構成された産業区である。面積は175.58km<sup>2</sup>。2019年の常住人口は292.2万人、うち戸籍人口46.2万人(15.81%)、流動人口246万人(84.18%)

<sup>20</sup> 刘志彪, 2012, 「基于内需的**经济全球化**: 中国分享第二波全球化**红利的战略选择**」, 南京大学学报(哲学人文科学社会科学版) 49 (2), 51-59.

<sup>21</sup> 深圳の四つの「柱」産業は、ハイテク産業、金融業、物流業、文化産業と言われる。

<sup>22</sup> 北京、上海、广州をさす。

である<sup>23</sup>。三和人材市場を実際に位置する龍華街道の情報を調べると、工業と製造業が主導であるという背景がさらに明確になる。現在の三和人材市場は深圳市龍華新区龍華街道に位置している。龍華街道は深圳の北部に位置し、東は龍崗区坂田街道に隣接し、西は大浪街道にほど近く、南には同区の民治街道、北は觀瀾街道が隣接している。管轄区域内の総面積は19.18km<sup>2</sup>、2017年末の管理人口は68.8万人、その中の戸籍人口は6.4万人。現在、龍華街道は景龍、三聯、富康などの10件のコミュニティ工作会と、22件のコミュニティ住民委員会を管轄し、龍華区における工業の重鎮となっている。改革開放後に深圳が特区とされて以来、龍華街道の経済が急速に発展し、当時の深圳市の外部流出また外資流入の製造業を受け、典型的な工業、製造業の街となった。現在の龍華街道管轄区内には各種の工業企業800社以上があり、その中には富士康<sup>24</sup>と海信などの大手有名企業も名を連ねる。これらの生産分野は電子、機械製造、自転車、プラスチックなど多くの業界に関連している。龍華街道工業の発展は、大量の外来人口を誘致し、外来労働者人口はすでに常住人口の大多数を占め、外来人口の集積も第三産業を発展させ、現在はずでに規模になり、各種類の店舗、小企業は2万社余りに達している<sup>25</sup>。

#### 4.1.2 「移民都市」としての深圳

深圳は中国広東省に位置し、香港の新界と連なる、中国で最も重要な輸出入港の一つである。香港と隣接する地理的重要性から、宝安县は1979年3月に深圳市に改名され、11月には省轄市となった。同年7月、広東省の深圳、珠海、汕頭および福建省の厦門に「輸出特区」が設置され、1980年8月には深圳市は「経済特区」とへと変った。経済特区と指定されて以来、深圳は外国投資を誘致し、金融業・製造業の急速な発展が顕著にみられる。近年では、ハイテク産業やサービス業も急成長を遂げている。人口の95%が移住者で中国各地からの出稼ぎ労働者が中心の街である。

深圳にある経済特区の面積は、395.81 km<sup>2</sup>であったが、2010年7月1日から、深圳の全域、1997.47km<sup>2</sup>にまで拡張した。本来は小さな漁村に過ぎなかった深圳だが、他地域からの労働人口の流入により都市として形成され、広東省にありながら広東語が使われる比率が極めて低い地域となっており、「移民都市」とも言われるようになった。これは、深圳人口の変動から伺い知ることができる。2010年の人口センサスによると、常住人口と流動人口とを含んだ深圳の総人口は1322万

<sup>23</sup> 「龍華概況」龍華新区ホームページ[http://www.szlhq.gov.cn/zjlh/lhgk/lhjj/content/post\\_7970734.html](http://www.szlhq.gov.cn/zjlh/lhgk/lhjj/content/post_7970734.html).

<sup>24</sup> 台湾に本拠を置く Hon Hai Precision Industries (鴻海精密工業) 社の傘下にある Foxconn Technology Group (富士康) 社は、世界でも最大手クラスの電子機器メーカーだ。アップルやHP、デル、ノキア、任天堂など、トップクラスのメーカーに部品を供給している。しかし同社は今年2010年、自殺が連続したことで有名になった。

<sup>25</sup> 「龍華新区街道辨の概況」, 2017, (2020年9月20日取得, <http://www.szlhq.gov.cn/jdbxxgkml/lhjdb/>)

人である<sup>26</sup>。2020年、その数はすでに2000万人を超過したと言われている<sup>27</sup>。深圳の常住人口は1979年の31.41万人から2020年の1343.88万人に上り、うち戸籍人口も31.26万人から494.78万人まで増加したが、常住人口に占める割合は99.52%から36.81%に低下した<sup>28</sup>。

経済特区成立後の深圳は、人口は急増に増加した。増加した人口のほとんどは、他地域からの移住者である。実際、深圳への人口移動は、改革開放後だけでなく、以前からすでにみられる。連(2015)によれば、アヘン戦争勃発後から19世紀末までの間と、20世紀初期以降、とりわけ日中戦争期間、海外へ出稼ぎに行った深圳人が多くみられ、現在、海外に定住している深圳出身の華僑・華人は12万人余りであり、54ヵ国・地域に散在しているその多くは、「苦力」として出国している。また、新中国成立後・改革開放前(1949年～1978年)の間に、深圳での天災や貧困問題の深刻化、また香港との所得格差が大きかったことが主な原因で計4回の大規模な「逃港潮」(香港への不法移民ブーム)があった。このように、1950年代から1980年まで、深圳を経由して香港へ渡った人は100万人以上に上った。

経済特区が設置されて以降、深圳はさまざまな優遇政策に恵まれ、驚異的な経済成長を果たした。その過程で、深圳の人口は爆発的な増加を見せた。増加した人口のほとんどは、中国各地からの移住者である。2010年、深圳の常住人口は初めて1000万人を超え、2020年には1343.88万人に上った。しかし、戸籍人口の割合が大幅に減少し、2010年は17.81%にまで下がった。その後、戸籍人口の割合は徐々に上昇しているが、依然として40%未満である。常住人口のほか、登録されていない流動人口は数多くいるとみられる。新聞紙『深圳商報』によれば、2020の時点で深圳の総人口は2000万人以上に達していたという。それに基づけば、戸籍人口を除くと、非戸籍人口の数が約1500万人であると推測できる。以上から、改革開放以来の四十数年間で深圳の人口は急増してきた一方、戸籍人口の割合は1979年の99.5%から2020年の36.81%に急激に減少していることが分かる。

#### 4.1.3 深圳市の戸籍制度と戸籍制度による格差

深圳の都市形成と経済成長に伴い、各種の都市政策が実施されてきた。戸籍制度が存在するため、ほとんどの政策はこれに影響されている。例えば、序論で述べたように、都市へ出稼ぎに行った農

<sup>26</sup> 深圳の人口について、一般的に公表されているのは常住人口だけであるが、2010年に実施された人口センサスのデータでは総人口が公表されている。

<sup>27</sup> 新浪财经, 2019年, 「1200万还是2200万 深圳到底有多少人口」, 2021年9月23日取得, <https://finance.sina.cn/2019-01-13/detail-ihqhqcis5857700.d.html?vt=4>

<sup>28</sup> 1979年のデータと2020年のデータは、『深圳統計年鑑2020』を参照。  
<http://tjj.sz.gov.cn/attachment/0/736/736628/8386382.pdf>.

民工は都市戸籍を持たないため、都市の市民と同等の社会保障を受けることができないことなどである。本節では、深圳の戸籍制度をふまえた上で、社会保障の面から深圳戸籍者と非深圳戸籍との違いを提示する。具体的には、医療保険などの社会保障制度についてまとめ、戸籍による教育面の格差についても簡単に検討する。

李 (2002) によれば、深圳の人口戸籍管理は3段階に分けることができ、それぞれが1979年～1986年の間の基本的に規制しない段階、1987年～2001年の間の計画的に規制する段階、また2002年以降の戸籍改革の段階である。

1983年7月6日、深圳政府は「深圳経済特区居民証、暫住証的暫行規定」を公布し、深圳在住者（常住戸籍者と外来者）の管理を明確にした。1985年6月24日、「深圳経済特区暫住人員戸口管理暫行規定」の提出により、深圳は全国で最も早く暫住証制度を実施した。その影響を受けて、暫住証制度は中国全国に拡散していった。1996年、より詳細な戸籍管理条例として、「深圳経済特区暫住人員戸口管理条例」が実施された。「暫住人員」とは、深圳特区の常住戸籍を持たないが、有効な身分証を所持し特区内に居留する中国公民をさす。深圳特区に7日以上居留する暫住人員には暫住戸籍登記、2ヶ月以上居留する場合は暫住証の申請が必要とされる。暫住証は二種類があり、それぞれは最大有効期限が1年の就労暫住証と、最大有効期限が2年の非就労暫住証である。そして1997年、その有効期限は2年に統一された。暫住証制度の実施により、都市部へ出稼ぎに流入した労働者は、合法的に居留することができた。2008年、後述する居住証制度の実施により、暫住証制度は幕を閉じた。

2008年8月1日に「深圳市居住証暫行辦法」が打ち出された。それと同時に、1996年から施行されていた「深圳経済特区暫住人員戸口管理条例」が廃止となった。「深圳市居住証暫行辦法」によると、深圳に7日以上居住する「非深圳戸籍者」には居住登記が必要とされる。居住期間が30日以上の場合、満16歳かつ60歳未満の者は居住証を申請しなければならない。居住証は、「深圳市居住証」と「深圳市臨時居住証」の二種類がある。「深圳市居住証」の申請条件としては、次の条件のどれかに該当すれば許可されるという。(1) 深圳で就業する（家事代行を含む）、もしくは投資を行なう（企業の起業或はその他の経済組織に投資すること）、(2) 深圳に持ち家がある、(3) 人材居住証／海外人材居住証の申請条件を満たす、(4) 深圳で起業かつそれ相応の技術／資金があることという条件を満たす、あるいは深圳で文化芸術創作の仕事に従事している、(5) 深圳政府が規定したその他の条件を満たす、である。満60歳の非深圳戸籍者と深圳全日制教育機構で教育を受けている非深圳戸籍学生は直接「深圳市居住証」を申請でき、それ以外の者は、「深圳市臨時居住

証」しか申請できないという。有効期限は、「深圳市居住証」が10年、「深圳市臨時居住証」が6ヶ月で、延長が可能である。

深圳の社会保障制度には、医療保険、労災保険、失業保険、養老(介護)保険などがあり、その中から、非深圳戸籍者に対する不平等性が伺える。ここでは失業保険を例として、戸籍制度による不平等を検討する。1997年の「深圳経済特区失業保険条例」によると、深圳の失業保険制度を享受できるのは、失業登録手続きを行なった深圳戸籍保有者に限る。失業手当の金額は、政府が前年に公表した最低賃金の80%が基準とされる。このような規定は2012年年末まで続いたが、2013年に「深圳経済特区失業保険条例」の廃止と「深圳経済特区失業保険若干規定」の施行により、非戸籍者も失業保険の納付が必要となった。

社会保障制度の以外、移住者が最も重視する「子どもの教育」に関しては、幼稚園から大学まで深圳で教育を受ける場合、深圳戸籍者と非深圳戸籍者の受けられる待遇は異なっている。物価や教育費が高いことが原因で、都市で働く農民工の多くは子どもを農村部の実家に残し、その子どもたちは主に祖父母や親戚に預けられており、「留守児童」<sup>29</sup>と呼ばれる。ここで注意しなければならないのは、数多くの「三和ゴッド」には留守児童の経歴があることである。幼稚園、小中学校、高校以外、大学の入学試験と同様に、深圳の大学の募集定員は深圳戸籍をもつ学生に有利である。(もちろん、深圳だけではなく、これは戸籍制度によって、ほかの省・都市の大学でよくみられる現象である)。

以上で述べたように、「移民都市」の深圳には、移住者を制限する政策が存在している。一方で、都市政策の革新性も見られる。例えば、深圳から全国に広まった暫住証制度は、その一つの例である。現在、戸籍制度による不平等性が依然として存在しているが、居住証制度が実施されてからは非戸籍者が享受できる社会保障が増加した。全体的に言えば、他都市と比べ移民都市として深圳は外来人口に寛容性のかなり高い都市であるといえる。

#### 4.1.4 気候のよい都市

深圳は中国広東省の沿海部に位置し、珠江の河口の東北部にあり、緯度が低く、亜熱帯モンスーン気候に属する。深くモンスーンの影響を受けるため、夏季は東南風が盛んで、高温多雨である。他の季節は盛んに東北モンスーン、天気が乾燥し、気候が穏やかで、年平均気温は23.0℃、最高気温は38.7℃(1980年7月10日)、最低気温は0.2℃(1957年2月11日)である。降水量は豊富で、

<sup>29</sup> 中国の急速な経済発展により、農村から都市へ移動する出稼ぎ労働者が増加したが、その労働者は戸籍制度や経済面から子どもと一緒に都市部で生活することは難しく、子どもを農村故郷に残している。こうした子どもたちは、「留守児童」と呼ばれている。

毎年4～9月に雨季となり、年間平均降水量は1935.8mm、年間降水量最高記録は2662mm(1957年)。日照時間は長く、年間平均日照時間は1837.6時間、太陽毎年の放射量は5225年のメガジュール/平方メートルである。平年の主導風向は東南偏東風であり、平均的に毎年熱帯低気圧の影響を4～5回に受ける<sup>30</sup>。政策面の優遇以外では、温暖な気候と過ごしやすい環境は深圳が各地からの移住者をひきつける重要な原因だと言える。

## 4.2 三和人材市場の歴史の流れ

### 4.2.1 民間職業紹介事業の出現とその歴史的背景

市場経済の結果としての中国において人材業界の構築は、歴史の選択である。もともと人材業界の設立は行政力の行使によって推進されてきたが、社会主義市場経済の改革の深化に伴い、徐々に市場化の方向に発展している。

計画経済時代の中国は市場調節の作用を無視し、主に分配を統一的に計画する人材政策を採用した。改革開放初期、中国の各業界には大量の専門技術人材が必要であり、1983年に中央政府は人材の合理的な流動に関するいくつかの規定を発行し、専門人材の一定範囲内の合理的な流動に対して政策根拠を提供した。そして広東省に率先して「広東省人材交流サービスセンター」を設立し、中国人材業界建設の序幕を開いた。しかし、当時人材部門のすべての観念は根強く、流動過程には多くの阻害要素があった。そのほか、移動できるのは主に都市内部の専門人材であり、改革開放初期にはすでに一部の農村人口が都市に出稼ぎに入り始めたが、その時にはまだ農民工出稼ぎ労働者に向かって人材サービス機構はなかった。農民工が大量に都市に流入することに伴い、80年代後半から90年代にかけて国家は農民工の省を跨ぐ移動をある程度制御し始め、例えば一時居住証と臨時出稼ぎ労働許可証制度などを採用した。それにもかかわらず、広東上海浙江などの東部沿海地区には依然として大量の外来農村人口が現地で出稼ぎしている。このような背景から、労働部は1990年1月に『職業紹介暫定規定法』を発表し、民間法人の職業紹介事業の開設を許可し、民間職業紹介所の幕開けとなった。以前、人材市場と職業紹介所は常に現地政府によって設立され、目的は専門人材を合理的に分配して人材の流動化を促進するとなった。それに対して民間職業紹介所は個人需要と企業の労働需要を考慮していた。1990年代深圳市は改革開放の最前線の陣地とみなされ、大量の外資を誘致することで深圳市内に工場を開設し、企業は大量の労働需要を生み出した。同時に、深

<sup>30</sup> 深圳市気象局, 2020「深圳市気候概況及四季特征」, (2020年9月28日取得, <http://weather.sz.gov.cn/qixiangfuwu/qihoufuwu/qihouguanceyupinggu/qihougaikuang/>)



圳市に南下して出稼ぎをして求職する農村人口も増加したため、広東省ひいては全国初の民間職業紹介所が誕生した。職業紹介事業従業員のIさんはこのように言った。

“わが社は1992年に設立され、最初の会社名は三和職業紹介所と呼ばれています。全国で最初に民間資本によって設立された職業紹介所のですよ。うちのボスは福建省から来た兄弟二人ですが、今は地元でも有名ですよ、常に故郷に帰ってチャリティーをしています。1992年に設立されたばかりの時はまだ今のこの地にいませんでした。あの時は人民路で、ビルであまり広くない小さな部屋を借りて……あ〜今ここからも遠くありません、2キロで着きました。その時にはボス二人を加えて5人の従業員しかいませんでした。ボスはそれが会社の創業の起点だと言っていました。”

中国の人口流動制度は異なる段階でも異なる特徴を呈している。改革開放以前、生産力は比較的遅れており、都市と農村における二元戸籍制度や人民公社という計画経済下の労働制度は農村労働人口の都市への移転をある程度制約したが、改革開放以来、経済発展と市場化改革の推進に伴い、中国の人口流動政策も時代の変換とともに方向転換した。改革開放初期、中小企業と沿海地区の労働力に対する需要が旺盛であり、また中国の人口流動に対する政策が緩む兆しもあり、一部の農村労働力が都市工場への移転が始まった。1980年から後期にかけて大量の農村労働力が省を越えて流動し、国家はいくつかの政策を発表してコントロールし始めた。1990年代以来、中国は社会主義市場経済を建設する目標を確定し、人口流動に対してもの確な誘導が現れ、管理は次第に規範化と制度化され、一連の政策法規が発表された。しかし、この時期には人口流動政策は依然として厳格な統制状態にある。21世紀に入り、中国の経済はさらに発展し、都市化も高度発展期を迎えた。このとき、流動人口も都市化の過程で直面しなければならない社会問題となっている。その後、中国は流動人口に対するいくつかの不合理的な法規文書を徐々に廃止し、ますます都市における流動人口の権益保護を重視し、更にそれに対する技能と職業発展訓練を重視してきた。2012年以降、中央政府は二元戸籍と農民工の市民化問題に対して深い改革を行い、人口流動は程度自由、権利完備の方向に発展していく。

三和集団の発展は中国の人口流動政策の変化の傾向をある程度反映しているといえる。設立当初の三和職業紹介所は、深圳市と周辺地区の製造業企業に末端の労働者を輸送することを主要な経営内容とし、主にローエンド製造業に関連している。1990年代に深圳市にきた出稼ぎ労働者には多様で煩雑な手続き証明が必要だったにもかかわらず、労働者は全国各地から深圳市にきた。南下出稼ぎの時代がブームを反映している。Iさんはこのように言った。

“あの頃、大学生は卒業したらすぐに仕事を配分されていました。深圳に来て出稼ぎをしたい人のために、仕事を探してやる必要がありました。私たちは市内の工場に労働者を紹介して、その時は全国各地の地方から深圳に仕事を探しに来た人が非常に多かったです。工場も労働力を集める必要があって、女性労働者は男性労働者よりかなり多くて、1つの工場の中で、10人の労働者の中の7人は女性でした。今はそうではなく、男性を主としています。最初の業務は主に市内の電子工場とアパレル工場であり、その後徐々に周辺地域に発展しました、労働者を紹介して成功した後、私たちは両方ともに一定の費用を徴収します。あの時は業務が速く発展していました。なぜかという仕事を探す人が多すぎたため、どんな仕事であっても需要があったからです。だから、この間に会社はすごく発展できました。”

“当時深圳に出稼ぎに来たのは、身分証明書だけでなく、深圳市臨時居住証も必要でした。身分証明書がなければ市内に入れません。警察はよく街や住居で人々の臨時居住証を調べています。臨時居住証がなければ、強制送還したり、収容所に送ったりしているかもしれません。その時一時居住証明書を発行するには3、4百元<sup>31</sup>かかり、多くの出稼ぎに来た人はそんな金がなく、工場の寮で住むしかないので。外に住んでいる人たちは警察が来るのを聞いてすぐに隠れます。私も深圳に来たばかりで臨時居住証を持っていませんので、普通に道を歩いてもびくびくしています。しかしそれでも、深圳に出稼ぎに来た人はたくさんいます。その時はみんな貧乏で、あちこちでお金を集めて、切符を買ってきて深圳に行って、どんな仕事でもやります。捕まって送還されてしばらくしてまた深圳に来て、結局、やはりお金を稼ぎたいのですよね。もう昔の物語です…”

まさにIさんの話の通り、いくつかの阻害要因が存在するにもかかわらず、南下した出稼ぎ労働者が続々と深圳市に流入していく。人口流動政策は夢を持って深圳市で稼ぐ外来人口を阻むことができず、大量の外来人口とみなされる者は深圳市で仕事を見つける必要がある。そのため三和職業紹介所のような人力派遣会社を利用する客も増えており、その過程で三和職業紹介所が発展し、深圳市の有名な人力派遣会社となっていく。それはある程度より多くの人口を三和地域、つまり人々が三和人力市場と呼ぶ地域に誘致した。

#### 4.2.2 都市の離島としての城中村

<sup>31</sup> 1990年代において一か月の給料と相当である。

当時の三和職業紹介所は、人民路の一面の城中村<sup>32</sup>にあった。深圳市の城中村形成にもその歴史的原因がある。深圳市が特区になって以降の都市建設初期、都市の発展には大量の土地が提供される必要がある。しかし、土地使用権は元の村落が集団で把握されており、発展初期の深圳市は特殊な政策だけで資金支援がなく、政府の財政能力は比較的に限られていた。徴用補償とコストを下げ、都市建設を迅速に推進するために、政府は建設を計画する時に元の村民の集積地を避け、建設コストの低減を実現した。したがって、都市に囲まれた「城中村の離島」が形成されつつあり、城中村という現象はまず深圳経済特区内から現れ始めた。

この時期の村民は、農業地が徴用されたため、元の生産方式が変更されたため、徴用地から得られた補償金で長期的に生活を維持することは不可能であった。同時に、都市建設と工業が大きく発展し、大量の全国各地の移民と出稼ぎ労働者が誘致された。前節の統計データから見ると、特区発展当初のわずか数年の間に、深圳市の常住人口はすでに3倍以上増加し、しかも多くは非戸籍人口であった。その中の出稼ぎ労働者の多くは、都市村で安価な農家の家を借りることを選択し、故郷に安定した経済源と収入を提供してきた。そこで村民は次々と自宅の改築や新築を始め、元の庭式の瓦ぶきはコンクリートの何階かの小楼に取って代わられていた。しかしこのときの城中村のインフラは元の農村集落の姿を保っていた。深圳市政府が1982年に発表した『深圳経済特区農村社員の住宅建設用地の暫定規定』は最初の城中村に対する政府文書であり、村民の住宅建設、事務所と工業用地面積に対して規範を提出したが、実際には具体的な指導が不足している。その後、深圳市経済の急速な発展により、一部の元の村民は土地の経済利益上の重要性を意識したため、1990年代になっても城中村の違法の私建住宅の波は止まらなかった。

三和職業紹介所のその後の所在地である景楽新村は、このような背景の下に建てられたのである。景楽新村は1983年に建設され、深圳市の他の城中村と異なり、景楽新村に対する計画は比較的に統一され、インフラは比較的に規範的である。それゆえに、後の多くのサービス業の個人業者の参入にも空間的基盤を提供している。

#### 4.2.3 産業集積による三和人材市場の発展

深圳市における経済の急速な発展及び「城中村」の背景の下で、21世紀冒頭の三和職業紹介所の発展規模は次第に大きくなり、産業集積<sup>33</sup>という現象が見られるようになった。

<sup>32</sup> 「城中村」とは、中国経済先進地域において急速に都市域が拡大する中で、既存の農村が都市の中に取り込まれ、周辺を高層ビルに囲まれた「都市の中の村落」となる。

<sup>33</sup> 一つ、あるいは複数の産業に携わる企業群が地理的に集積して、一つの産業構造をかたちづくることをさす。

2001年三和職業紹介所の法人は三和実業発展株式会社を設立し、対外的には三和集団と略称した。人的資源サービスや労務派遣が彼らの主な業務であり、その後不動産開発や住宅賃貸などの業務も展開していった。2003年に景楽新村と現地開発業者は景楽市場の計画と建設を開始した。市場の建築高は4階建てで敷地は約2万平方メートルで、2005年に完成して対外公開募集された。2006年にすでに規模を備えた三和集団は景楽市場の3階4階全体と1階の一部を借りていたが、経営住所を元の人民路付近から景楽市場所在地に移転し、現在までそこに存在している。主な業務は依然として職業紹介と人的資源サービスである。当時、三和集団はすでに宝安区ないしは深圳市の主要な職業紹介所の一つであり、2002年には三和集団は深圳市の他の職業紹介所と連携して業界協会を設立することで深圳市職業紹介業界における地位を強化した。そのため、三和グループが景楽市場に移転した時、宝安区のもう一つの有名な職業紹介所—海新信会社は三和集団の隣に一階を借り、経営場所も景楽市場に移転した。大手の職業紹介企業2社が景楽市場に参入することによる産業集積効果は明らかだった。その後2004-2008年の間に断続的に十数社の中小型職業紹介会社が景楽市場に移転した。そのため深圳市最大の職業紹介業界圏は景楽新村に形成された。

景楽市場は2004年から2008年まで多くの職業紹介会社の流入に伴い、深圳市の大型人材市場の一つになり、周辺の大量の製造類企業に労働力を供給した。ここで説明しなければならないのは、三和集団はこの地域の最大規模で知名度が高い職業紹介会社として、知名度はもとの地名、つまり景楽市場を超えてしまったことである。すなわち、景楽市場は三和人材市場と呼ばれるようになり、三和人材市場は元の地名に代わってラベリングされるようになってきた。Iさんはこのように語った。

“2006年に私たち(三和集団を指す)は来て、深圳の他の十数社の人力派遣会社も景楽市場に移転し、規模の大きい人材市場を形成しました。みんな今ここが三和人材市場と呼ばれていることを知っていますが、もとの名前が景楽市場だとは知らないかもしれません。その後、深圳に来た多くの農民工は企業がここに来て労働者を募集することを知っているので、毎日仕事を探しに来る人は非常に多く、ピーク時は毎日基本的に2万人に達することがあります。毎日ピーク時には基本的に二万人に達することができます。その数年間は製造業の発展が速くて、私たちと連携する企業はますます多くなり、会社が毎年富士康<sup>34</sup>のような大工場に供給する労務従業員は数万人に達しました。”

<sup>34</sup> 鴻海科技集団・富士康科技集団は、電子機器の生産を請け負う電子機器受託生産では世界最大の企業グループである。台湾に本社を構え、生産拠点は主に中国にある。

三和人材市場では職業紹介企業の産業集積によって経済効果が生じている。一方で産業の集積も三和人材市場の他の面で盛んに発展させ、例えば宿泊、飲食、ネットカフェなどのサービス業などが急速に台頭してきている。同時に生活インフラの整備に伴い、生活空間としての三和人材市場も形成されつつある。三和人材市場は生活コストを抑えられるため、その後大量に流入した三和ゴッドに温床を提供したといえる。この点についてIさんも言及した。

“毎日人が多いからですね。近くにはレストランや旅館ネットカフェがたくさん開業しました。車を押して様々なものを売っている屋台もいっぱいあります。ここは仕事を探しに来た農民工ばかりなので、食費と宿泊費が安く済みます。”

#### 4.2.4 経済危機下の三和人材市場

2008年にアメリカのサブプライム危機が勃発し、世界的な金融危機へと発展していった。中国は2001年にWTOに加盟してから、世界経済システムにますます深く溶け込んできた。輸出大国にとって経済危機は中国の輸出志向製造業が被る影響は甚大である。そして、珠江デルタ<sup>35</sup>はまた中国の製造業の主要な基地の一つであり、多くの工場の受注量は大幅に低下し、労働者の需要も大幅に減少した。経済危機の後、景気は好転し始め、政府と企業はそれまでの経験を活かし、自発的に事業転換を求めている。国家は製造業に労働集約型から知識・技術集約型への転換を呼びかけ、輸出志向から内需拡大への転換を呼びかけ、これは労働者の素質に対する要求が更に向上し、三和人材市場の変化の分水嶺となった。Iさんはこのように言った。

“2008年はそこまでの経済危機ではありませんでしたが、広東側の企業に大きな影響を受けたので、多くの工場の作業は一時停止されましたね。でも、仕事を探しに来た人はまだ多かったです。仕事がなければお金がありませんからね。工場の求人が少なくなり、三和で仕事を探している人は行くあてがないので、三和の近くに長く居住する人も増えてきました。実際、三和の就職活動は若者が中心で、ほとんどが10代20代の若者です。彼らは最初安宿に泊まっていたね。5元10元の一泊の安宿で夜を過ごします。だんだん仕事を探したくなくて街をぶらぶらしている人が増えていきます。若者ばかりです。実は2010年以降は景気がよく回復できましたので、富士康などの企業の

---

<sup>35</sup> 「珠江デルタ」は、中国珠江河口の広州、香港、深圳市、東莞市、マカオを結ぶ三角地帯を中心とする地域の呼称である。世界最大の都市圏で、都市圏人口は7,342万人である。

求人規模も回復しました。経済は良くなりましたが、前に三和をうろついていた若い人たちは仕事に行きたがらず、ここに住み続け、一日中ネットカフェでゲームをして過ごしています。お金がなくなったら何日か日雇い仕事をやって、そして帰ってきてまたネットゲームを始めます。その後、このような人が増えて、2016年には夜になると、景楽新村の奥の路地で多くの人が地面に横になって寝るようになりました。”

2008年の経済危機以降、珠三角もある程度の影響を受け、サービス業としての三和人材市場にもその波が押し寄せた。複数の製造企業に労務労働を輸送する重要な拠点として、企業求人減少により三和市場に集積する求職者が増えており、もともと一時滞在地であった三和市場は求職者たちの長期的な居住空間となっている。求職者群の内部にも分化が見られ、就職活動をせずに三和の寄留生活を選択し始めた人もおり、彼らが初期の三和ゴッドとなったのである。1、2年後に経済状況が好転し、企業は三和人材市場での募集の規模も回復した。それにもかかわらず、これらの人たちは長期的な仕事を探すのではなく、三和で生活を続けることを選択した。2010年以降、SNSの発展に伴い、インターネットにおける個人間のコミュニケーションはますます多様化し、便利になってきたので、低コスト生活空間である三和市場は社交プラットフォームとしてますます多くの人に知られるようになった。これは他の地方の類似した境遇の人々の三和人材市場への流入をある程度刺激した。DさんとIさんはこのように言った。

“2010年から、ぶらぶらして三和で生きていける人たちがすでに存在している、毎日ネットカフェで耽溺して仕事をせず、金がなくなれば何日か日雇い仕事をやってまた帰ってくる。だが当時はあまり人が多くなかった。その後、三和(三和人材市場を指す)についてネットに書き込む人が出てきた。ここは生活コストが低く、天気が暖かくて、夜に街で寝ても凍死することはない。おまけに、臨時の仕事もたくさんあるので、来る人がだんだん増えてきた。ここは彼らにとってまるで天国のように言われたが、実際はそんなにいいわけではない。” (Dさん)

“これは確かに外部に大きな誤解を与え、わが社の営業状況にも影響を与えます。三和集団は長年景楽市場で影響力が大きすぎて、みんなこの地を三和と呼んで景楽市場と呼ばれていないので、「三和ゴッド」がわが社と何か関係があるようにしていますが、実際は何の関係もありません。今では政府が力を入れてこの人たちを連れて行ってってくれることで秩序が良くなることを願っています。” (Iさん)

2013年から2016年の間が三和人材市場への無職者の流入量がピークだった。一方、三和人材市場はサービス業の生産空間として就職活動者に求職情報や仲介サービスを提供している一方、インターネット上でラベリングされた三和人材市場は多くの無職者の生活空間となっている。これは三和集団も迷惑を被っている。以前、人びとが「三和」や「三和市场」、「三和人材市場」に言及すると、それは深圳の有名な求職場所だと思われていた。インターネットとSNSの報道と描写を経て、現在「三和」といえば、も無職者の集積地としての存在が知られており、2015年「百度贴吧」などの電子掲示板サイトは三和に集積した無職人々を「三和ゴッド」と呼び、それ以来「三和ゴッド」のイメージは三和人材市場にリンクしている。現在、三和はすでに完全な生活空間を形成しており、「三和ゴッド」の主要な生活区域景楽新村の南北2区には、レンタル屋55棟、1127部屋があり、12軒の職業紹介会社、ネットカフェ33軒、荷物預かり所9カ所、安宿58室、宝くじ店、レストランなど135軒がある。インフラは基本的に完備されており、生活コストは低い。

#### 4.2.5 本節の議論

前述した通り、深圳において都市としての特殊性が半明した。あるいは三和ゴッドが深圳で直面している、歴史的・社会的強制力も明らかになった。第一に、深圳は移民都市であり、当然ながら今のところ格差の問題もあるが、他の一線都市と比較して、強い包容性を保っている。第二に、深圳は良好な気候の都市である。移民にとって、特に中国の北部から来た人たちの目には魅力的に映る。第三に、発達した物流業や交通システムは、一線都市である深圳が比較的低い生活コストで暮らせるようになったため、出稼ぎ労働者にとって非常に重要な要素を含んでいる。第四に、深圳は最初に改革開放を行った都市であり、GVCによる成熟した労働市場と発達した市場経済を有しているため、深圳は農民工が最も入りやすい大都市となった。第五に、新世代農民工にとって、特別な歴史を持っている三和人力市場は一つの「界」として、深圳に行って出稼ぎをする最適な場所になった。

以上より、「三和ゴッド」のような存在が他の大都市に出現する可能性もあるが、深圳市龍華新区の三和人力市場のように大規模に集まることはほとんどないと言える。なぜなら、彼らは深圳市という独特な外部構造の影響を受けているからだ。

## 第五章 内部構造

Stonesによれば、行為主体は、行為において自らのうちにある、社会的世界に関する解釈学的・現象学的認知枠組みを根拠として利用している。Stonesはそのような解釈学的・現象学的な認知枠組みと、そうした認知枠組みに支えられた特殊状況に対する知的対応能力のことを内部構造と呼び、Stonesは内部構造を汎用的性向と接続特定力という二つの構成要素からなる複層的な存在として説明している。

汎用的性向は内閉的で非自省的・非自覚的な性質を帯び、行為者を所与の外部構造のなかに慢性的に埋め込んでいく要素である。それとは反対に、接続特定力は外向きで自省的・自覚的な性質を帯び、行為者に対して外部構造を能動的に統御できる可能性を付与する要素である。行為者にとって自らの汎用的性向について批判的な省察を行い、その限界を克服していくことには大きな困難が伴うが、接続特定力については批判的な省察による修正を通じてその内容を拡大し、増強していくことが可能である。

Stonesの行為理論は、構造の二重性というサイクルを行為者の外部にある構造の側からではなく、行為者自身の内面から捉え直し、それが認知主体としての行為者にとってはどのような経験であるのかを考察することから出発している。彼は、「行為者の知識能力とその限界」という構造化理論における行為主体性に関する最も重要な命題をギデنز以上に深く掘り下げていく。

したがって、Stonesの理論に依拠すれば、抽象的な存在論の議論に終始するのではなく、具体的な社会的事象の分析に応用することができる。内部構造を分析することによって、深圳市の外部構造と三和ゴッドの（行為としての）ライフスタイルの形成過程との関係が解明できる。

### 5.1 新世代農民工の汎用的性向

#### 5.1.1 ハビトゥスと「位置-実践」

汎用的性向とは何か。Stonesは次のように述べる。「それは状況に応じて使い分けることのできるスキルと性向のことであり、一般的な世界観と文化的スキーマ、物事・人々・ネットワークの分類とタイプ分け、行動の原理、典型化された行為の処方箋、深く二元化された意味作用のフレームワーク、一貫性と含蓄のある言説、話し方や身振りや手振りに関する習慣、そしてこの一般化された知識を特定の時間的・空間的な状況のもとで行われる特定の実践において幅広く適用するための



方法論を含んでいる」<sup>36</sup>。Stones 自身も認めているように、汎用的性向という概念はブルデューのハビトゥス概念ときわめて近似している<sup>37</sup>。ハビトゥスは、大雑把に捉えると、人々が生後、社会において成長とともに歴史を重ねる中で再構成を繰り返し、日常のあらゆる行動や好み、考え方や感じ方を方向付ける構造で、その人の身体に染みついており、ほとんど自覚されないものであると考えられる<sup>38</sup>。

過去の農村の生活経験が新世代農民工の集団特性あるいは「ハビトゥス」を構築した。ブルデューによれば、「ハビトゥスとは、持続的で移調が可能な傾向性のシステムであり、過去の経験を統合しながらいかなる時点でも知覚、評価そして行為の母体として機能し、そのことによって無限に多様化された仕事を達成することを可能とする。そうしたことが可能となるのは、類似した形態をもつ問題を解決する余地をあたえる図式の比喩的な移転に支えられ、またそれらの結果が弁証法的に生みだされることによって絶え間ない修正が加えられることに依拠している」。また、「ハビトゥスとは、規則性をもつ即興が恒常的に内蔵された発生的原理として実践を生み出す。それらの実践は、その発生的原理を生産する客観的諸条件に内在する規則を再生産する傾向をもっているが、他方で、状況の中での客観的潜在力として刻みこまれた要請に合わせ、またハビトゥスを作りあげている認知と動機の諸構造によって規定される」<sup>39</sup>。

要するに、ブルデューの「ハビトゥス」は彼の実践理論の中核の概念と言える。もし新世代農民工の都市への出稼ぎ労働を1つの実践過程と見なすと、その実践は彼らの本来のハビトゥスと都市における社会、経済、文化などの構造的要素が絶えず相互作用する具体的な活動として表現される。このような相互作用の中で、「新世代農民工」は一つの「位置-実践」として、特定の義務、権利、アイデンティティ、行為規範などを標定された。実践の過程において、彼らの様々な行事、決定、葛藤は、彼らが具体的な状況に直面した一時的な反応だけでなく、行為主体のライフコースと歴史的立場の蓄積的な反応でもある。ブルデューの分析によると、行為主体はいずれも従来の経験から構築されたカテゴリーによって様々な外的刺激や制約的経験を理解・感知している。すなわち、ハビトゥスの性向システムは相対的な閉鎖性を持っている。したがって、北アフリカのアルジェリアにおいて一部の農村伝統的なハビトゥスを身に付けた原住民が突然に資本主義の世界に身を置いたことを分析する時、ブルデューはハビトゥスヒのステリシス (habitus hysteresis) という概念を提

<sup>36</sup> Stones (2005) p. 88.

<sup>37</sup> 倉田良樹, 2011, 「構造化理論から知識の社会学へ (2)」『一橋社会科学』(3):1-24.

<sup>38</sup> 窪田光男, 2019, 「留学とハビトゥスの再構成: 新しい行動や思考様式、嗜好、感じ方の身体化」『コミュニケーレ』(8):21-24.

<sup>39</sup> 田辺繁治, 2002, 「再帰的人類学における実践の概念—ブルデューのハビトゥスをめぐり、その彼方へ」『国立民族学博物館研究報告』26(4):533-573.

出した。行為主体が置かれた「界」は急激に変化したが、ハビトゥス特有の慣性によりヒステリシス効果が生じたと考えられている。新世代農民工は農村から大都市に入り、両者の間に現代化の差異が存在し、社会制度面の格差もある。彼らは都市という「界」に入ったばかりの時にこのようなハビトゥスヒのステリシス効果が発生する。そのため、新世代農民工のハビトゥスとハビトゥスのステリシス効果は新世代農民工に対する研究において無視できない着眼点である。

かつてシュッツは亡命知識人がアメリカ社会に参入することが難しいと論じてきた<sup>40</sup>。それぞれの集団が備える行為者の知識体系としての「集団生活の文化の型」は、よそ者にとっては容易にアクセスし理解することではなく、未知なるものである。この「よそ者」の視点から見れば、新世代農民工のハビトゥスは性向であり、知識と能力でもある。性向が変わっても、新しい知識と能力が不足しているため、目的を達成できない可能性がある。したがって、本来よく知っている方式と手段に依存するしかない。

### 5.1.2 職業観の影響

新世代農民工は都市に入った後、経済、社会、心理など多くの事柄に関する変化に適応しなければならぬ。彼らの都市での就職意欲は都市住民と変わらないが、業務態度については都市人口と多くの違いがある。いくつかのインタビュー調査事例では、日雇い仕事の不安定性により一時的な就職の考えが生じていることが分かった。インタビュー対象のAさんは以下のように語った。

“確かにそうだよ、一週間続けられる仕事は珍しい。ほとんどは1日か2日で転職した。ずっと一つの工場で働いているよりも、今のように、数日働いて、数日遊べるほうがいい。”

三和ゴッドは基本的に職業能力の開発計画を持っていない。今後の仕事の予定を聞かれると、彼らの多くはお金を稼いで故郷に帰って小さな商売をしたいと答える。この答えは彼らの未来に対する意図が計画ではなく希望であることを反映している。新世代農民工と都市住民との違いは、彼らが求めているのは良い仕事ではなく、良い収入であることと言える。具体的には、彼らは仕事自体に興味がなく、就職は給料を勘案しているだけである。そして、彼らは自分の労働の内容を蔑視し、労働は自分の価値を体現する方法ではなく、一時的に富を得る手段と考えている。新世代農民工の職業能力の開発計画における不足は、彼らの低学歴と関係がある。周知のとおり、知識と技

---

<sup>40</sup> Schutz, Alfred, 1967, “The Stranger: An Essay in Social Psychology” in: *Studies in Social Theory*, edited and introduced by Arvid Brodensen, pp. 91-105, The Hague: Martinus Nijhoff.

能はハビトウスの重要な構成部分である。いくつかの調査事例では、多くの新世代農民工は中卒であり、彼らの最大の希望は専門技術を学ぶことである。実際はこれを実現することは困難である。なぜなら現代工場は専門的な分業制度のもと運営されているため、労働者を仕事の一環に限定したためである。新世代農民工は仕事での主体性を完全に失い、幅広い分野の技術を学ぶことは不可能である。低学歴のため、新世代農民工が学ぶことができる技術は、第三章で紹介した日雇い仕事のように、いくつかの特定の種類に集中された。代替性の高さにより就職の難しさが増加し、最終的に新世代農民工の学習に対する興味も弱まった。Cさんはこのように語った。

“勉強？そんなやる気はないよ、正直言って。そんな仕事は誰でもできる。最初に出稼ぎをしたかったとき、少し専門的な技術を学ぶことができるとは思っていたが、結局すべての仕事は体力勝負だ。”

ブルデューは、アルジェリアの原住民は、資本主義経済に要求されるような「合理的なハビトウス」を形成することができず、常に安定した労働者階級に転換できないと指摘した。三和において新世代農民工はアルジェリアの農民と同じく、都市のなかで自分の生存問題をある程度解決することができたが、固有のハビトウスと性向によって都市での発展の道を失った。

### 5.1.3 交友関係の影響

ブルデューによれば、「社会的な行為者は、ハビトウスを付与されているかぎり集団的な個人であり、また、客観的構造を身体化しているという事実によって個人化された集団である。個人的なもの、主観的なものは社会的、集団的なものである。ハビトウスとは社会化された主観性であり、歴史的に先験的なものであり、これを知覚し評価するシェーマ（選好体系、趣味）は集団的かつ個人的な歴史の産物である」<sup>41</sup>。こうしてブルデューは、階級の枠内でハビトウスを把握すると同時に、分化した社会における個人もまた、それを身体化した存在として集合的に定位するのである。

新世代農民工の都市での生活と仕事は、固有の集団的ハビトウスの影響を受けている。ここでは新世代農民工の交際ハビトウスを例に分析を行う。新世代農民工が都市で構成する社会的ネットワークは第1次集団に基づいており、2つの機能を有している。一方、社会的ネットワークによる経済的、精神的なサポートは新世代農民工が都市環境にすぐに適応できるようにし、都市での滞在を

<sup>41</sup> 村井重樹, 2017, 「分化した社会におけるハビトウス—ライールのブルデュー批判を手がかりに」 『日仏社会学会年報』 28:55-73.

ある程度維持した。一方、社会的ネットワークは新世代農民工が持つ伝統的で集团的ハビトゥスを強化し、新世代農民工と都市住民との交流を阻害している。

多くの新世代農民工の社会的ネットワークは第1次集団に限られており、「都市の同郷」という特殊な交友関係を形成した。このような状態は、新世代農民工が都市住民と交流する機会を奪っている。都市住民と異なる交友関係が存在する主な原因は、新世代農民工と都市住民の社会経済的地位、言語文化の相違からである。また、農村伝統文化の影響下の交友関係の様式も都市現代文化における交友関係の様式とは異なる。都市は高密度かつ異質な人々から構成されており、このような環境は人々の生活空間と交友関係を広げている。都市での人間関係では、間接的に形成された第2次集団が多く存在するが、新世代農民工の交際ハビトゥスは第1次集団の形成することを追求している。この交際に関するハビトゥスの違いにより、新世代農民工は都市住民と付き合うことを好まず、彼らは都市住民に対し「冷たい」、「頼りない」、「プライドが高い」、「目立ちたがり」と感じている。調査対象のFさんはこう言った。

“都会の人たちは偽善的すぎて、出稼ぎに来た俺たちをなめている。俺はあいつらと関わることをやりたくない。やはりここ（三和をさす）の兄弟たちが面白くて、みんなで話ができる。”

また、新世代農民工は一つの集団として社会的差別を受けている。彼らのこのような社会的構造の制限に対する認識は、主流社会に認められる希望を抑制し、さらに自分を守るために自分の交友関係を維持させている。要するに、都市住民との交際は新世代農民工が都市に順調に参入するための必要条件であるが、多くの要因によって制限されている。新世代農民工が農村伝統社会からもたらした集团的交際ハビトゥスと社会ネットワークは主要な要因の一つになっている。新世代農民工は狭い交友関係に固守しており、これは都市社会、主流文化から排除されている社会的隔離という状況を形成した。したがって、この視点から出発すると、三和ゴッドのライフスタイルは、主流文化に隔離されて生まれた一つの特殊なライフスタイルと言えるだろう。

#### 5.1.4 本節の議論

周知のとおり、ハビトゥスに対する定義と理解はきわめて多岐にわたる。したがって、ある集団の研究に対して、様々なハビトゥスを様々な視点から分析することができる。本章では、職業観および交友関係の両者を例に、三和ゴッドのハビトゥスとハビトゥスのステリシスを分析した。以上の分析から、ハビトゥスは性向であり、一般された知識と能力でもあることが分かる。そして、ハ

ビトウスは新世代農民工が従来の社会化過程から得たものであり、都市に入ると周囲の人間社会環境が大きく変化したが、ハビトウスの変化は環境の変化より遅れている。ハビトウスの変化は長期的な過程であり、その停滞性と比較すると、社会制度の変遷ははるかに速い。この状況はハビトウスのステリシスにとって新世代農民工の都市参入における障害になる可能性がある。しかしいずれにしても、ハビトウスやハビトウスのステリシスが、三和ゴッドのライフスタイルに影響を与える重要な原因であると結論付けることができる。

## 5.2 新世代農民工の連接特定力

### 5.2.1 外部構造と内部構造の間の橋

汎用的性向とは何か。Stones は次のように述べる。「これらは一時点における外的構造に向けて外側を向いており、行為の特定の文脈に関する行為者の知識を含んでいる。そうした知識は汎用的性向をベースに認知され、理解され、概念化され、順序付けられ、反応されるけれども、より大きな移転可能性を持つ汎用的性向の次元とは、分析的にも因果的にも区別される。… [中略] …それらの状況特殊的な知識は、輪郭、形態、質感を持っており、一定の時間的・空間的な限定内での特殊性を知ることは、外的構造に直面しているエイジェントにとって重大な意味を持っている。… [中略] …この部屋でこれらの人々を相手にどのようにふるまうのか、このような外的環境のもとでいかにして事業を継続させるのか、今、ここにおいて、言論の自由に関する公式の権利を行使することは安全であるか、以上のようなことを知るにはすべて外的構造に対する何らかの評価と認識を必要とするだろう。私が連接特定力という概念によって捉えたいのは、この時、この場所の状況で与えられた文脈に特有の内容に言及するこのような認識にほかならない」<sup>42</sup>。Stones の汎用的性向に関する理論は、社会の外部構造が行為主体の内部に浸透し、行為主体がそれを自然的態度として受容している場合には、行為者が反省的熟慮によって内部に浸透した外部構造を克服することはきわめて困難であることを認めている。だが、Stones が捉える行為主体の知識能力には、行為者が自らをとりまく外部構造を主体的に統御することに活用できる連接特定力という階層が含まれている。連接特定力は外に向けて開かれた性質を持ち、行為者が様々な外部状況に直面し、多様な相互行為を経験することを通じて、次第に強化され、拡張される可能性を含んでいる。

---

<sup>42</sup> Stones (2005) p.90.

要するに、Stones によれば、接続特定力とは与えられた状況のもとで利用可能な具体的な知識を運用して社会的世界に対して働きかけていくための知的能力を指している。「接続特定力は、外部構造と、汎用的性向とエージェントの実践との間の「ヒンジ」として機能している」<sup>43</sup>。

では三和ゴッドにとっての接続特定力とはなんだろうか。Stones が提供する方法によると、まず三和ゴッドの「位置-実践」に注意すべきである。彼らの「位置-実践」は、中国内陸から来た新世代農民工が深圳市の三和人力市場で出稼ぎをしているということを意味する。この「位置-実践」の過程で、最も重要な2つのことは、第一に、どうすれば仕事を見つけて収入を得ることができるのか。第二に、どうやって三和を離れるのか。それもまさに彼らが三和にきた理由と目的である。しかし、汎用的性向としての、自然的態度的で、普段は反省する必要のないハビトゥスの行為とは異なり、どのように三和で仕事を見つけ、どのように三和を離れるか、常に反省し、常に自身の慣習や外部構造を考える必要があり、これこそが三和ゴッドの接続特定力と言える。この「位置-実践」にある三和ゴッドは、固有のハビトゥスを持って、深圳市という外部構造に直面し、自分の接続特定力を駆使して、ライフスタイルとしての行動を出現させている。Stones が述べたように、接続特定力は、深く身体化したハビトゥスと外部に位置する社会構造を連結できる橋渡しになる。

### 5.2.2 どうやって三和で仕事を探すのか

三和でどのように仕事を見つけ、どのような仕事を見つけるかは、接続特定力を利用する必要がある。この問題に対して、いくつかのインタビュー事例を通じて分析しておきたい。まず調査対象のDさんとGさんはこう語った。

“深圳にきたばかりの頃、ここ（三和をさす）はいい就職場所だと聞きました。私は安定した仕事を見つけ、大都市の深圳で生きていくことに期待していた。しかし、深圳の各工場での仕事は私が思っていたほど良くはなく、満足できる仕事は実は少ないです。数年前、私はまだ真面目に工場に働いていました。毎日疲れて仕事をしていましたが、1か月の稼ぎは少なかったです。その後私は工場の仕事を辞めました。毎日兄弟たちと日雇い仕事をしたほうがいいのです。仕事で疲れていますが、それも自由ですね。一日働ければ、あと数日が遊べます。また、この辺りの生活コストは安く済むので、このままずっとここにいました。”

---

<sup>43</sup> Stones (2005) p. 123.

“小さい頃から、俺は苦勞に耐えられる人じゃないよ。毎日工場で10時間働かされて、週末に残業させられるくらいなら、殺してもらった方がいい。日雇い仕事をする方が好きなんだ。日雇い仕事をして一日に得た給料で、数日の間、生活を維持することができるからだ。大雑把に計算すると、三和での生活コストは、普通の食事は1日20元、ドミトリーは15元、タバコを買って水を買っても1日10元、ネットカフェの料金や宝くじを買うのに加えて、1日に少なくとも50元以上の出費は確実だ。日雇い仕事の1日の給料はだいたい140~150円で、少し節約すれば、3日間は大丈夫だ。”

第1章で旧世代農民工と新世代農民工の違いに関する議論で述べたように、新世代農民工は旧世代農民工のように強く苦勞に耐える品性を持っていない。確かに、わずかな給料しか得られないのに、工場で苛酷な重労働をさせられるのは、誰にとっても嫌なものである。自分が苦勞したくないことに加え、三和の低コストの生活環境や周りの者たちの影響を受けたことで、彼らの仕事や生活習慣はすぐに同化された。彼らが怠惰でいる限り、そして、長期にわたって仕事をしない限り、宝くじ、ギャンブル、ネットカフェの影響を被り、徐々に墮落していく。

かなりの部分の人は工場で安定した仕事を見つけることができるが、工場の仕事は単純すぎるため退屈で、あまり稼げないと思われている。しばらく労働に従事するとうんざりする感情が生まれてくる。単純かつ単調な作業を繰り返し行っていると感覚が麻痺しあまり面白いとはおもえなくなってくる。工場で働いていると、出退勤のタイムカードを押す必要があり、遅刻すると給料が引かれ、トイレに行くには列に並んで一時的な休憩を取らなければならない。更には長時間続く夜勤に直面することになる。彼らが厳しく管理されることに我慢できなくなる、工場に入ることに強い抵抗感を抱き、逆に日雇い仕事をしたほうがいいと感じた。日雇い仕事にはそこまで厳しい制度制約がなく、一定の自由と選択権がある。したがって、工場に行くより、ぶらぶらして日を過ごす方が面白い。Fさんはこう語った。

“以前はライン作業で働いて、1日10時間やり続けた。ライン作業には監督や組長が俺たちに毎日一定の生産量を完成させなければならぬと迫ってくる。そしてあいつらはいつも俺たちに指図する。自分は人と話をするのが好きで、同じ仕事を繰り返すのには向いていないと思って、退職した。”

自分の能力に制限があることで、深圳で受け入れてもらえる工場を見つけることができない人もいる。例えば、ある三和ゴッドは自分がいくつかの工場に面接に行ったことがあると語ったが、毎

回入社前に健康診断の問題を理由に採用されなかった。もっともよく見られるのは低学歴を理由としたもので、彼らは工場の基礎筆記試験に合格できない。中卒のBさんはこう語った。

“以前、俺はある大手の工場に入る機会があった。でも彼らは俺に筆記試験でいくつかの英単語を書くように要求した。これおかしいだろう。俺は中卒なんだ、学校ではアルファベットしか勉強したことがないよ。ふざけんなよ。今まで俺も納得できない。あのバカ工場での仕事では、英語を使わなくちゃならない。そもそも出稼ぎにきた理由は学歴が低いからだ。それ以来、俺はずっと日雇い仕事をしている。俺はさ、偉そうなやつが大嫌いだ。”

これらのもともと工場に入りたいと思っていた人たちは何度も挫折した後、工場での仕事を考えなくなったので、日雇い仕事を探すほかなかった。

三和ゴッドについて知的能力としての接続特定力を利用した、求人制度に対しても批判的な省察が行われてきた。一部の人は仲介や工場の「搾取」を抵抗するために、日雇い仕事だけをするを選んだ。第三章の第一節で述べたように、工場でのライン作業に従事しているのはほとんど工場の正式な社員ではなく、臨時工である。新世代農民工は、仲介(人力派遣会社や個人仲介者)と労働協定(通常は口頭協定)を締結することで、労務派遣の形で工場に入る。工場内の担当者は臨時工の給料を仲介に渡し、仲介は相応の費用を差し引いた後、給料を新世代農民工に支給する。そのため、一部の三和ゴッドは仲介が持っていた費用の一部は労せずして獲得したものだと考えており、仲介はすべて「ブラック仲介」であり、工場に入らないのはブラック仲介に搾取されたくないからである。Gさんはこう語った。

“仲介と工場の搾取がどれだけひどいか知っている。俺は一応臨時工をした経験があったが、工場に入る前に、月収が4000元に達すると言われて、一ヶ月後、給料が出た時、工場に飲食費、宿泊費、光熱費などを差引かれた。それに、俺は何度か遅刻したことがあって、何度か休暇を取ったこともあったから、最後に手にした給料は2000元にも満たないよ。それ以外、仲介は数百元の仲介料を差引かなければ気が済まない。これじゃ搾取じゃないか。これくらいのお金は俺の週末の食事、酒、たばこ、ネットカフェの出費さえ賄えないよ。一ヶ月後でいくら残っているか想像できる。奴らに搾取されるより、日雇い仕事をしたほうがまし。”



このように何もせずに目的も無くダラダラしている生活に慣れ、しばらく三和を離れたとしてもすぐに戻ってくる人もいる。観察者としての我々の視点から見ると、この状況をもたらしている客観的な原因は、三和ゴッドには機会がなく、資源がなく、相応の能力がないことである。一方主観的な原因は、彼らが怠惰であったり、何度も挫折を味わったりして生活向上の原動力を失っているからである。しかし視点を変えれば、三和ゴッドは接続特定力によって、すでに自分のハビトゥスや三和からの外部構造を洞察しているといえるかもしれない。「一日働ければ、三日遊べる」というライフスタイルについて、彼らは自らの「合理性」を有している。

### 5.2.3 どうやって三和を離れるのか

多くの者が疑問に思うだろうが、なぜ彼らは三和を離れないのだろうか。実は彼らの回答からも接続特定力の存在が見受けられる。調査対象のBさんとCさんはこう語った。

“そうですね、この問題について、考えたことがありません。私は今毎日どのようにご飯を食べて、寝て、どのように1日、1週間、1ヶ月を過ごすかを考えています。そんな長い先のことはまったく考えていません。もうここの生活に慣れていて、ここから離れられません。工場も仲介も腹黒いが、実は三和で生きていくのは難しくないです。”

“ああ、実はこの問題を考えています。でも三和以外に私はどこに行けるといえるのですか？まず、農村に帰って農作業をやりたくないし、他の都市で出稼ぎをするにしても、状況も今と同じで、毎日日雇い仕事をしているだけです。だったら三和にいた方がいい。”

三和での生活に適応した後、彼らは最後の都市に溶け込む勇氣さえも失っている。彼らは自分たち自身を都市に捨てられて排除された人々だと思いつ込んでいた。離れられない理由を資金の不足と捉える人もいる。調査対象のFさんはこう語った。

“ここを離れたくないと思っている。今の目標はまず稼ぐことだ。俺は今切符を1枚も買えないんだよ。．．もし金があれば、三和では楽に過ごすことができる。ここは物価が安くて、人が多くてにぎやかだ。”

実際、彼らは口では離れると言いつつも、資金不足を言い訳に、勇気のなさを取り繕う矛盾した心理が本当の原因である。この矛盾した心理によって、三和特有の環境と相互作用を起こし、当初の予定が次々と崩れ、人生の理想がだんだん侵食されていったのである。それだけではない。家庭に関する状況について話すと、現在の「位置-実践」に対する三和ゴッドの洞察力も見られる。調査対象のDさんはこう言った。

“昔は夢や目標のある人でした。当初の予定では、深圳で技能を習得して、金を稼ぎ、ある程度貯金したら、実家に帰って結婚して子どもを持つことでした。でも数年が過ぎ、私は貯金ができず、技能も学ぶこともできませんでした。君、結婚にいくらかかるか知っていますか。今はとっくに結婚は諦めました。子どもをなんてなおさらできません。子どもを持ったとしても、その子も今後社会の最底辺の人になる。私はそれは望みません。私も両親がどう思うかなんて気にしません。今では結婚しない人も大勢いますから、別におかしいことでもありません。三和は私の第二の家と言えます。私はもう何年も実家に帰っていません。春節<sup>44</sup>でも同じです。”

両親がいる実家はあるものの、個人の経済要因や社会成層からの圧力が、三和ゴッドの結婚や帰省意欲を奪っていることが分かる。

以上で見たいくつかの事例から、技能を学ぶことは新世代農民工にとって重要なことであることが分かった。確かに、ライフコースの視点から見ると、三和ゴッドの多くは若者であり、現時点で知識や技術を学ぶことは、今後の人生に大いに役立つと言える。しかしなぜ技能を学ぶことができないと不満を口にするのだろうか。これは、彼らがイメージする「技能」が、溶接工、鍛冶工や大工など、一連の技術を持った職業を意味しているからである。しかし、第三章で述べたように、工場のライン作業や日雇い仕事の技術のレベルは低いため、彼らはいわゆる「技能」学ぶことができない。これについて調査対象のFさんとAさんはこう語った。

“技術や知識を学ぶには、まずお金が必要です。金がないのに、どこで知識を学ぶ機会を得られるというのですか。見習いに行くなら、給料が出ないと私たちは生きていけません。見習いといっても、やらされるのは雑用ばかりで、役に立つ技術は全然習得できません。それに他人です。私は

---

<sup>44</sup> 中国では最も重要な年中行事の一つであり、春節から3日間が祝日となる。都市部に働きに出ている人の多くは帰省する。

彼らとは親族でもなければ友人でもないのに、どうして技術を私に教えてくれると言うのでしょうか。技術を覚えたとしても、人間関係がない私を、会社は採用しますか？”

“ここで技能を学ぶことは不可能です。工場で何年かしっかりやって、管理者になったとしても、付き合っているのは相変わらず臨時工です。楽で給料の高い仕事もありますが、私にはできません。パソコンの技術を習得してほしいと言われても、私には全然できません。やはり日雇い仕事に向いています。”

近年、深圳市政府はこの三和ゴッドに注目しており、教育訓練給付制度も的確に推進している<sup>45</sup>。この政策について、調査対象のGさんは、“俺はもう年を取って、何年も怠惰にやってきて、学校を出てから何も勉強したことがない。この給付政策は無駄だから、ここで続けたほうがいい”と話した。これらの調査結果から、彼らの多くは、現在のライフスタイルを過去のハビトゥスや外部構造の要因が現在に与える影響に起因しているとみなしていることが分かる。

## 第六章 結果

### 6.1 「洞察」と不平等の再生産

「文化的再生産」論は大まかにいえば、親の階級が子どもに引き継がれるため、下層階級から抜け出せず、社会構造が固定化するという議論であり、その中でしばしば下層階級（労働者階級）は「被害者」として描かれる。しかしイギリスの社会学者ポール・ウィリスの視点は少し異なり、なぜ労働者階級の子供たちは、自ら進んで労働者の世界に適応していくのか、という問いを立てる。つまり、受動的に労働者階級に閉じ込められる存在として労働者を描くのではなく、能動的に自らを労働者階級として捉えていく存在として労働者を分析するわけである。『ハマータウンの野郎ども』の原題が「Learning to Labour」となっているのも、このウィリスの問題意識を反映したのである。このイギリス中部のある伝統的な工業都市を舞台としているセカンダリー・モダン・スクールに通う白人労働階級出身の若者たちに対するエスノグラフィーで、描かれたのは、労働階級の少年たちが学校の規範に反抗し、自分たちの信じる将来（肉体労働の世界）に向かって独自のパス

---

<sup>45</sup> 「深圳市職業訓練給付制度」（2021年12月3日取得、深圳市人力資源と社会保障局、<http://hrss.sz.gov.cn/ztfw/pxbt/szspd/index.html>）

ペクティブを確固たるものにしてゆく過程が、実のところ中産階級（やつら）／労働階級（おれたち）という階級構造を再生産する過程になっている。

ウィリスは12人の労働階級の子供たちに対してケーススタディを行い、これらの子どもたちたちには授業をサボる、たばこを吸う、酒を飲む、喧嘩をする、猥談をするなど、「反学校文化」が存在していることを発見した。彼らは学校の権威や学校の様々な不平等に抵抗するためにこのような方法を使っている。学校文化に対する反抗は工場文化の予行演習に過ぎなかったが、最終的には労働者階級文化の再生産および資本主義社会制度の再生産を促進するとした。しかしウィリスは、これらの子どもたちが学校教育、さらには資本主義の本質に対する深い「洞察」を見ていたと指摘する。ウィリスによれば、労働者の子どもたちは、自分の立場に応じて作られた地方的知識を持っており、「彼らの生存状態を見抜いて、彼らの立場から最も有利な身分と行動を決断する」<sup>46</sup>。

実は三和ゴッドと「野郎ども」には共通点があり、彼らはいずれも自分の階級に属するハビトゥスや現在の社会構造を反省することで、行為主体性としての「洞察」を生み出している。しかし両者には大きな違いもある。中国では儒教思想の影響下にあり、「知識が運命を変える」ことは中国では不変の真理となっている。真剣に勉強してこそ、出世することができるとされる。中国の教育体制の下では、「反学校文化」が現れにくい。ただ無視できないのは、中国の農村には高等教育を受けたことがなく、高校にも行ったことのない何億人もの子どもが存在し、彼らの多くは学校を離れ、都市に入って出稼ぎをするしかない。三和ゴッドはこのような典型的な例である。つまり、「野郎ども」が成長の軌跡への洞察で学校から逃げたとすれば、農村の子どもである三和ゴッドは、希望のない学校生活の中で受動的に学校を離れている。

本研究の調査対象のように、彼らの多くは中国内陸の遠隔農村から来ており、そこは経済状況がよくなく、公共資源も不足しているため、良質な教育資源を享受することが困難である。そのため学習の成就是必ず「知識が運命を変える」という要求には達しない。第一章で述べたように、改革開放後の40年間、中国経済は急速に発展し、都市は農村労働力に多くの雇用機会を提供した。しかし戸籍制度の制限により、旧世代農民工の子供は故郷に残って、留守児童になるしかなかった。留守児童が祖輩のもとに寄留しており、学校を中退することは特に珍しいことではない。留守児童として、彼らは日常の家事労働と自分の学業を両立させなければならない。高校に合格できなかったため、留守児童は彼らの親世代と同じように、都市への出稼ぎを選び、新世代の農民工になるしかなかったのである。学習を通じて自分の競争力を高める機会を失ったため、彼らは都市で労働力を売り、保障もなく、給料も低いローエンド仕事に従事するしかない。いくつかの取材例のように、

<sup>46</sup> 保羅 威利斯, 2013, 『学做工: 工人阶级子弟为何继承父业』北京: 译林出版社。

彼らはライン作業上で毎日同じ内容の仕事を繰り返し、身体が傷ついているだけでなく、精神も侵食されている。三和ゴッドは工場や仲介の「搾取」の性質を洞察しているようで、相対的剝奪感が強い。彼らは自分が社会底辺層にしっかり縛られていると考えており、労働技能や高等学歴が不足しているため、階層移動の可能性すら失ったと感じていた。切りなく続く「搾取」を避けるため、彼らは次々と工場から逃げ、「一日働ければ三日遊べる」という日雇い仕事を中心とした自堕落なライフスタイルとしての「反工場文化」が現れた。また、第1章で述べたように、旧世代農民工に比べて、新世代農民工は苦勞に耐える根性に乏しく、退屈で単純なライン作業に耐えられない。また、過度な家庭負担を担う必要もない。そのため彼らは労働を束縛と圧迫と見なし、工場からの脱出も必然的な選択となった。三和ゴッドの出現は偶発的な現象ではなく、社会の変遷、三和における外部環境及び新世代農民工の特質の変化と密接につながっている。都市に生存する希望がなく、農村に帰る気がないは三和ゴッドが直面しているジレンマと言えるだろう。新世代農民工は大都市での生存空間が圧縮され、新しい生存空間を開拓する可能性はわずかであり、このような生活様式に頼って都市で生きていくしかない。

## 6.2 加速化の社会に対するライフスタイルとしての抵抗

近年、三和ゴッドは中国のインターネット上で注目を集め続けており、中国だけでなく、日本のNHKも2018年に『三和人力市場』というドキュメンタリー番組が放送された。三和ゴッドへ注がれるの多くの視線の中には、次のように語る者も少なくない。“僕も三和ゴッドになりたい、生きてるのが辛い……”、“三和ゴッドこそがこの時代の縮図です”、“時々私は彼らがうらやましいです。彼らは自由で、一日働ければ三日遊べるから”、“実は私たちも三和ゴッドなんだよ、この社会で資本主義に飲み込まれた人たちだ…”。本研究の最後に、これらの見方の理解について加速化理論と時間の社会学の視点から少し検討しておきたい。

2021年、「躺平（とうへい）主義」「躺平族」という新造語が、中国のSNSで流行語となっている。「躺平」という言葉はもともと、「横たわる」という意味だが、そこから生まれる「躺平主義＝横たわり主義」とは「頑張らない、競争しない、欲張らない、最低限の消費水準の生活に満足し、心静かに暮らす」ということである。「横たわり主義」はいま、多くの若者が志向する、はやりのライフスタイルとなっていて、「躺平族」の大量出現が注目の社会現象となっている。

高度成長がだんだん下火になっていく中国で、若者世代が奮闘がさらに困難になっている。上昇するあてがほとんどなく、水平移動、ひどい場合は下降する。主流の生活の中で「内巻化」<sup>47</sup>が起こっており、将来の見通しが暗くなっている。一方、サブカルチャーが標榜する「効率」、「成功」、「美しい人生」のイデオロギーはすでに外から若者世代の認知に深くはめ込まれている。一方、階層移動の困難、高度成長の徐々に停滞、人口数の膨大さや住宅価格の高騰など多くの原因により、若者世代は徐々に奮闘意欲を失いつつある。こうして若者世代はハルトムート・ローザのいわゆる「疎外」の状況に入った。

「疎外」はフランクフルト学派の第四世代の中核人物のハルトムート・ローザが『Alienation and acceleration』で提唱した概念であり、マルクス以来の疎外論と区別するために、彼はフランクフルト学派の第四世代の女性社会学者のRaehl Jaeggiの疎外論を参考にした。すなわち「疎外は関係に乏しい関係である…。この観点によると、疎外は全く関係を持っていないわけではなく、疎外自体は一種類の関係であり、欠陥のある関係である」<sup>48</sup>。その上で、ローザはさらに「疎外は、自己と世界との関係の深層的で構造的な歪み、すなわち主体が世界に”位置“する方式が歪んでいることを指摘している」<sup>49</sup>としている。換言すれば、自己と外部世界の理想的関係は調和的、共振的、共鳴的であるが、現在我々が常に感じているのは、自己と世界の乖離、失調、歪み、すなわち疎外の中にあることである。例えば、私たちが表面的にやっていることは、本気でやりたいことではない。本気でやりたいことは、時間や精力などで本当にやることができない。

現代社会に見られる疎外としてのローザは①空間から疎外、②モノから疎外、③行動者から疎外、④時間から疎外、⑤自己と他者から疎外、をあげている<sup>50</sup>。「人間の異化は彼らの行動だけでなく、彼らの仕事や生活の物自体、社会世界、彼ら自身からも由来しており、時間や空間からも由来している」。その中で、社会の加速化は現代社会が絶えず異化を作り出す原動力である。「社会の加速化は近代化の中心的な過程であるので、現代社会批判はまず、社会の加速化に特に注目しなければならない」。現代科学技術と縛られて社会の加速化の軌道から離れることができない限り、私たちが生きているデジタルメディア技術の時代には加速化の運命から逃れることはできない。ローザは、社会加速化の多くの原因の中で、時間が先頭に立つ要素だと指摘している。「時間は特殊な社会分

<sup>47</sup> みんな頑張ってるから自分も頑張らないと追いつけないという考えの下、限られる資源のなかで頑張れば頑張るほど競争がますます激しくなる状態をさす。

<sup>48</sup> 郑作或, 2018, 『社会的时间: 形成、变迁与问题』北京: 社会科学文献出版社

<sup>49</sup> 哈特穆特 罗萨, 2018, 『新异化的诞生: 社会加速批判理论大缸』, 郑作或译 上海: 人民出版社

<sup>50</sup> 伊藤賢一, 2016, 「批判理論としての社会的加速化論—ローザ理論の射程」『社会学史研究』38: 25-40.

野だけではなく、すべての社会分野の核心構成要素である」。ローザからすれば、時間は社会を分析する切り口であり、時間を社会批判の出発点とすべきである。

ローザは時間の社会学的視点から「加速化」を研究し、以下の5つの論点を提起した。まず、時間が深刻に不足している。科学技術の発展の加速は、私たちのために時間を節約し、私たちの労働圧力を軽減し、私たちの労働時間を短縮し、私たちがより良い生活を得るようにすべきだ。しかし現実には正反対で、私たちはレジャーや生活の質を改善するための時間をもっと得ることができなかつただけでなく、時間が足りない状況に陥った。次に、時間の加速化はほとんどすべての社会集団に運用されているが、それによって作業環境が改善され、社会資源が豊富になったわけではない。例えば「カウントダウン」は一種類の時間制度として一般的に採用されており、「時間管理術」は現在の社会で誰もが身につけなければならないスキルとなっている。三つ目に、時間は現代社会において再分配制度の中心的な位置にあることがあげられる。すべての社会は権力、地位を含む社会の資源と富を配置し、調整するための正当で合理的な分配制度を持っているが、加速化している現代社会において速度や効率、すべての分野の最も主要な分配のルールとなっている。四つ目に、科学技術、社会、生活リズムの加速により、私たちは焦慮に駆られることがある。なぜ私たちはいつも時間が足りないと思うのか。なぜ私たちはいつも止まったらすぐに他の人に追い越されると思うのか。最終的に、現代の時間体制は人間と世界との関係を徹底的に変えた。私たちはますます個人の生命時間と私たちが置かれている歴史的な時間を意味的に連結することができなくなり、自己と世界の関係が歪んで変形していく。

21世紀に入ってから、科学技術は飛躍的に進歩し、私たちの周りのすべてを変え続けている。たとえば、電子メールが手紙の代わりになったり、SNSが通信方法を変えたり、「Uber Eats」が食習慣を変えたりするなどである。インターネット、5G、ビッグデータ、AIなどの科学技術はより速く、より便利で、より正確な方向に発展している。科学技術は私たちに速度と効率を与えながら私たちに反噬して疎外感を感じさせる。この加速化の時間体制は、人と社会の歪んだ相互作用と、歪んだ自己性主体性をもたらした。その結果、人間が世界に投げ込まれた方式が変化し、人間の世界での移動方式も、自身の方向を確立する方式にも変化している。

現代中国では、中間層と下層階級の若者世代は、社会加速化による結果の直接的な受け手といえる。「横たわり主義」というライフスタイル、つまり受動的あるいは能動的に社会加速化から脱出することは、加速化を抵抗するため、ギデنزが言う「存在論の安心」を確保する戦略である。しかし、若者世代の社会における階層の違いにより、持つ社会資源が異なり、加速化に対抗する戦略にも大きな差があった。

本研究の研究対象である三和ゴッドに話を戻す。三和ゴッドのライフスタイルから、競争を放棄し、徹底的に横たわり、徹底的に自墮落するという極端な抵抗策が見られる。前節に述べたように、彼らの多くは遠隔農村から来ており、現地の経済状況が悪く、資源が不足しており、良質な教育を受ける条件がないため、全体的に低学歴になっている。都市で出稼ぎをした後、周りの環境は大きく変化したが、労働力を除いて、彼らの持つ社会資源はゼロと言えるだろう。そのため、彼らは労働力を売り、工場ライン作業の仕事と日雇い仕事に従事してこそ、大都市で生きていくことができる。第五章では、三和ゴッドが連接特定力により、自分のハビトゥスや外部構造を反省した後、工場や仲介の搾取や階層移動の不可能さを洞察してきたことを述べた。労働に縛られ、圧迫されないように、彼らは次々と工場から逃げ、極めて劣悪な環境の安宿やネットカフェを宿泊先に選び、「一日働ければ三日遊べる」の日雇い仕事に従事している。彼らはわずかな給料で、自分の消費意欲を最小限に抑え、すべての所持金を使い果たしたら、また日雇い仕事を探しに行く。一日の日雇い仕事を終えてから、「横たわり主義」を続ける。三和ゴッドは工場でのライン作業の束縛から能動的に抜け出し、急速に発展した都市生活から能動的に離れ、独自の「反工場文化」を築いたようだが、実は彼らは加速化社会の中で最も無力を感じている人たちだと言わざるを得ない。現代の加速化社会の中で、最も影響を受けて最も強く感じられている人たちは、社会底辺層の人たちである。社会の加速化に対抗する能力がないため、社会底辺層の人たちは現代社会に残酷にも排除されたのである。



## 謝辞

本論文を執筆するにあたり、指導教員の丹野清人先生、社会学教室の和田清美先生、左古輝人先生、玉野和志先生から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。心より感謝申し上げます。そして、論文のネイティブ・チェックのチューターである鈴木颯太先輩のことも深く感謝申し上げます。

2021年12月

周稷陽

東京都立大学 人文科学研究科

社会行動学専攻 社会学教室

## 参考文献

### 1. 中国語資料

- 保羅·威利斯, 2013, 『学做工: 工人阶级子弟为何继承父业』北京: 译林出版社
- 陈微, 2008, 「需求的跌落—第二代农民工培训需求与培训供给分析」『当代青年研究』(12).
- 邓大才, 2008, 「农民打工: 动机与行为逻辑」『社会科学战线』(9).
- 哈特穆特 罗萨, 2018, 『新异化的诞生: 社会加速批判理论大缸』, 郑作彧译, 上海: 人民出版社
- 黄鋈, 2009, 「深化户籍制度改革与农民工市民化」『城市发展研究』16(2):97-104.
- 简新华·黄鋈, 2008, 『中国工业化和城市化进程中的农民工问题研究』北京: 人民出版社
- 纪韶·李舒丹, 2010, 「城市化进程中农民工生活方式的转变—以北京市为例」『广东社会科学』(4).
- 刘林平·王茁, 2013, 「新生代农民工的特征及其形成机制—80后农民工与80前农民工之比较」『中山大学学报』(社会科学版)(5):136-150.
- L. J. 宾克莱, 1983, 『理想的冲突—西方社会中变化着的价值观念』北京: 商务印书馆: 23-24.
- 刘俊彦·吕鹏, 2007, 「中国新生代农民工发展状况及代际对比研究报告」中国青少年研究中心『专题研究报告』(9).
- 刘博, 2008, 「农民工生活方式的转变与社会身份的缺失」『重庆社会科学』(10).
- 李若建, 2002, 「户籍制度改革对深圳市人口管理的影响与对策」『广东社会科学』(5):139-143.
- 孟庆洁, 2007, 『上海市外来流动人口的生活方式研究』上海: 华东师范大学.
- 田丰·林凯玄, 2020, 『岂不怀归: 三和青年调查』北京: 海豚出版社.
- 吴漾, 2009, 「论新生代农民工的特点」『东岳论丛』(8):57-60.
- 王春光, 2001, 「新生代农村流动人口的社会认同与城乡融合关系」『社会学研究』(3).
- 吴鹏森, 2008, 「第二代农民工犯罪: 概念辨析与解释模型」『山东警察学院学报』(4).
- 王珊, 2016, 「工业化背景下新生代农民工问题研究」『淮海工学院学报』(人文社会科学版)(12).
- 王玉波·王雅林·王锐生, 1989, 『生活方式论』上海: 上海人民出版社: 12-14.
- 谢建社, 2010, 「融城与逆城: 新生代农民工的两难选择」『广州大学学报』(社会科学版)(2):33-39.
- 谢建社, 2011, 『新生代农民工融入城镇问题研究』北京: 人民出版社.
- 张广济, 2010, 「吉林省新生代农民工生活方式调查—以长春市为例」『吉林省教育学院学报』(10).
- 郑作彧, 2018, 『社会的时间: 形成、变迁与问题』北京: 社会科学文献出版社

### 2. 日本語資料

- 青木秀男, 2000, 『現代日本の都市下層—寄せ場と野宿者と外国人労働者』明石書店.
- ブルデュー, P, 1988, 『実践感覚』1, 今村仁司他訳, みすず書房.

- 江口英一, 1979, 『山谷—失業の現代的意味』 未来社:まえがき.
- 袁帥, 2015, 「中国社会における草の根 NGO の課題と可能性—北京市での農民工支援にみる「市民意識」の覚醒にかんする考察—」 『国際文化研究紀要』 (22):57-80.
- Girth, H, H, and Mills, C, W, 1946, *From Max Weber*, Oxford University Press, (H. ガース・W. ミルズ共著、山口和男・犬伏宣宏共訳, 1962, 『マックス・ウェーバー』 ミネルヴァ書房:153-154).
- 原口剛, 2016, 『叫びの都市 寄せ場、釜ヶ崎、流動的下層労働者』 洛北出版.
- 井関利明, 1975, 「「生活者」志向経営とライフ・スタイル研究」 村田昭治・吉田正昭・井関利明編 『ライフスタイル発想法—新しいマーケティングの技法—』 ダイアモンド社:302.
- 井口知栄, 2014, 「ナショナル・イノベーション・システムとグローバル・バリュー・チェーンへの多国籍企業子会社の役割:在フィリピン日系多国籍企業の事例を中心にして」 『三田商学研究』 56(6): 33-46.
- 磯村英一, 1954, 『社会病理学』 有斐閣.
- 伊藤賢一, 2016, 「批判理論としての社会的加速化論—ローザ理論の射程」 『社会学史研究』 38:25-40.
- 季増民, 2015, 「中国における「農民工の市民化」の推進と課題」 『奈良県立大学研究季報』 25(2):81-106.
- 加藤佑治, 1987, 『現代日本における不安定就業労働者』 御茶の水書房.
- 倉田良樹, 2011, 「構造化理論から知識の社会学へ(2)」 『一橋社会科学』 (3):1-24.
- 窪田光男, 2019, 「留学とハビトゥスの再構成:新しい行動や思考様式、嗜好、感じ方の身体化」 『コミュニカーレ』 (8):21-24.
- 侯祺, 2017, 「中国における「農民工」の歴史的変遷と農村の貧困調査」 『名城論叢』 (18):89-147.
- 連興檣, 2015, 「中国における都市化と移住者の重層的展開—広東省深圳市を中心として—」 神戸大学博士論文甲第 6364 号.
- 李坤剛, 2017, 「新世代農民工、その特徴と課題」 『招聘研究員レポート』 労働政策研究・研修機構(10):74-76.
- 劉江橋, 2014, 「中国農民工の労働・生活と差別・不平等」 金沢大学博士論文甲第 4223 号.
- 劉倬帆, 2017, 「ギデンズの構造化理論に関する批判的再検討」 首都大学東京修士論文.
- 中根光敏, 2006, 「失われた光景から—寄せ場とは何だったのか?」 『不埒な希望—ホームレス/寄せ場をめぐる社会学』 松籟社:19-55.

仁平京子, 2004, 「ライフスタイル概念における社会学・心理学的特質とマーケティング的特質」  
明治大学大学院商学研究論集: 414.

村井重樹, 2017, 「分化した社会におけるハビトゥス—ライールのブルデュー批判を手がかりに」  
『日仏社会学会年報』(28):55-73.

大橋薫, 1953, 「Social Disorganization Approach について」『社会学評論』12(3).

塚本隆敏, 2010, 『中国の農工問題』東京:創成社

立花英裕, 2012 「ピエール・ブルデュー『アルジェリアの社会学』をめぐって: 1950年代の社会学と反植民地主義」『青山総合文化政策学』4(2), 181-197.

田辺繁治, 2002, 「再帰的人類学における実践の概念—ブルデューのハビトゥスをめぐり、その彼方へ」『国立民族学博物館研究報告』26(4):533-573.

トフラー, A, 1982, *The Third Wave*, Bantam Books. 徳岡孝夫訳, 『第三の波』中公文庫

トム・ギル, 1998, 「マージナルな男たちの比較研究: 日本の寄せ場、アメリカのスキッド・ロウ」  
『人間・文化・心: 京都文教大学人間学部研究報告』(2):37-52.

氏原正治郎・江口英一, 1956, 「都市における貧困の分布と形成に関する一資料」東京大学社会科学研究所『社会科学研究』8(1), 有斐閣.

### 3. 英語資料

Archer, M, S, 1982, “Morphogenesis versus structuration: on combining structure and action”, *British Journal of Sociology*, 33(4):455-483.

Archer, M, S, 1995, *Realist social theory: the morphogenetic approach*, Cambridge: Cambridge University Press.

Bourdieu, P, 1977, *Outline of a Theory of Practice*, Cambridge: Cambridge University Press.

Bourdieu, P, and L, Wacquant, 1992, *An Invitation to Reflexive Sociology*, The University of Chicago Press. (水島和則訳, 2007, 『リフレクシヴ・ソシオロジーへの招待——ブルデュー、社会学を語る』藤原書店).

Chan, 2010, “Childhood obesity in transition zones: an analysis using structuration theory”, *Sociology of Health & Illness*, 32(5):711-729.

Cohen, I, J, 1989, *Structuration theory: Anthony Giddens and the constitution of social life*, Basingstoke: MacMillan.

Duncan, H, D, 1969, *Symbols and Social Theory*, New York: Oxford University Press:32-35.

Edwards, T, 2006, Book Review: “Developments toward the operationalization of structuration theory” , *Organization*, 13(6):911-913.

Giddens, A, 1976, *New Rules of Sociological method: A Positive Critique of Interpretive Sociologies*, Hutchinson.

Giddens, A, 1979, *Central problems in social theory: Action, structure and contradiction in social analysis*, London: MacMillan.

Giddens, A, 1984, *The constitution of society: Introduction of the theory of structuration*, Berkeley, CA: University of California Press.

Giddens, A, 1999, *Runaway World*, Profile Books: 2-4.

Gregson, N, 1989, “On the (Ir)relevance of structuration theory to empirical research. In D. Held & J. B. Thompson.” *Social theory of modern societies: Anthony Giddens and his critics* Cambridge: Cambridge University Press:235-248.

Mouzelis, N, P, 1991, *Back to sociological theory: the construction of social orders*, London: MacMillan.

Neuman, W, L, 1997, *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches*. Boston Allyn and Bacon:7.

Parker, J, 2000, *Structuration*, Buckingham: Open University.

Parker, J, 2006, “Structuration’s future? From ‘all and every’ to who did what, where, when, how and why” , *Journal of Critical Realism*, 5(1):122-138.

Schutz, A, 1967, “The Stranger: An Essay in Social Psychology” in: *Studies in Social Theory*, edited and introduced by Arvid Brodensen, pp.91-105, The Hague: Martinus Nijhoff. (渡部光・那須壽・西原和久訳, 1991, 『アルフレッド・シュッツ著作集 第3集 社会理論の研究』 マルジユ社).

Sewell. Jr, W, H, 1992, “A theory of structure: duality, agency, and transformation” , *The American Journal of Sociology*, 98(1):1-29.

Stones, R, 2005, *Structuration theory*, Basingstoke: Palgrave MacMillan.

Weber, M, 1948, *Class, status and party*[M], New York: Oxford University Press:181-191.

Willis, P, 1977, *Learning to Labour*, Gower. (熊沢誠・山田潤訳, 1985, 『ハマータウンの野郎ども』 筑摩書房).

Wirth, L, 1983, “Urbanism as a Way of Life” , *American Journal of Sociology*, (44):3-24.